



中國古事記

13
2471



2471

大定

美喜

中國太平記卷之第一

目錄

赤松家系圖

赤松家來由

附 播州佐用地頭職事

赤松家三個國守護職事

性尊坊還俗 附 赤松家再興事

赤松才松丸政則遺跡相續

附 浦上掃部助村宗權威事

赤松家系圖

赤松家系圖

赤松家系圖

赤松家系圖

久米近氏クメノチカ 饗應浦上掃部助ウケオウノハタケモリノサマ

附 胡蝶事コノテウカ

浦上村宗ウラノカミムネ 奪胡蝶事ウバフコノテウカ

上カブサ 總介政村浦上カブサノサマシマツネノサマ 誅伐計略事チツバツケイリョクノコト

上カブサ 總介政村松山カブサノサマシマツネノサマ 癸向ハツナラシ

附 向岡大磯窪落城事ムカヒガシカノオオイソノボラクノコト

東條又太郎八田小野寺以下トウジョウマタタロウハチノノノノ 苦哉クサイ

並 寬藏坊カウソウノボ 勇力事ユウリキノコト

赤松家世系圖

人皇六十二代

村上天皇ムラノカミ

諱成明ミナモトノサダアキラ 第七皇子ナナノミコ 具平親王ツケヘノサトウ 後中書王ノチノナカノカキノミヤ
醍醐天皇タシロノカミ 第十四皇子ヤウジウノミコ 能書ノカキ

師房シロウ

土御門ツチミカド 右大臣ミナモトノサマ

顯房ケンロウ

号六條ノボロ 右大臣ミナモトノサマ

雅實ヤノサト

号久我キウガ 大政大臣オホマツリノサマ

雅定ヤノサだ

久我左大将キウガノサマ 号中院右大臣キウガノサマ

頭道カウチ

明雲アカリクモ

大僧正オホソウジヤウ 天台座主テウタイノサマ

定房 大納言

定忠 左少将

師季 正三位
左中将

季房 從三位
被配流播州佐用
庄赤松谷

季則 源大夫

頼範 播磨守
山田入道

則景 ^{太郎} 宇野播磨權守
仕右大将頼朝卿

家範 左衛門尉

爲助

久範 赤松左衛門尉

頼景

光頼 太田太郎

將則 宇野祖
新太夫

景盛 上月祖
次郎

爲頼

有景 櫛田祖
八郎

景俊 江見又次郎

忠頼 彦四郎

茂範 号赤松
太郎

家則 次郎

則村

赤松次郎入道圖心 号月潭
初應後醍醐天皇之勅奉義兵後屬下將軍尊氏卿父子相共勵於數度之忠戰為恩賞賜播磨備前養作三个国之守護職

忠家

号本間

季忠

季利

号上板

蒲村

從五位下
淡路守

女子

佐用兵庫助
範家母

教政

治部少輔
号松翁院

範資

左衛門尉
信濃守

元久

藏人

貞範

号入道世貞
筑前守
雅樂頭

政資

刑部太輔

則祐

律師妙善
自号天寶
林寺

則勝

掃部助

氏範

彈正少弼
大力量人

義村

範貞

光範

大夫判官

女子

字野能登
守国頼室

朝則

有田肥前守

師範

号廣瀬
近江守
宮内少輔

直頼

母佐々木入道
道譽女
号本郷
掃部助

則春

号端山
掃部

則弘

号廣岡
刑部少輔

則繩

号永良

則遠

越前守

則久

式部太輔

種則

顯則

筑前五郎

世貞

播磨介

重範

筑前守

浦貞

出羽守

持貞

伊豆守

貞村

伊豆守

教祐

上総介 大膳太夫

義則

實佐々木頼綱子

清則

左馬助

於内野討死

義祐

出羽守

則親

土佐守

持負

越後守

成則

信濃守

則賴

左馬頭

家貞

中務少輔

祐秀

滿範

持祐

上野介

祐利

持彥

治部少輔

持家

兵部少輔

滿政

長次郎

若松丸

與父同自害
五歲

乙松丸

同死二歲

元家

政顯

滿祐

元京太夫入道性具
執公方義教
於白旗城滅亡

則友

出羽守

則繁

入道性道

浦元

亥五郎
常陸介

則尚

亥五郎

義雅

伊豫守

政則

始出家後還俗
左京大夫

政村

入道常印

晴政

始政祐
賜晴字
義晴公
左京大夫

女子

政村室

義祐

上総介

中國太平記卷之第一

洛下

馬場玄隆信意輯錄

赤松家來由

附播州佐用地頭職事

情家ノ奥亡國ノ治乱ヲ考フルニ文武ハ身ノ兩翼ノゴトク。民ヲ惠ムニ仁ヲ以シ衆ヲ使フニ義ヲ以シ。士ヲ撫ルニ礼ヲ以シ。鄰國ト交ハルニ信ヲ以スルトキハ。其家業久ニシテ子孫安寧ナリ。此理ニ戾ツテ文ヲ忘レ武ヲ疎カニスルトキハ。其威嚴重ナル大家ト云ヘドモ終ニハ必滅亡ニ及ベリ。茲ニ播州赤松家ト申スハ。人皇六十二代。村上天皇ノ後胤ニシテ。世ニ所謂村上源氏是ナ



大正六年一月十一日
本校出版部氏贈

此天皇ノ第七ノ皇子ヲ。一曰中務卿具平親王
ト号ス。能書ノ譽レ坐シテ。今ノ世マデモ後中
王ト申スハ是ナリ。中倉主ノ曾孫ヲ。大政大臣雅
實公ト号ス。是久我中院六條千種等ノ元祖ナリ。
其御子。中院右大臣雅定公。其子大納言定房卿。其
子ヲ左少將定忠朝臣ト号ス。其孫從二位季房卿。
去子細アツテ。播磨ノ国体用庄赤松谷ニ配流セ
ラレ。是ヨリ子孫播州ニ蟄居セリ。季房ノ曾孫則
景。播州宇野ヲ領シ。幽カナル躰ニ居タリケルガ。
右大将源頼朝卿。平家ヲ追伐シ。相州鎌倉ニ安座
シ玉ヒシニ。則景鎌倉ニ下向シテ。頼朝卿ノ自北

條遠江守平時政ガ縁者トナレリ。此好ミヲ以テ。頼
朝卿ノ恩顧厚ク。建久四年七月。播州佐用庄ノ地
頭職タルベキ旨。右大将家ノ御下文ヲ賜ハリ。始
メテ家ヲ興シ。宇野播磨權守則景トゾ号シケル。
其子家範。其子久範。其子茂範。其子家則。其子則村。
ニ至ルマデ。相續テ鎌倉ノ北條家ニ仕ヘテ。左ノ
ミ威勢モナカリケリ。則村ハ赤松次郎ト称ジケ
ルガ。後入道シテ圓心ト号ス。先祖ニ勝ツテ武勇
ニ長ジ。離倫絶類ノ譽レアリシカバ。國中是ヲ養
談セリ。圓心ニ男子余多アリ。嫡男左衛門尉範資。
次男雅樂助負範。三男八比叡山ニ登セ。法師ニナ

中興平言 卷之十一
シテ。師律師則祐トゾ号シケル。然ルニ則祐山徒ノ身トシテ。顯密ノ二教ニハ心ヲ付ス。吳子孫子カ道ヲ好ミ。六韜三略ヲ学ビ。太刀打早業二月月ヲ送り。勇力又世ニ超タリ。四男彈正少弼氏範。其比ハ未ダ幼少ナリト云ヘドモ。早三四人カモアリケルガ。成人ノ後。大力量ノ誉レ天下ニ顯ハレ。双ブ者更ニナカリシナリ。然ルニ人皇九十五代ノ帝後醍醐天皇王法ノ衰ヘシコトヲ歎キ思シ召レ。録倉ノ北條相摸守高時入道宗鑑ヲ攻滅ボシ。永ク帝位ヲ四海ニ曜サント思シ召シ。關東征伐ノ秘計ヲゾ巡ラサレヒケル。相州禪門此コト

ヲ傳聞。頓テ隱岐ノ国ヘ流シ奉ル。此君ノ皇子大塔官尊雲親王ハ。天台座主ニテ坐セシガ聰明睿智ニ御坐スノミニアラス。武勇ニサヘ長ジサセ玉ヒシユヘ。此災ヲ遁レサセ玉ハンタメ。密カニ比叡山ヲ御出アツテ。南山ニ分途ハセ玉フ。此トキ圓心入道ガ三男。師律師則祐モ官ニ隨從シ奉リ。無二ノ忠心ヲ顯ハセリ。尤ルニヨツテ則祐ガ父。圓心モ官ノ令旨ヲ賜ハツテ。官軍ヨ屬シ。落繩ノ城ニ楯籠ル。河州ニハ楠正成金剛山ニアツテ。威ヲ遠近ニ震ヒ。勢ヒ京洛ヲ吞ム。此トキ天皇悉ンテ隱岐ノ国ヲ出サセ玉ヒ。名和又太郎長高

後勅命ニヨツテ頼マセ玉ヒ。伯耆ノ船上ニ楯籠
テ長年ト改ムヲ頼マセ玉ヒ。播州ヲ打テ出。嫡
ヲセ玉フ。此トキ圓心氣ニ乘テ。播州ヲ打テ出。嫡
子左衛門尉範資次男雅樂頭貞範。三男律師則祐
等ト相共ニ撰州免原郡佛母摩耶山忉利天上寺
ニ登ツテ。此所ヲ城郭トス。其トキ京都六波羅ノ
多勢寄来リシニ。赤松兄弟大ニ苦戦シ。逃ルヲ追
テ攻上ル。時ニ足利尊氏討平ノ大将トシテ。關東
ヨリ上洛セラレケルガ。忽心變リシテ。官軍ニ属
セラル。赤松入道圓心大ニ氣ヲ得テ。足利家ニ懸
シ合セ。終ニ六波羅ヲ攻落ス。此トキ東国ニハ。新
田義貞上野ヨリ起ツテ。鎌倉ニ乱入シ。北條一家
ヲ攻滅ホス。是ニヨツテ後醍醐天皇伯州船上ヨ
リ花落ニ還幸アツテ。公家一統ノ御世トナレリ。
此トキ京都ノ逆徒六波羅ヲ攻落セシコト。偏ニ
赤松父子ノ戦功ニヨル者ナリ。

赤松家三ヶ国守護職事

期テ天皇都ニ還幸ナラセ玉ヒ。日本六十余州悉
ク玉化ニ從ヒシカバ。諸大将ニ恩賞行ハレテ。足
利治部卿尊氏同舍弟直義。新田義貞舍弟義助。楠
正成。名和長年以下。大國二ヶ国。三ヶ国。功ノ浅深
ニヨツテ。恩賞ヲ行ハセ玉フ。然ルニ赤松圓心父
子。莫太ノ忠切ヲ励ミシカドモ。讒人傍ニアツテ。

眞ヲ乱セシカバ。一旦宛行ハレシ。播磨ノ国ノ守
護職ヲ召放タレ。佐用ノ庄一所ヲ賜ハリシカバ。
赤松父子骨髓ニ徹ツテ君ヲ恨ミ奉レリ。係ルル
ニ足利尊氏。新田義貞確執ニ及ビケルガ。終ニ尊
氏敵慮ニ逆キ。天皇ニ向ツテ子ヲ挽ル。赤松父子
鬱憤ヲ散センタメ。足利家ノ幕下ニ属シ。無二ノ
忠戰ヲ励マル。足利家終ニ天下ノ權ヲ執テ。月
本ノ武將トナリ玉ヘルコト。偏ニ西国ニ沉落シ
玉ヒシ節。赤松父子ノ忠功ニヨツテ。再ビ飯洛シ
守護職ニ補ヒラルレ。是ヨリ赤松家ノ繁栄日々ニ

盛ンナリ。中ニモ師律師則祐文武ノ才ニ勝レテ。
威權尤甚クシ。其子ヲ廣瀬宮内少輔師範ト号ス。
母ハ江州ノ守護佐々木佐渡判官入道々譽ガ女
ナリ。父ノ則祐ト云ヒ外祖父ノ道譽ト云ヒ。共ニ
天下ニ威ヲ震ヒシカバ。師範モ威權益ス盛ンナ
リ。其子上総介義則足利家三代ノ武將鹿室院義
満公ニ仕ヘ。山名氏清ガ謀叛ノトキ。無二ノ忠戰
ヲ勵ム。此合戦ノ勲功ニヨツテ。莫太ノ賞ヲ報セ
ラレ。繁昌又日比二十倍ス。其家嫡左京大夫満祐
後入道シテ性具ト号ス。是又武勇ノ譽レアルノ
ミナラス。文道ニ達セシユヘ。世以テ楠正成以後

ノ名將ナリト稱ゼシカバ。威權出ル日ノゴトシ。
浦祐已ガ勇才ニ慢ジ。上ヲ悔リ君ヲ恨ミ。其トキ
ノ將軍普廣院義教公足利家六代ヲ謀リ。己ノ亭
宅ニ渡御ヲ申請嘉吉元年六月二十四日。アエナ
クモ公方義教公ヲ討參セ。本国播州ニ逃下リ。自
旗ノ城ニ楯籠ル。其トキ公方家ノ一族譜代ノ諸
大名大ニ怒リ。播州ニ攻下リ。自旗ノ城ヲ攻落ス。
浦祐入道性具ヲ始メ。嫡子彦次即教祐幼息若松。
乙松以下。一族家ノ子即等以下。悉ク自害シテ。赤
松家滅亡ニ及ビシカバ。但馬ノ国ノ領主山名金
吾入道宗全ニ播州ヲソ賜ハリケル。

性傳坊還俗 附赤松家再興事

赤松家既ニ断絶ニ及ビシカバ。譜代恩顧ノ者共。
何トゾシテ再ビ赤松ノ家ヲ興スベシトテ。京都
ノ公方慈照院義政公足利家八代目ノ公ニ歎訴
セシカバ。義政公許容坐シ。浦祐コソ逆臣夕ラメ。
累代忠功ノ家ヲ。永ク断絶セサセンモ如何ナリ
トテ。浦祐ガ舍弟常陸介祐之カ一子彦五即則尚
トテアリケルヲ召出サレ。赤松ガ名跡相續トシ
テ。出仕バカリハ免許アリシカドモ。舊領安堵本
国還住ノ沙汰ハナカリケリ。彦五即則尚猶モ無
念ノコトニ思ヒ。累代ノ郎等共ヲ相催シ。押テ播

州ニ乱入ス。山名入道宗全大ニ怒リ。赤松カ陸室
 津へ押寄相戦ヒ。則尚ヲ攻亡ホシ、シカバ。赤松
 家又断絶ニ及ビケリ。然ルニ滿祐カ會弟。伊豫守
 義雅ガ子ニ。二即法師九トテ未夕幼少ノ男子ア
 リシヲ。義雅兄滿祐ト同死ノ後。即等石見太郎左
 衛門尉忍シテ京都ニ連上リ。東山建仁寺ノ天隱
 和尚ノ弟子トナシ。性尊坊勝岳トゾ号シケル。然
 ルニ石見太郎左衛門尉忠臣ノ節義ヲ守リ。一命
 ニ変テ。赤松家ノ重子テ與サンコトヲ思ヒ。三條
 内大臣重量公ニ便リ。謀ヲ巡ラシテ。南帝ヲ計リ。
 神聖ヲ奪ヒ取り奉リ。都へ還シ入レ奉ラセケリ。

是莫太ノ忠ナレバトテ。三條重量卿種々執奏シ
 玉レシユヘ武家へ勅定ナレ下サルハ。是ニヨツ
 テ將軍義政公。急ギ赤松義雅ガ子ノ法師ニナリ
 テ。建仁寺ニ性尊坊トテ居ケルヲ召出シ。還俗ナ
 サシメ。公方家諱ノ政ノ字ヲ賜ハツテ。赤松左京
 太夫政則トゾ号セラレケル。其上時ノ管領細川
 右京太夫勝元ガ聳ニナシテ。富樫介成高カ一跡
 加賀半国。并ニ伊勢ノ高官。庄出雲ノ宇賀。庄備前
 ノ新田。庄ヲ恩賜アル。然ルニ政則文武ノ才ニ富
 テ。其凡無双ノ良將ト呼レシカバ。舅細川勝元ガ
 權ヲ借テ。播磨ノ国ニ還住センコトヲ相計ル。播

州ノ守護山名入道宗全大ニ憤リ終ニ細川勝元
ト不快ニナリ。應仁ノ太乱出来レリ。其後政則終
ニ先祖ノゴトク。備前播磨赤作。三个国ヲ領シ。其
上義政公ノ御子。足利家九代ノ公方。常德院義尚
公ノ執事トナリテ。位従三位ニ叙シ。威ヲ海内ニ
震ハル。是赤松家ノ中奥ニシテ。先祖ニモ例シ
ナキ威權ナリシガ。明應四年四月二十五日。四十
二歳ニテ病死セラル。性善院ト追号シ。國中ノ諸
人惜ミ悲マズト云フ者ナシ。

赤松才松丸政則遺跡相續附浦上村宗權威事
去程ニ左京太夫政則計ラズモ病ニ犯サレ卒去

セラレ。女子計リニシテ男子ナカリシカバ。家ノ
子即等國中ノ民百姓ニ至ルマテ。只中流ニ楫ヲ
絶暗夜ニ燈ヲ失ヒタル心地シテ。孩兒ノ母ヲシ
タフガゴトク。泣悲ムコト限リナシ。茲ニ當家ノ
先祖入道圓心ノ嫡男。左衛門尉範資ガ後胤アリ。
範資ガ子ヲ淡路守浦村ト号ス。其子治部火輔教
政。其子ヲ藏人元久ト云ヘリ。是幸ニ當家ノ嫡流ナ
レバトテ。政則ノ家ノ子即等相議シテ。藏人元久
ノ子息才松丸ヲ招キ。政則ノ遺跡ヲ相續セサセ。
政則ノ息女ニ嫁セ。執事浦上赤作守則宗。三个国
ノ政道ヲ執行ヒ。武威嚴重ニシテ。諸士ニ礼ヲ厚

フシテ。賞罰明カニ民ヲ撫アハレシカバ。諸人
万歳ヲ唱フ。去レバ此上キ世上争乱シテ。互ニ彼
ヲ討是ヲ攻テ。国々ニ跨リ所々ニ割居シテ。戦ハ
サル処ナシト云ヘドモ。隣国ノ諸候モ亦上ガ威
名ニ怖レ。敢テ指ヲサス者モナカリケリ。才松丸
元服シテ。上總介政村ト号セラレ。其後長臣浦上
兼作守則宗病死セシカバ。其子掃部助村宗父ガ
遺跡ヲ相續シテ。赤松家ノ執事ト号シ。万事雅意
ニ任セテ。挙動シカバ。国主政村ハ名討リニテ。ア
ルモナキガゴトクナリ。是ニヨツテ三ヶ国ニア
ル処ノ国人譜代恩顧ノ輩ハ云ニ及バス。赤松家
ノ一族三十六家ノ者共マテ。多クハ浦上カ方ニ
出仕ンテ。門前ニ市ヲナシ。肥馬ノ前ニ塵ヲ拂フ。
人間ノ盛衰世ノ轉變。今ニ始メサルコトハ。ハ云
ナガラ。終ニ榮枯地ヲ変ル方見シカリシ。復共ナ
リ。是ニヨツテ太将上總介政村。内々安カラス思
ハレシカドモ。今浦上ガ威權盛ンナレバ。如何ト
モスベキヤウナク。憤リヲ抑ヘテゾ。居玉ヒケル。
久米近氏饗應浦上掃部助。附胡蝶事
茲ニ上總介政村ノ寵臣ニ。久米十郎左衛門尉近
氏ト云フ者アリ。政村渠ヲ愛シ。昼夜傍近ク招キ。
心置ナクセラレケルガ。近年都ヨリ呼登セラレ

タル。胡蝶ト云ヘル。妾ヲ竊カニ近氏ガ許ニ預ケ
 置テ折々ハ行通ヒ玉ヒケリ。然ルニ其比久米十
 郎左衛門尉執事浦上掃部助ニ云ヒ談スベキコ
 トアリテ。村宗ガ白子町ノ宿所ニ至リケル処ニ
 只今珍客候ヘバトテ對面セズ。久米モ急ニ談セズ
 シテハ叶ヒガタキ。夏ナリシユヘ。翌月又至リケ
 ルニ。今日ハ風氣ニ候トテ出合ス。次ノ日又至リ
 ケルニ。今日ハ朝ヲナサレ候テ。掛リニ御入候ガ
 只今最中ニテ候ナリ。明月御入り候ベシトテ。飯
 シケリ。十郎左衛門尉近氏大ニ怒リ憤リ。當時某
 大将上總介殿ニ。昵近シ。國家ノ政事マデモ。口ハ
 スル程ノ近氏ナレバ。三ヶ國ノ諸士。某ガ心一
 ハン。夏ヲ思ヒ。媚誦ハントコソスルニ。浦上如何
 ニ執事職ナレバトテ。某ヲ斯マテ。侮リ輕ニスル
 コソ。安カラ子古ノ周公且。輔ヲ吐キ。髮ヲ握ツテ。
 客ニ對面シ玉ヒシトコソ聞シニ。浦上其程ニハ
 ナク。トモ。爭カ。某ヲ三日マテ。門内ニハ立スベキ。
 如何ニモシテ。村宗ヲ滅ボシテ。此。爵。憤ヲ散セン
 ト。思ヒ居シガ。深ク思慮ヲ。巡ラシテ。曾テ色ニハ
 頭ハサズ去リケナクモテナシケルガ。折ヲ見合
 也。其後程經テ。浦上ヲ招キ。饗應善クシ。養。及。シテ。
 酒。酣ニ及ビテ。後久米。浦上ガ。膝本ニ居寄リ。今夜

モテナシニ御目ニカケ申スベキ者コソ候ヘ
ト云ヘバ。村宗聞テ列ノ物ズキノ茶ノ具又ハ花
生ノ類ニヤト問フ。イヤ花ニハ候ハズ。扱ハ墨跡
カ。イヤ花ニモ候ハス。扱ハ心得タリ。名馬良叙ノ
類ヒヨナフ。イヤ凡慮ノ及ブヘキ者ニ候ハスト
云フ。村宗セイテ。嗚呼全輪シ早々語リ玉ヘト云ヘ
去レバトヨ。主君上總介殿近幸都ヨリ。容色無
双ノ女ヲ招下シ。其ガ許ニ預ケ置シ。折々ノ慰物
トナシ玉ヒシガ。御存ノゴトク。御心ノ浅々シク。
思ヒ定メノ坐サヌユヘニ。早晩シカ御心ノ秋風
ニ。千種ノ花モウツロヒテ。通ヒ玉ヒシ道芝モ今

ハ拵々トナリ果テ候ヘバ。定メテ暇ヲ遣ハサレ
都ヘ飯シ玉ハントコソ覚ヘテ候ヘ。其ユヘ此女
房モ殿ヲ恨ミ。明暮引籠リ居候今夜ノ響應ニハ。
身ヲ呼出シテ。一奥催シ候ハントテ。彼胡蝶ヲ
出ス。其齡二十ハカリト覚シクテ。容貌ウルハシ
ク。云フハカリナクアテヤカニ芙蓉丹花ノ養質
ヲソナヘテ。繪ニカクトモ筆ニモ及ビカタシ。主
ノ近氏一曲ヲト望ミシカバ。胡蝶頓テ立テ舞フ
浦上目モアヤニ打詠メ。心モ怛然トシテ。知ラズ
魂モ此女ノ袖ニヤ入リヌラント。怪レキマデニ
思ハレケリ。斯テ数遍ノ盃ニ夜モイタフ更ケレ

ハ。浦上ハ現心ナク沉醉シ。漸々眼ヲ告テ飯リケ
リ。是ヨリ浦上彼胡蝶ヲノミ思ヒ忘レス。引籠リ
伏居シガ。四五日ヲ経テ後久米十郎左衛門尉ガ
方へ使ヲ遣ハンテゾ招キケル。

浦上村宗奪胡蝶事

去程ニ浦上村宗が使久米ガ方ニ来リシカバ。近
氏初ハ我内々ノ計略ニ隔リタルニコソト獨笑
シテ。村宗ガ宿所ニ至ル。浦上悦ビ竊ニ久米ヲ奪
所ニ招キ。傍ナル人ヲ退ケ。小菴ニナツテ申ケルハ。
此程ノ御モテナシニ。珍ラシキ者ヲ見セラレ候シ
レ程ニ。アラヌ病ノ付テ候如何シテカハ本意
ベキ。偏ニ貴殿ノ療治ニテナクシバ。叶フマジト
云フ。近氏聞テ。如何ナル御病氣ゾト存テ候へハ。
初ハ當分ノコトニテ候ヒケルゾヤ。某峻補ノ劑
ヲ以テ。御藥ヲス、メ候ハ。忽平愈仕リ候ハン
ト云へバ。村宗限リナク悦ビ。此戀タニ叶ヒナハ。
元右ニ夏ヲ寄其宜シク申ナシ。一廉新息ノ加増
ノ取テ衆ラセン。如何ナル方便ヤアル。荒手ヲ措
申スソト問フニ。サレバトヨ兼テモ申スゴトク。
上總介殿モ今ハ余ノ女ニ御心ノ移リ。枯々ナル
氣色ナレバ。當時密カニ奪ヒ玉フトモ。御尋子モ
候マシ。流レニ掉トコソ思召ランズレ。竊ニ御奪

候へト云フ。村宗聞テ。然ラバ貴邊ノ越度トナ
 ランハ如何ニ其コソ御心安ク思シ召セ某介殿
 ニ駐近仕リ罷リアレバ身ノ過ニハナラサルヤ
 ウニ相計ヒ候ハン。然ラバ明晚某ハ城ニ登リ宿
 直ニ罷リアリ候ベシ。宵ノ程ニ隔テナキ侍少々。
 某ガ宿所。彼女房ノ部屋へ。忍ヒヤカニ指遣ハサ
 レ。屋形ヨリ竊カニ迎へ取セ玉ヒ候ナリト。御方
 便リ候ハバ。彼女房誠ソト心得テ。悦ヒ參リ候ベ
 シ。又某ガ家人共ヲモ。能ニ賺シ置候ベシ。然ルト
 キハ誰人ノ仕業トモ爭知ル人ノ候ベキト云へ
 バ。村宗手ヲウツテ悦ビ。叔々貴邊ハ古ノ驛言。子
 房ニモ劣ルマレキ謀オソヤ是非トモ頼ミ存ル

ナリトテ。酒ヲ勸メ様々引出物ヲ與へテソ飯シ
 ケル。斯テ翌日夜ニ入りテ浦上カ即等共二十人
 ハカリ。乘物ヲ舁セテヒソカニ彼胡蝶ガ部屋ニ
 来リ。屋形様ヨリ忍ヒヤカニ御城ニ迎へ取ラセ
 玉ハンタメ。我々仰ニヨツテ。御迎ヒニ參リテ候
 ナリト云ヒ入ルレバ。胡蝶ノ方是ヲ聞今朝又米殿ノ
 充様ノ夏ヲ風ニ宣ヒシガ。叔ハ夏定リタルニコ
 ソト。大ニ悦ビ取ル者モ取り敢ス乘物ニ乘リシ
 カバ。一二町過ル程コソアレ。飛ガコトクニシテ
 白子町ノ宿所ニソ舁入レケル。翌日久米十郎充

衛門尉去リケナキ躰ニテ退出シテ宿所ニ飯リケルガアハタ、シク城ニ登リ扱モ昨夜何者トモ知ラス屋形様ノ仰ナリト詐リ迎ヒニ参リシ由ヲ称シ胡蝶ノ方ヲ奪ヒ取り行衛モ知ラス失テ候某ガ家人共モ是ヲ誠ト存シ居候ヒシユヘ只今宿所ニ飯リ様子ヲ承リ候ヒテ驚キ入テ候ト色ヲ変シテ申シケレバ政村大ニ驚キ玉ヒ何者ノ所為ナラン國中ニ相觸テ急ニ此コトヲ亂スベシト面色赤クナリ青クナリ泪ヲ流シテ怒ラルレバ久米心中ニ仕スレタリト悦ビ仰ニテハ候ヘドモ某愚案ヲ巡ラシ候ニ恐レ多キ

申シ度ニテ候ヘドモ君ハ當家ノ御嫡流トハ申セドモ此御家ヘハ智入リヲナサレ候ヒシユヘ故殿ノ後室ヲ始メ奉リ北ノ御方マテモ君ヲ輕シメ思シ召シ候其ユヘ常々モ御心ヲ苦シメラレ候ハスヤ執事浦上マテモ君ヲ輕ンシ雅意ヲ奉動候コト皆此ユヘニテ候ナリ去ニヨツテ胡蝶ノ方ヲ日比御寵愛アリシモ後室北ノ御方ノ泄聞セ玉ハン度ヲ憚カラセ玉ヒ某ガ方ニカクシ置セ玉ニシニテハ候ハスヤ然ルヲ今國中ニ觸ヲナシ彼行衛ヲ尋子ラレンニハ北ノ御方ノ御妬ミ後室ノ御憤リヲハ如何ナサレ候ベキ又

執事ノ聞ヘモ如何ナリ。只此コトハ隱密ニナサ
 レ。暫ク時節ヲ御待候ヘ某忍ビヤカニ惡人ヲ尋
 子出シ候ベシ御心ヲ勞セラルベカラスト申シ
 ケレバ。政村打ウナツキ。汝カ申ス處皆圖ニ當レリ。
 宜シク相計ラフベシトテ。奥ニ入り玉ヘバ。近氏
 モ退出セリ。

上總介政村浦上誅伐計略事

斯テ近氏ハ謀既ニナレリ。浦上ガ亡ビシコト。指
 ヲ折テ待ツベシト。心ノ中雀躍ノ勇ミヲナシケル
 ガ。十餘日經テ。近氏忍ビヤカニ。大將政村ノ前ニ
 出。此間様々ト心ヲ碎キ胡蝶ノ方ノ行衛ヲ尋子

候ヘハ造ニ聞出シテ候ト云フ。政村大ニ悦ビ。何
 者ノ所為ナルゾ早々申スベシト問ヒ玉フ。近氏サ
 ン候執事浦上掃部助ガ奪ヒ取テ候ト云ヘバ。政
 村大ニ驚キ何浦上ガ奪ヒシトヤ。是天命知ラス
 ノ人非人寸々ニ刻ミテモアキタラスト。紅淚ヲ
 流シテ怒リ玉フ。近氏重子テ執事ノ所為ニハ近
 比長ナシキ拳動トコソ覺ヘ候ヘ村宗已カ威勢
 ニツノリ下トシテ上ヲ輕ンシ。係ル企テヲナシ
 候コト。叛逆ノ最ニテ候ハズヤ。是ヲ其一、打置
 レバ。國家ヲモ奪ヒ候ハンコト。鏡ニ顯ハレ見ヘ
 候。渠隱謀ノ企テアリト披露アツテ。浦上誅伐ノ

謙ヲ巡ラサレ候ヘカシト云ヘバ。政村聞王ヒ。去
レバトヨ勝田王稅助ガ子共ノ遺跡相論ノコト
ニ付浦上ト相議スベキ夏アツテ。兩度使者ヲ遣
遣ハシ、カトモ病氣ト号シテ来ラザリシガ。初
ハ係ル不義ヲナセシユヘ怖レテ来ラザリシナ
ラン加程ノ悪行ヲナス上ハ何ゾ吾ヲ吾トモ思
フベキ時ヲ見合セ。當家ヲ亡ホシテ。國家ヲ奪ハ
ント相巧メルニ紛レナシ。當時戰國ノ世トナリ
テ。日本六十余州瓦ノゴトクニ解蜂ノゴトクニ
起ツテ。互ニ渠ヲ亡ホシテ。已立ンコトヲ欲シ。國
々ノ動亂暫時モ止トキナシ。然レハ隣國ノ恐レ

ナキニアラス。此トキニ當ツテ。殃蕭牆ノ中ヨリ
起リナバ。臍ヲ嚙ニ甲斐アラシトテ。近臣等ヲ相
語ラヒ。其ヨリ浦上誅伐ノ謀專ナリケルガ。渠ハ
多勢ノ者ト云ヒ。三ヶ國ノ諸士諂ヒ阿ツテ。浦上
ニ日比親シム者多クレハ。勢ヲ以テ戰ハンハ尤
危フカルベケレバ。何トゾシテ方便リテ城中ニ
招キ寄セカ者ニ仰セテ刺殺サントゾ議セラレ
ケル。掃部助村宗此コトヲ一々ニ世聞テ大ニ怒
リ。此人元來懦弱ニシテ。國家ヲ治ムベキ器ニア
ラズト云ヘドモ。父則宗是ヲ輔佐シ。相續テ其執
事ノ職ニ居テ。政道正シク執リ行フガユヘニ。國

家安寧ニシテ。諸人枕ヲ泰山ノ安キニ置ク。是莫
太ノ忠ト云ツベシ。然ルヲ政村某ヲ失ハント巧
ミ玉フコト。石ヲ懷テ淵ニ入ルトヤ云ン自業自
得果遁ル、処アルベカラス君臣ノ間モ是ニテ
ナリ。傳へ聞湯武桀紂ヲ討シテ。今ノ世ニテモ誰
カ是ヲ不義ト云テ。惡逆ノ主ヲ瘞シテ。赤松家ノ
榮久ヲ相計ランハ忠臣ノ節義ナラントテ。忍ビ
クニ同意ノ者共ヲ相カタラヒケルガ。政村某ヲ
賺シ寄テ。害セント巧マル、コソ愚カナレ。吾此
所ニ長居セバ。悪カリナント覺ルゾトテ。本国備
前ノ三石ニ下ルヘシト議シケルガ。永正十五年

七月九日。熊ト自登ニ。白子町ノ宿所ヲ打立ケル
ガ。即等ノ間田吉太郎ヲ。政村ノ方へ指遣ハシ。倭
人等ガ讒ニヨツテ。村宗御不審ヲ蒙リ候コト。身
ニ取テ謂レナシ。加之罪ノ實否ヲモ糺サレズ。某
ヲ誅セントノ結講ハ。何ゴトニテ候ゾ。是ニヨツ
テ。只今當所ヲ立退候。惡シト思シ召レ候ハ。追
カケテ討留ラレ候ヘト。詞ヲ放ツテ云ヒ遣ハシ。
二千六百余騎ヲ三ツニ分ケ。旌旗ヲ秋風ニヒル
ガヘラセ。捨刀ヲ白日ニ耀カシ。思ヒクノ馬物具
邊リヲ拂ツテ出立セ。整々トシテ打立ケレハ。政
村ハ使ニ驚キ大ニ怒リ。此間免角ノ詮議ニ日ヲ

送りテ。取り逃ニシヌルコソ安カラ子ト。牙キバヲ啗カテ
ゾ居玉ヒケル。浦上ハ居城備前ノ三石ニ飯リ。急
キ城ヲ修補シ便宜ノ味方ヲ相語ラフニ。備前備
中。播磨養作ノ内ニ。浦上ガ催促ニ從ヒ。一味スル
者共多カリケリ。

上總介政村松山ハツカマ向附ムカヒカタチ向岡大磯窪落城事
茲ニ衣笠長門守村氏ハ。松山ノ城ニアリケルガ。
浦上掃部助村宗ガ姪イイハコニテ。無二ノ浦上方ナリ
シカバ。松山ノ城ニ引籠リ。東條又太郎氏秀ヲ。松
山ノ枝城向岡大磯窪ニ籠置タリ。是ハ敵押寄テ
バ。互ニ後詰シテ。カヲ合セ。前後ヨリ立拵タテハカシテ。言

ントノ術ナリ。大将赤松上總介政村。此由ヲ傳へ
聞時目ヲ移シナバ。分国ノ者共多ク敵ニ與スベ
シ。先門出ニ衣笠ヲ攻テホシ。當国ヲ取り鎮メテ
コソ。備前へハ向ハメトテ。一万三千余騎ヲ引卒
シ。同キ九月二十四日。衣笠ガ居城へ押寄テ。先完
栗作十郎範高。秋津宮内少輔秀国。舍弟十静坊心
樂。清水甲斐守以下五千余騎ヲ以テ。松山ノ城ヲ
押へサセ。我身ハ八千余騎ノ退兵ヲ以テ。向岡大
磯窪ノ城ヲ十重二十重ニ取囲ミ。昼夜ヲ分タス
攻立ラル。城將東條又太郎氏秀。物馴タル勇士ナ
レバ。精兵ノ手タレヲ以テ。矢倉狹間ノ陰ヨリ散

々ニ射サス。寄手ハ持楯疊楯ヲ。被キツレテ攻上
ルト云ヘドモ。自雨ノ板屋ヲ過ルガゴトク。楯モ
タマラス色メキ立。東條是ヲ見テ。時分ハ能ゾ。下
戦ニ駈散ラセヨト云フ程コソアレ。松原兵藤内。
八正寺ノ覺藏坊。八田源ハヲ始メ。城兵等勇ニ進
ンテ城戸ヲ開キ。城ヲ拂ツテ切テ出真驀ニ駈立
レカハ。寄手一恠ヘモ恠ヘズ。右往左往ニ敗北ス。
東條又太郎ヲ始メ。松原八田以下氣ニ乗テ切立
突立逃ルヲ追テ駈立ル。爰ニ赤松家ノ一族
所孫次郎則定トテ。武功双ビナキ者アリシガ。兼
テ思慮ヲ巡ラシ。初メヨリ味方ヲ離レ。松栢生
ツタル陰ニ。兵ヲ伏テ靜マリ返ツテ備ヘシカ。味
方ノ先陣ノ崩ルハ。余所ニ見テ。須碓時分ハ能
ゾ。乘込メヨ者共ト。采牌ヲ振テ下知スレバ。早リ
雄ノ若者共。得夕リ賢コシト云フマ、ハ。一同ニ
咄ト攻上リ。城中へ乘入テ。堀裏ニ味方ノ旗ヲ。数
十流レ指上勝鬨ヲ。咄ト作ル。城兵等是ニ驚キ。城
ヲ脱ト見飯リタレバ。早寄手入レ。變リシト覺ヘ
テ。旗ノ紋悉ク變リタリ。コハ如何セント色メキ
立ツ。寄手ノ大将上總介政村是ヲ見至ヒ。ヤレ別
所ハ早城ヲ乗取タルゾ。返セヤ者共分捕高名セ
ヨ若者共ト。四方ヲ自眼ミ。松ノ字ノ赤旗ヲ押立

日本書紀 卷之二十一 三十三

サセ。静々ト取テ返サル。寄平ノ諸勢是ニ氣ヲ
得テ。我モく。取テ返シ。籠ヲタ、キ子等ヲ鳴シ。
喚キ叫ンテ攻立ル。城兵等ハ何ノ思慮ナク深々
ト切り出テ。城ヲ乗取レヌ。敵ハ多勢守リ返シヌ。
今ハ遁ルベクモアラザレバ。或ハ敵中ヘカケ入
テ討死スルモアリ。或ハ腹掻切テ伏スモアリ。其
余ノ者共ハ。四角八方ヘ逃散テ。今ハ城將東條又
太郎氏秀。八田源八。奥山三郎五郎。八正寺ノ覚藏
坊。松原兵藤内。小野寺平八以下。二十七騎ニナリ
シカバ。只籠中ノ身細裏ノ魚ノゴトクニシテ。遁
ルベキヤウソナカリケル。

東條又太郎八田小野寺以下若戦並覚藏坊勇力事
去レドモ東條又太郎氏秀。武功勝レタル者ナレ
バ。少モ騒ガズ。覺藏ノ朝ヲ頃ケ。射向ノ袖ヲユリ
合セ。弓杖ツイテ扇開キツカヒ。復モナケニテ息
ツギ居タリ。八王寺ノ覚藏坊ハ。太剛ノ荒法師ナ
リケルガ。味方ノ勢ヲ眩下見廻シテ。哀レ勢ヤ。金
鉄ノ兵トハ我々ニテゾアルラメ。此勢ヲ以テ切
リ立ナバ。恐ラク日本國ノ勢ニ。唐土天竺ノ勢ヲ
合セテ。困ミタリトモ。ナドカ打散サテアルベキ
ゾ。ナマレイナル業武者用ニモ立ヌ。又腰拔共ハ。足
手纏ナルニ。ナキコソ能ケレ。倡ヤ最後ノ一軍。思

フマ、ニ死狂ヒセン。浮世ノ思出冥途ノ土産何
 ゴトカ是ニシカント。莞尔ト笑ヘハ氏秀聞テ。素
 しく腕ノ骨太刀ノ金ノツバカン程末期ノ一戦
 遂天地反覆サセテ。血ノ海トナサン者ヲト云
 フマ、ニ。二十七騎ノ者共。或ハ大太刀ヲ真向ニ
 指カザシ。又ハ大長刀ヲ水車ニ廻シテ。香西少輔
 五郎ガ二百余騎ニテ控ヘタル中へ。一文字ニ切
 テ入り。十文字ニカケ通り。巴ノ字ニ敵ヲ追廻シ。
 土煙ヲ立テ戦ヒシガ。香西ガ蛇ノ目ヲ付タル茜
 ノ旗。西へ東へ漂フトゾ見ヘシ。一同ニ咄ト崩レ
 ケリ。東條以下ノ者共。逃ル敵ニハ目モカケズ。序

野勘解由左衛門尉村範ガ四百余騎ニテ扣ヘタ
 ル中へ。斃タメ形ニナツテ切テ入ル。宇野ガ勢是
 ヲ見テ。真中ニヲツ取り籠テ討ントスルヲ。縦横
 無碍ニ駈散シ。是ニ頭ハレ彼コニ隠レ。干爰方化
 シテ相戦ヒ。ツト驅抜ケタレバ。敵味方ノ死骸新
 タニ一堆ノ山ヲナス。八正寺ノ覚藏坊ハ味方ニ
 離レ。城將又太郎ヲ尋子若敵中ニ取り籠ラレテ
 ヤ吊玉フラント。敵ノ中ヲ彼所此所ト馳抜ケク
 尋子ケルガ。枒ハ後陣へ退カレツルニコソト思
 ヒ。閑々ト引取リケル必ニ。和塚平次左衛門尉トテ。
 長七尺ニ余リ。双ヒナキ木力ノ勇士アリケルガ。

是ヲ見テ。願フ処ノ相。手ゾト追カケテ。覚藏坊ト
 見ルハ辟目カ。キタナクモ敵ニ後ロヲ見スル者
 カナト耻シムル。去レドモ此法師。聞又顔シテ見
 カヘシモセズ。静カニ馬ヲ歩マスル。和塚是ヲ見
 テ。悪キ奴ガ挙動カナ。已手取りニシテクレン者
 ヲト。馳付テ後ロヨリ。鎧ノ上帯ヲシカト取ル。其
 トキ覚藏坊フリカヘツテ。イヤ利根ノ過タル男
 目カナト。カイ颯ンテ中へズント指上ケ。我ハ味
 方ニ離レシユヘ。其行衛ヲ尋ルナリ。何所ニカ
 ル見テクレヨト。西へ東へ振り廻ス。寄手ノ勢百
 騎バカリ。和塚討スナト追カケテ。其和塚ヲ此方

へ返セト。色々ニ罵リカ、ル。覚藏坊恥ト見テ
 テク返辨仕ラント。弓手ノ方ノ大ナル岩角へ。エ
 イト云フテ抛付レバ。和塚ハ忽互體分々ニナツ
 テゾ死シタリケル。是ヲ見テ寄手ノ勢震ヒワナ
 ンキ逃散ツタリ。覚藏坊打笑ヒ。数多クナラレテ
 目出タシクト。獨言シテ馳行キケル処ニ。東條カ
 旗。岸陰ニヒラメキシカバ。大ニ梟ビ馳付タリ。東
 條以下モ梟ブコト限リナシ。始メ計ヘシ二十七
 騎ノ兵共。又十六騎討レテ。城將東條ヲ始メ。八田
 覚藏坊。小野寺以下十一騎ニ討ナサレ。殊ニ皆々
 矢病切。病数カ所蒙ツテ。朱ニナツテ扣ヘタリ。又

太師氏秀鑑ニ立タル矢ノ衰ノ毛ノゴトクナル
 ヲ。悉クカナグリ捨合戦ハ思フ程シツ。此上ナガ
 ラモ敵ノ岡ミヲ切り抜テ。松山ノ城ニ入り。衣笠
 殿ニカヲ添ナハ。無上ノ忠節ナラント思フナリ
 ト云ヘバ。十騎ノ者共皆尤ト同ジテ。松山ノ城ヘ
 ト馳向フ。去レトモ先ノ合戦ニ手ゴリシテ。追カ
 クル敵ハ一人モナカリケリ。斯テ十騎ノ者共
 松山ヲ取り巻タル。敵ノ押ヘノ勢ノ中ヘ。無二無
 三ニ馳入レバ。完栗秋津。清水以下ガ軍勢共思ヒ
 寄サルニトナル工ヘ。驚キ騷ク死ヲ霹靂カシテ
 碎クガゴトク。切り散シ馳乱シ追マハシ。驅援
 レカ。十一騎ノ者共七騎ハ討レテ。東條又太師氏
 秀。覚藏坊。小野寺平八。氏秀ガ甥ノ東條只丸。ワブ
 カ四騎ニ討ナサレ。難ナク敵中ヲ切り抜テ。松山
 ノ城ヘカケ入りレハ。イカメシカリシ働キナリ
 此者共ハ。中国ニ隠レナキニスナレバ。城ノ大将
 衣笠長門守ヲ始メ。皆其武勇ヲ感シ舌ヲ卷テ悦
 ビ合フコト限リナン。



中國太平記卷之第二

目錄

安川平六赴弥高フモクイヤ 並松山城軍事イカガシ

完栗作十郎範高勇戰事シサウ

安川平六切拔多勢入城中事キリヌク

篠原主膳兵衛尉與東條又太郎口論事シラ

篠原方便寄手シラ

附完栗猪股以下寄夜討事シサウ

松山城夜軍イカガシ

中國太平記

Handwritten notes in the top right corner of the right page.

附八正寺覺藏坊武勇事

猪股左衛門太夫苦戰

竝神村作五郎範景再切入城中事

完栗範高與覺藏坊爭勇力

竝勝田伯耆守村定退口合戰事

伏川三郎次郎企進心事

秋津宮内少輔饗應伏川

附伏川被生捕事

中國太平記卷之第二

洛下 尾田玄隆信意傳錄

安川平六赴殊高 并松山城軍事

去程ニ東條又太郎氏秀ハ甥ノ只丸ヲ始メ八正

寺ノ覺藏坊小野寺平八ト共ニ只四騎ニ討ナサ

シ。勢ノ岡ニテ切リ抜ケ松山ノ城ニ入りケレバ

或ノ大将衣笠長門守村氏死シタル人ノ蘇生リ

タル心地シテ悦ビ勇ムコト限リナシ此上ハ敵

諸勢ヲ一ツニシテ富城ニ攻カ、ルベシ。乾ノ方

ノ出堀ハ要害無下ニ浅間ニシテ堀又深カラ子バ

物ノ用ニ立ベカラス敵是ヲ目ニカケテ乗破ン

議ランスレバ。東條殿ニ。三百余騎ヲ付ケ候ハ
ン。此所ヲ相抱テタベト云ヘバ。東條聞テ。如何様
ノ処ニモアレ。難儀ノ場ニテ候ハ。某ヲ指向ラ
レ候ヘ。此頭ノ地ニ落ガル間ハ。某ガ手ヨリ破ラ
ル。夏ハ候マシ。御心安カレト。詞ヲ放ツテ云ヒ
ケレバ。皆頼モンクゾ思ヒケル。村氏聞テ。近比祝
著致シタリ。某思慮ヲ巡ラスニ。元來俄ノ籠城ユ
ヘ。兵糧ノ設ケ多カラズ。其上寄手ニハ。諸方ヨリ
勢馳付テ。次第ニ多勢トナルベキナレバ。當手ノ
勢。如何ニ矢猛ニ思フトモ。落城程アラレ。思フ
ナリ。然レバ。谷沢甲斐太郎モ。浦上殿ノ味方トシ
テ。弥高山ニ楯籠レリ。渠又父甲斐守信常ガ武勇
ヲ續テ。剛強ノ譽レアリ。何トゾ。弥高山ヘ。此由ヲ
告後。詰ノ勢ヲ乞テ。敵ヲ遠ク拂ハント思フナリ。
誰ヲカ遣ハサント云ヘバ。安川平六ト云ヒ。涙
士。河州ヨリ下リ。衣笠ヲ頼ミ居レカ。某罷リ向ヒ
候ベシ。如何ナル敵中ニモ候ヘ。某ヲ見知りタル
者候マシケレバ。能ヤウニ偽リ援ケ。弥高ヘ参リ
著シハ。イト安ク候ハント望ミケレバ。村氏大ニ
悦ビ。狀ヲ書テ。安川ニ渡シケレバ。其夜忍シテ敵
ノ未ダ向ハサル。搦手ノ方ヨリ出タリケル。斯テ
赤松上総介政村ハ。松山ノ城ヲ攻落スベシト。

方三千余騎ヲ以テ。松山ノ城ノ四方ヲ取り囲ミ。喚キ叫ンデ攻近ヅク。城兵モ追手ノ門ヲ開キ切テ出。一色聞ヲ咄ト作ル程コソアレ。鋒ヲ揃ヘテ切テカ、リ。火出ルバカリニ戦ヘハ。寄手ノ先陣。完栗作十郎範高ガ旗ノ手。少シ色メキ立ツトゾ見ヘシ。一同ニ咄ト崩レテ逃退ク。範高モ力ナク。心ナラズ引立ラレ。跡ニ下ツテ引行キケリ

完栗作十郎範高勇戦事

斯テ三町バカリニシテ。小川ノ流レタルヲ前ニアテ。完栗作十郎範高乗タル馬ヲヒキカヘシテ。汝等何所ニテ逃ントスルゾ。敵ニ討レテ世ノ嘲罵ニ落ンヨリ。返シ合セテ討死セヨ。返セヤクト色ヲアテ、ケ味方ヲ白眼ミ。朱柄ノ大鎧ヲ馬ノ平頭ニ引ソバメ。静々ト引返セバ。石川太即兵衛、尉熊崎兵部丞牛窓源八、舍弟源九郎、三木造酒亮同與市等六騎取テ返シ。猶モ味方ヲ返セノト指招ク。此トキ城兵等既ニ川端マテ追来ル。作十郎範高氣ヲ得テ。須破時分ハ能ゾ。カ、くト云フ。一、ニ。真先ニ川ヲ渡リ越シ。先ニ進ンダル敵ヲ。朱柄ノ大鎧ヲ以テ。忽ニ突落シ。續イテ進ム武者ヲ。馬ヨリ下ニタ、キ落ス。石見八郎次郎天晴敵ヤ。完栗ヲ討ン者凡當国ニ我ナラデハアルベカ

ラスト。馬ヲ馳寄ル処ヲ。完栗スカサズ馬ヲツト
 寄ルトソ見ヘシ。石見ヲ鑓王ニアゲテ打捨テ。敵
 ヲ礮ト白眼テ立タル氣色楚ノ頂王ノ勢ヒニモ
 超ツベシ。城兵等是ニモ怖レス勇ミカ、ルヲ。三
 木造酒亮同與市牛窓源六兄弟。面モフラス切テ
 カ、ル。熊崎兵部丞ハ。敵ノ射ル矢ニ内甲ヲ射サ
 セテ。暫ク進ミ得ズ。石川太郎兵衛尉ハ。精兵ノ手
 タレナリケルカ。矢束解テ押クツ口ケ。本滋藤ノ
 子ヲ以テ。指詰々々散々ニ射ル。矢場ニ敵三騎射テ落
 シ。子ヲカラリト抛捨四尺八寸ノ大太刀ヲ真向
 ニカサシ。小躍リシテ進ンダリ。城將長門守村氏
 カ徒弟ノ。衣笠尤近兵衛尉氏固云ヒ甲斐ナキ者
 共ノ拳動カナ。僅ノ敵ニ支ヘラレテ。進ミ得ヌコ
 ソ安カラ子。我ニ續ケヤ者共ト。真先ニカケ出レ
 バ。城兵等是ニ續イテ。咄トカ、ル。完栗ヲ始メハ
 騎ノ者共火シモ猶豫セズ。敵中ニカケ入タリ。其
 間ニ味方ノ勢悉ク取テ返シ。真驀ニ切テ入り。東
 西ニ馳通り。南北ニ馳乱シ。巴ノ字ニ敵ヲ追廻ス。
 汗馬土煙ヲカケ立テ。白日ヲ掩ヒ。敵味方ノ嘆キ
 叫ブ。色ニハ。大山モ崩レ。坤軸モ碎ケヌベシ。城兵
 等猛シト云ヘドモ。範高が勇氣ニ當リガタク。士
 卒若干討レ。立足モナク敗北スルヲ。余スナ逃ス

中国大平記 卷之二

十討取レト。追討ニ討程ニ井上六郎。松川善七。吉川小藤太。江見又次郎。浅羽將監同八郎。鎌塚八郎。入道以下。宗徒ノ者共多ク討レ。城中へ引入テ。城戸ヲ手早ク閉ニケリ。牛窓兄弟此勢ヒテ脱サズ。城ヲ乗取ント勇ニシカドモ。籠高制シテ。今朝ヨリノ合戦ニ。士卒殊外疲レス。其上日モ西ニ傾ケリ。乘破ラント捫程ナラバ。却ツテ大ナル味方ノ負ヲ仕出スベシ。全勝ノ謀ヲ知ラザルカトテ。少シ引退イテ陣ヲ取ル。是ニヨツテ大將上總介。村ヲ始メ。諸手悉ク。城際近ク詰寄タリ。

安川平六切抜多勢入城中事

去程ニ安川平六ハ。漸ク忍ヒ抜テ。弥高山ニ至リ。城主谷沢甲斐太郎ニ對面シ。衣笠ガ状ヲ渡シ。叔モ亦松殿多勢ヲ以テ城ヲ取卷レ候ヘドモ。元來兼テノ巧ミナラサレバ。兵糧ノ用意ナク。城ノ搦へ全タカラス候ヘハ。落城程アラジト存ルナリ。松山落城ニ及ビ候ハ。敵ハ必定此城ヲ攻落サントテソ。カ、リ向ヒ候ハン。願ハクハ松山ノ後詰ヲナサレ下サレ候ヘ。其トキ城中ヨリモ切テ出。敵ヲ前後ヨリ取り。天ミ攻立テ。遠ク追退テ候ハント云フ。甲斐太郎狀ヲ披キ見。安川カ演吾スルヲ熟クト聞テ。衣笠殿某カ加勢ヲ乞玉フコト。

理リニハ候ヘドモ。此、乱不慮ニ出来リスレバ。當
城トテモ兵糧ノ用意ナク。士卒甚タ小勞ナリ。其
上國中悉ク敵ナレバ。某討出ナハ。跡ヨリ敵兵當
城ヲ乗取ンハ必定ナリ。然レバ思慮ナク此、城ヲ
出シコト。一、大事ト存ルナリ去ルニヨツテ。近日
ニ後詰センコトハ。中々叶ヒ申マシ。兵糧ノ用意
ヲナシ。要害ヲ修理シ。其後加勢ヲ仕ラン。若其マ
テニ城ヲ持味ヘ玉ハズンバ。開テ當城ヘ御入り
候ヘ。心ヲ合セ敵ヲ防ギ候ハン。此、赴キ飯ツテ委
ク申テ夕ベトテ。返狀ヲ各テ渡シケレバ。安川モ
是非ナク松山ニ飯リケルガ。敵ノ多勢四方ヲ取

卷テ。尺寸ノ地モ余サ子バ。何所ヨリ城ニ入ルヘ
キヤウモナシ。安川ハ兼テ期シタルコトナレバ。
偽ツテ入ラバヤト思ヒ。馬ヲアハタ、レク馳テ。
浮田ハ即殿ヨリノ使ニテ候。大將ノ御本陣ハ何
方ニテ候ゾト。大音揚テ喚ハレバ。其所々々ノ程
ニテ候ト教ヘテ。敢テ咎ムル者モナカリケリ。安
川ハ少モ怖レズ。屋形ノ御本陣ハ何所ゾト。問々
馬ヲ馳ケルニ。足輕共是コソ御本陣ニテ候ヘト
云ヘドモ。聞ヌ躰ニテ馳テ行ク。士卒等大ニ驚キ。
ヤレシレ者ヨ討留コト。色々ニ喚ハリ追カクル。
是ニ驚キ陣々ヨリ。我討止ントヒシメキテ。前ニ

群ガリ復ヘヲ襲フテ遁サジト取り畔ム。安川ハ元ヨリ期セシ復ナレバ。イテク汝等カ目ニ物ミセント。敵ノ群ツタル中ヘ一文字ニ切テ入り。薙伏セ切り伏セ駈散シ。馳抜々々行ク程ニ。追手ノ櫓ヨリ是ヲ見テ。アレハ安川ト覺ユルゾ。平六討スナ助ケヨト。早リ雄ノ若者共。城戸ヲ開キ切テ出。追來ル敵ト相戦フ。安川ハ其間ニ。城中ヘカケ入テ。危キ命ヲ助カレバ。城兵等ハ。寄手ノ勢ヲ追退ケ。颯ト城中ヘ引入テ。頓テ城戸ヲ閉ニケル。完栗是ヲ聞テ。敵ナガラモ。大剛ノ者ナルヲ。情ナクモ討取ントハシツルゾトテ。安川ヲ追レ者共ヲ。口ツテ。無與氣ニテ居タリケルトゾ聞ヘシ。

篠原主膳兵衛尉與東條又太郎口論事

斯テ安川平六ハ。虎口ノ害ヲ遁レ。衣笠ニ返狀ヲ渡シ。甲斐ガ云ヒシ。赴ヲ演ケレハ。城將長門守ヲ妬メ。諸人カヲ落シケリ。其トキ東條又太郎氏秀。進ミ出。甲斐太郎ガ後詰ヲコソ。命ニカケテ相待候處ニ。今ハ其望ミモ。絶果ス。斯レテ籠城ニ片ヲ送ラバ。兵糧尽テ。落城ノ外。余儀アルベシトモ存ラレズ。然レバ。近キ中。奇計ノ妙策ヲ以テ。敵ヲ遠ク追退ケズンハ。後日ニ悔トモ。甲斐候ハジト云フ。村氏聞テ。其コソ兼テ思慮ヲ巡ラス。處ニテ候。

能術ノ候ヤト問フ。氏秀サン候。某一ツノハカリ
コトヲ。案ジ出シテ候。先味方ノ内ニ去リヌベキ
人ヲ。一人偽ツテ。心ヲ変ジサセ。敵方ヘ内通セサ
セテ。赤松殿ヲ方便リ課セ。其後敵ヲ偽ツテ。城中
ヘ引入レ。一人モ残サズ討取り候ハント云フ。村
氏大ニ悦ビ。是勝レタル上策ナリ。御遣此術ヲテ
シ玉ハンヤト云フ。東條聞テ。此術ハ。篠原主膳兵
衛殿ニ仰付ラレ。宜シカルベク候ト云フ。篠原聞
テ。一大事ノ役儀ヲ承ランハ。士タル者ノ望ムル
ニテ候。然レバ偽ツテ某敵ニ内通仕ルベキカト
問フ。氏秀去レバトヨ。貴邊心ヲ尺シ。此内應ヲ仕
課セラレヨト云フ。篠原聞テ。然ラバ一ツノ不審
アリ。此謀ハ貴邊ノ肺肝ヨリ出タレバ。貴邊コソ
ナシ玉フベケレ。何ユヘ某トハ宣フゾ。其心底ヲ
聞ント問フ。氏秀去レバトヨ。某ハ御存ノゴトク。
大磯ノ窪ヲ敵ニ乘リ取ラレナガラ。必死ノ戦ヒ
ヲナシテ。敵ヲ多勢討取り。味方モ十騎ニナリ
ナガラ。猶モ大敵ヲカケ破リ。千辛万苦シテ。血戦
国中ノ目ヲ驚ロカシ。僅四騎ニ討ナサレ。方死ヲ
出テ一生存ヲタモテ。當城ニカケ入りタルコト。是
眼前ノコトニシテ。誰カ在ナシト申スベキ。斯ニ
テ義勇ヲ顕ハンタル某ガ。今心ヲ変ジ。敵方ニ内

通仕ラント申ストテ。誰カ誠ト存ベキト云フ。篠
 原氣色ヲ損ジ。吾ハ何者ナリト思ヒ。加程ニハ侮
 ルラン。吾ニニ心アルベキ者ト思ヒ。名ザレヌ
 ルコソ口惜ケレ。忠勇ニ於テ何ゾ人ニ劣ルベキ。
 汝ガ首ヲ取テ。武勇ノ程ヲ顯ハサント。血眼ニナ
 ツテ立揚レバ。氏秀怒ツテ。何某ガ首ヲ取ルベキ
 ヤト。互ニ怒ツテ。既ニ復出来リヌト見ヘシカバ。
 諸人様々制シケリ。守將村氏種々詞ヲ尽シテ制
 シ止メ。篠原殿ノ腹立其理アリト云ヒナカラ。心
 ヲ靜メテ聞玉ヘ。吾明カニ是ヲ説ン。氏秀ハ此度
 大敵ノ圃ニヲ破リ。當城へ突入りテ。眼前ニ勇ヲ
 震ハレヌレバ。今更敵ニ内逼セント云フトモ。ヨ
 モ誠トハ思フマシ。去ニヨツテ御邊ニ此謀ヲナ
 サシメントナリ。然リトテ氏秀ノ申サル、処御
 邊ヲ怯弱ナリトモ。二心アルベキ人トモ思ハル
 ニテハ曾テナシ。能ク爰ヲ聞分ケラレヨ。我心ナキ人ニ
 此謀ヲナサシメンニ。其本心ヲ變シ實ニ敵ト一味
 セバ。味方ノ謀ハ敵ノ術トナリテ。却ツテ大敗ヲ
 仕出サン。又智謀ナキ人ニ。此謀ヲナサシメバ。恐
 ラクハ仕課スルヲト能フマシ。然レバ良士ヲ撰
 ンテ。此謀ハナサシムヘキモノナリ。貴邊其器ニ
 當レルヲ以テ。今氏秀是ヲ奉ラル。曾テ輕賤ノ

儀ニアラス。御邊ハ加程ニ理ニ疎キカト。色ヲ變
ジテ云ヒケレバ。篠原其トキ得心シ誠ニ某誤リ
入テ候ナリ。東條殿無礼ハ御免アツテ賜ハレト
云フ。東條大ニ悦ビ方便ノ段々云ヒ聞セケレバ。
衣笠モ篠原モ是コソ究竟ノ謀ナレト。其用意ヲ
ソナシニケル。

篠原方便寄手

附完栗猪股以下寄夜討事

去ル程ニ篠原主膳兵衛尉ハ彼術ヲナサバヤト
思ヒ寄手ノ中ニ伏川三郎次郎ハ伯母嫁ナリシ
カバ。渠カ方ヘ忍ヒヤカニ使ヲ遣ハシテ。某コト
赤松家譜代ノ士ニシテ。殊ニ故則政公ニ昵近シ
君寵ヲ蒙リシニ當屋形ノ御世トナリテ。謗人等
申シ沈ルニヨツテ。某ヲ御疎ミナサレ候ヒシユ
ヘ。一旦ノ恨ニ厚息ヲ忘レ。敵ニ與シ候ヘドモ累代
ノ主君ニテヲヒキ候コト。如何ニシテモ恐レ多
ク。天命ノ程モハカリ難ク候ヘバ。御味方ニ降參
シ。城ヲ取テ進上仕リ候ベシ。今迄ノ罪ヲ御免ア
リ。新恩ノ地ヲ賜ハルヤウニ。御邊執シ至ハリ候
ヘ。城ヲ落スベキ術ト申スハ。兼テ日ヲ定メテ夜
ノ深更ニ。追至中ヘ寄ラレ候ヘ。其トキ本城ニ火
ヲカケサセ。内ヨリ追手ノ門ヲ開キ候ベシ。諸勢
一同ニ押入テ。方々ニ群ガリ。関ヲ作ツテ攻立ラ

レ候へ。是只一戦ニシテ攻落スベキ謀ニテ候ナ
 リ。城將長門守ハ。必定捕手ヨリ。畠田ヘカ、リ落
 候ハン。去リヌベキ人々ヲ。畠田ノ林ノ中ニ伏置
 レ候へ。然ラバ十ニシテ九ツハ。村氏ヲモ討取リ
 候ベシト。委細ノ状ニ。起請文ヲソヘテソ送リケ
 ル。伏川三郎次郎此状ヲ披キ見テ。使ヲ已ガ役所
 ニ止ノ置。大将ノ本陣ニ参リ。彼状誓詞ヲ披露セ
 シカバ。大将上總介政村大ニ悦ビ。是コソ天ノ興ヘ
 ナレ。汝能々虚實ヲタビシ。内應偽リナキニ於テ
 ハ。来六月十日ノ夜。味方ノ勢ヲ指向ベシ。万事汝
 ニ任スルナリ。必ズ敵ニ討テラルハ。ナト宣ヘバ。使
 川大ニ悦ビ。已ガ役所ニ飯リ。篠原ガ方ヘ使ノ程
 返兩三度ニ及ンテ。真偽ヲ糺シ。同キ六日ノ夜乘
 取ルベキニゾ窺マリケル。斯テ六日ノ夜半過ニ
 及ビシカバ。完栗作十郎範高猪股左衛門太夫光
 秀。清水甲斐守政国ニ。六千余騎ヲ相添遣ハサル。
 又搦手ノ方。畠田ヘハ。勝田備前守村定ヲ。五百余
 騎ニテ差遣ハサル。完栗猪股清水以下。六千余騎
 ヲ。追手ノ堀際マテ押寄テ。相圖ノ火ノ手ヲ。今ヤ
 遅シト待居タリ。

松山城中夜軍 附 八正寺覚藏坊武勇事

去程ニ寄手ノ勢思フマ、ニ諂寄セテ。城中ノ火
ノ手ヲ待、処ニ、案ノゴトク、本丸ヨリ火焼上ルト
ゾ見ヘシ。城中一同ニ震動シテ、只天地反覆スル
ガゴトシ。時ニ追手ノ城戸ヲ、内ヨリ俄ニ押開ク。
完栗是ヲ見テ、項破今ゾ込入レト、真先ニ馳入レ
バ、士卒我劣ラント押入テ、天地モ崩レヨト、悶ヲ
作り、無二無三ニ切りカ、ル。城兵等ハ兼テ相圖
ノコトナレバ、大ニ驚キ狼狽へ廻ル躰ニモテナ
シ。一防ギモ防ガズ、十方ニ敗走ス。寄手、氣ニ乘
テ、分捕高名シテ、大将ノ恩賞ニ預カレト、切り立
突立進ム程ニ、深々ト攻入ツタリ。城主長門守、時

コソヨケレ懸レヨト、太鼓ヲ打出ス程コソアレ
篠原主膳兵衛尉、士卒ヲ従へカケ出テ、アサクシ
クモ方便ラレテ、是マテ来リ玉ヘル者カナ、イテ
我々が鋒ヲソト振舞ヒ申サント、一同ニ咄トカ
、ル。寄手大ニ驚キ、コハ口惜ヤ敵ノ術ニ陥リタ
ルゾ、ヤレ引取レト、轟ク処ニ、後口ノ方ヨリ城兵
等、闘ヲ作ツテ攻カ、ル。其外方々ヨリ、只潮ノ涌
ガゴトク、士卒等群リ出喚キ叫ンテ攻立シカバ、
寄手ノ勢討ル、者数ヲ知ラス。完栗猪股等、只後
口ノ敵ヲカケ破ツテ、門外へ引取レト。士卒ヲ下
知スル処ニ、乾ノ方ヨリ、東條又太郎氏秀、小野寺

平八、八正寺、覺藏坊以下三百余騎、真暮ニナツテ
カケ出ル。中ニモ八正寺ノ覺藏坊ハ、齒ノ直リ一
尺四寸アリケル大斧ニ音貝ヲ打タル柄ヲ付テ。
輕々ト擡ケ。敵中ニ切テ入ル。是ニ當ル者。或ハ堯
釜ノ鉢ヲ頤マテ梨刻ニ切ラレ。或ハ胴切又ハ人
馬共ニ討居ヘラレケレバ、覺藏坊ガ馳廻リレ邊
ヲ見ル中ニ死人ニテ一堆ノ山ヲナス。目ザ、レ
カリレ。復共ナリ。完栗作十郎、猪股左衛門、太夫ハ
一手ニナリ。眼ヲイラ、ケ獅々ノ吼ルゴトクナ
ル。色ヲ出シ、加様ノ処ニテ生ント思ヘバ死シ。死
セント思ヘバ生ル者ゾ。汝等心ヲ一ツニシテ、只

一息ニカケ破レト味方ヲ白眼シテ下知レケレ
バ、士卒等モ今ハ遁レヌ処ゾ。一業所感ノ我々ガ
死狂ヒスルヲ見ヨヤトテ。縱横無碍ニカケ破ル。
城共等ハ復共セズ。一人モ遁サズ討取レト。此ニ
群リ彼ニ叫ビ、鋒ニ火花ヲ咲セ。短兵急ニ攻立ル。
スサマシカリケル復共ナリ。

猪股左衛門、太夫、若戰并、神村再切入城中事
寄手ハ遁レヌ処ト思ヒ。必死ニナツテ切り出シ
カ共。遁出シ者ハ少クシテ。討ル、者数ヲ知ラス。
清水甲斐守政國ハ、後陣ニ抑ヘレユヘ。漸ク敵中
ヲ切り抜テ、城戸ヨリ外ニ出タレドモ、内堯釜綿

嘯ノ逃レ。尤ノ籠手ヲ始ノ。浅手深手教个所負テ。
朱ニナツテ道レ出ル。猪股尤衛門、大夫光秀ハ近
ヅク敵三騎切テ落シ。即等ノ中山中、太宇佐治殊
吉ト。主従只三騎ニナリ。何所ヨリカ遁レ出ント
見廻セドモ暗サハ暗シ。何ト心ニ思ヒ分タル方
モアラガレバ。松明ノ光リ少ク見ヘテ。関ノ壱ノ
高カラガル方ヲ。敵ノ手ウスキ処ナリト心得テ。
無二無二ニカケ入レトモ。十方悉ク敵ナレバ。此
ニ奔リ彼ニ馳辛キ命ヲ助カリ。城外へ逃出テ。味
方ノ勢ヲ待合スル処ニ。五騎三騎馳集リ、四五十
騎ニナリニケリ。係ル処ニ完栗作十、即範高カ合
弟神村作五、即範景敵ノ首ヲ片手ニ捉ケ馳来リ
如何ニ猪股殿恙ナク候ヤ。兄範高ガ行衛ヤ知リ
玉ハヌト問フ。範高ハ猶モ本城ノ方へ馳行レシ
ガ。勢モ散々ニナリシカバ。今ハ定メニ討死セラ
レツルナラント云ヘバ。サシモニ勇ミシ神村。シ
ホくとナリ泪ヲ流シ。兄ノ死生ヲ知サルユへ。
城中ヲ馳廻リ。只今マテ尋子シカトモ終ニ巡
リ逢サルユへ。若ヤ遁レ出玉ヒシト。敵中ヲ切り
抜テ。是マテ遁レ参リタリ。是見玉ヘ此首ハ。兄範
高ト目比遺恨深カリシ。世良彦次郎ガ首ニテ候
ナリ。某組討ニ討留メシユへ。範高二見セテ悦バ

七候ハント存ジ。多ク敵モ討シカド。此首ハカリ
 ハ持出シニ。叔ハ討死シ玉ヒシニテゾアルラン。
 今ハ此首モ何カセント。大地ニ抛テ敵定メテ慕
 ヒ来ラン。旁ハ早ク引取り玉ヘ。範景ニ於テハ。兄
 ノ死生ヲ知ラズンバ。決シテ城外ニハ出候ハジ。
 若範高討死ニ於テハ。某モ共ニ討死シテ。黃泉ノ
 旅ニ俱ン。サラバクト云ヒ捨テ。又城中ニ馳入り
 ケリ。完栗作十郎範高ハ。武勇双ヒナキ者ナリケ
 レバ。如何ニモシテ切り抜ント。千変万化シテ戦
 ヒケルガ。付從ヒケル軍勢共モ。多クハ討レ。其余
 ハ逃散リテ。片山千内ト。主從只二騎ニナリ。連モ

遁レヌ命ナレバ。同じクハ城ノ大将ト組テ。討ハ
 ヤト思ヒケレバ。イサヤ敵ニ紛レテ本城ヘカケ
 ント。本丸ノ方ヘ馳テ行ク。敵ノ士卒等是ヲ見
 テ。爰ニ紛レ来レルハ。寄手ノ勢ゾ。遁スナト云フ
 程ユソアレ。多勢ノ中ニヲツ取り籠メ。火水ニナ
 レトゾ攻タリケル。

完栗範高與覺藏坊爭勇力。并勝田退口合戦事
 完栗作十郎範高ハ。多勢ノ敵ニ取り囲マレ。境登
 フモ打落サレテ。大童ニナリ。鎧ノ袖草摺ヲモ切
 リ落サレ。向フ敵ヲ馬ニテカケ倒シ。切り抜ケク。
 妻手ノ方ヘカケ出タルニ。大杉ノ生繁リタル陰

ヨリ。八正寺ノ覺藏坊。片手ニハ松耶ヲ打フリ。片
 手ニハ大斧ヲ提ケ。完栗殿珍シヤ。参リサウト馳
 向フ。範高莞余ト打笑ヒ。羽武者共ト出合テ。討死
 セント思ヒシニ。御坊ノ手ニカ、リ。引導ヲ受ン
 コソ嬉シケレト。朱柄ノ大鎗ヲ引ソハメ。静々ト
 馬ヲ歩マセ寄ル。即等ノ片山千内真中ニ馳塞カ
 リ。覺藏坊ニ討テカ、ル。法師カケ開キ。大斧ニテ
 打ド打バ。片山綿階ノ邊ヨリ。胴中マテ切り込レ。
 只一討ニ死ンダリケリ。範高是ヲ見テ。アライカ
 メレノ御坊ノ勇力ヤイテ。範高カ鎗先ヲ見セ申
 サント。人交モセズ。只二人馳寄セツ。驅開キツ。大

竜ヲ揚テ相戦フ。兩方聞ユル。大カナレハ。曾テ勝
 負見ヘザリシニ。範高透開ヲ見テ。大鎗ヲ持テ開
 テ打ド突ク。覺藏坊チヤクト開キ。左ノ手ニテ鎗
 ノ莖本ヲシカト取り。大斧ニテ只一討ニト切付
 ントスルヲ。完栗手早キ男ナレバ。ツト乘寄テ斧
 ノ柄ヲ打ド握リ。互ニ二一ヤト引合フタリ。大カト
 大カガ獅々ノ齒噛ヲナシ。金剛力ヲ出シテ引合
 フ程ニ。二人共ニ馬ヲ百ト乘倒シ。完栗モ。覺藏坊
 モ。共ニ下ニヨリ立ツタレトモ。互ニ鎗斧ヲ少モ
 放タズ。揉合ヒシガ。偈一息休ント。覺藏坊ハ鎗ノ
 柄ヲ放チ。範高ハ斧ノ柄ヲ放チ。火シ兩方ヘ引分

レテ息ヲ續ク。二人ガ喚キ呼ビシ言ニ。城共等百
 騎ハカリ馳集マリ。十方ニ馬ヲ扣ヘテ見物ス。完
 栗是ヲ見テ。斯テハ覚藏坊ヲ討取ル共我身遁レ
 ガタシト思ヒケレバ。覚藏坊今ハ是マテゾ。勝負
 ハ童子テ仕ラン。長居ハ無益ト云ヒ捨テ。籠引ソ
 バメ奔走ス。百騎バカリノ城共等追カケントヒ
 シメクヲ。覚藏坊大ニ制シ。左ハカリノ勇士ヲ何
 トテ討止ヘキゾ。必ズ追フベカラス。嗚呼大勇カ
 ナトツ感シケル。斯テ完栗ハ歩立ニナリ。遁レ出
 ントスル処ニ。又向フニ敵共等。数百騎ウスミ
 テ扣ヘ居ル。範高シヤ物々シト突テ入り。四方ヲ
 拂ヒ八回ニ當ル。係ル処ニ舍弟神村作五郎範景
 ハ。範高ノ行衛ヲ尋子。城中ヲ東西南北へ馳廻リ
 ケルガ。丁文字ニカケ入テ。前ニ頭ハレ後口ノカ
 ク。左ヲ撃右ヲ突キ。勇ヲ振ツテ戦ヒシカバ。敵辟
 易シテ。必シ四方へ引退ク。其間ニ神村ハ。離レ馬
 ノアリケルニ。兄範高ヲ打乗也。偕退キ玉ヘト云
 フマ。ハニ。範景真先ニ進ンデ。一方ヲカケ破リ。向
 フ敵ヲ切り散シカケ乱シ。兄弟共ニ。身ニハ表ノ
 毛ノゴトクニ矢ヲ射立テラレ。痛手数個所負ナ
 ガラ。難テク城外へ切り出テ。辛キ命ヲ助カリケ
 リ。大将上總介政村ハ。昇速城ノ落サルハ。若敵ニ

中興大平記

卷之三

十七

ヤ計ラレツルトテ城邊マデ備ヲ出シテ待玉フ
処ニ清水甲斐守猪股左衛門大夫等這々命助力
リテ朱ニナツテ逃来リ右ノ赴ヲ申シケレハ政
村大ニ怒リ只一息ニ乗破ラント宣ヒシヲ清水
猪股大ニ諫メ若城中ヨリ追出テハ其トキ急ニ
攻テ付ケ入りニ至ヘトテ静マリ返ヘテ待処
ニ黎明ノ比ニ及ンデ完栗兄弟逃レテ馳来ケレ
ハ大将悦喜斜ナラス城兵等ハ兼ニノ下知ニヨ
ツテ一騎モ追出ル者ナカリケレバ其ヨリ政村
本ノ陣所ニ勢ヲ引入レ玉ヒケリ爰ニ搦手ノ方
島田ノ方ヘ向ヒタル勝田伯耆守村定ハ五百余

騎ヲ島田ノ林ノ中ニ伏テ落来ル敵ヲ待処ニ城
ノ落タル躰モナク既ニ横雲モ分ル比ニ及ヒ
シカバ扱ハ味方討負タルニコソ却ツニ敵寄ラ
レヌト竟ルゾトテ士卒ヲ從ヘ引取ル処ニ兼テ巧ミ
シコトナレバ仁保弥平兵衛尉搦手ノ城戸ヲ闢
キ持テ出テ向フヲ遮リ討留ント闕ヲ作りカ
ク入レ乱レテ相戦フ係ル処ニ東條又四郎百五
十騎ニテ思ヒモ寄ス伯耆守ガ勢ノ後口ヨリカ
ケ出テ一同ニ咄ト打テカハル寄手ノ勢是ニ警
キ前後ノ敵ニ取リ籠ラレテ犬死スナト云フ程
コソアレ鎧兜蓋太刀刀ヲモ取リ捨命ヲ拾フヲ

勝ニシテ。細キ礮ヲ押合ヒ搦合ヒ落テ行ク。城兵ハ氣ニ乗テ。一人モ道サズ討止ヨト。追カケク討取タリ。勝田伯耆守村定取テ返シテ。向フ敵三騎切テ落シ。直モ進ンテ見ヘケル処ニ。即等共五六騎取テ返シ。一支ヘ支ヘント扣ヘタリ。城兵等ハ勝田が勇氣ニ辟易シ。方々ニ群リ立テ。只闕ヲ作ルバカリナリ。勝田是ヲ見テ。サア引取レト引テ行ク。敵追ヘバ取テ返シ。敵引バ引退キ。斯五六度モセシ処ニ。衣笠が軍使来リ。早ク引取ルベシト告ケレハ。弥平兵衛尉士卒ヲマトメ。追捨テ引取リヌ。勝田後殿ニ打テ。數廻取テ返セシユヘ。此手ノ軍勢死ヲ免ルハ。コトヲ得タリケリ。

伏川三郎次郎企迎心事

去程ニ城中ニ討取ル処ノ首ヲ數フルニ。凡二千四百余級生捕百二十三人思フマ、ニ勝利ヲ得テ。城中ノ諸勢悦ビ勇ムコト限リナシ。寄手ノ大將上總介政村ハ。大ニ悔怒リ。吾愚ニシテ敵ノ計リコトニ乗セラレ。多クノ士卒ヲ討セヌルコソ口惜ケレ。完栗兄弟。猪股勝田等勇ヲ震ハズンハ。士卒一人モ助カル者アルベカラズト。大ニ是ヲ感シ玉フ。又伏川三郎次郎ガコト。一族藤原ト心ヲ合セ。味方ヲ討シニ疑ヒナシ。如シ伏川ヲ誅セ

ンニハト怒ラレケルヲ。秋津宮内、火輔秀國、清水甲斐守政國大ニ諫メ。今譜代ノ者共悉ク敵ニ與シ。迎亂出来リ候時節罪ノ疑ハシキヲ以テ。誅伐ニ行ハレナハ味方ノ諸士狐疑ヲ生ジ。殊敵ニ屬スル者多ク出来リ又ヘク覺ヘ候。只其マト指置シ。暫ク渠カ挙動ヲ御覽ナサレ候ヘ。伏川躰ノ者何程ノコトヲカ仕出シ候ベキト諫メケレハ。政村ト暫ク怒リヲ抑ヘ居ラレケリ。伏川此コトヲ傳ヘ聞我君ニ對シテ露バカリモ。不忠ノ心ヲ存セス。ト云ヘドモ。敵ノ計略ニ乗セラレツルナリ。吾方ヨリ計ラレツルハ則大將ノ計ラレ玉ヒツルアラズヤ。能々係ル愚將ニ使ヘ。誅戮ヲ蒙ンヨリハ敵ニ與シテ子孫ノ長久ヲハカラント思ヒ。下族篠原主膳共衛尉ガ持口ヘ矢文ヲ射テ。此度味方大敗ヲ取リシコト。某敵ニ一味シテ。味方ヲ計リシナラントテ。大將政村疑心深ク。某ヲ誅セント相議ラレ候ナリ。此上ハ志シヲヒルガヘシ。城方ニ一味仕ルベシ。就テハ味方ニハ完栗秋津猪股以下。武功秀テタル輩多シト云ヘドモ。大將愚ニシテ諸勢ノ心一致ナラス。士卒用心ヲ怠リ候ナリ。来立百ノ夜五更ノ比。城中ヨリ夜討ニ寄ラレ候ヘ。其トキ某味方ノ陣中ニ火ヲ放チ。十方ニ馳

散テ。敵トモ味方トモ知レザルヤウニシテ。却カ
レ候ベシ。然ルトキハ内外ノ敵ニ氣ヲ失ヒ大ニ
潰ヘ崩レ候ハン。然ラバ遠ク敵ヲ掃ハンコト。此
一戦ニ候ベシ。是ヲ以テ某ノ忠ニ備ヘ候ハント。
委細ニ書送リケレバ。城主キヌカサ大ニ悦ビ。篠原ヲ
シテ。相圖ノ返狀ヲゾ射返サセケル

秋津宮内、少輔響應伏川 伏川被生捕事

伏川三郎次郎此返狀ヲ取りテ。謀既ニナリヌト
大ニ悦ビ。己ガ陣所ニ飯リ。静カナル所ニ入り。彼
密狀ヲ披キ。指ウツムキテ。思案ヲ巡ラシ居ル也
ニ。秋津孫四郎国花ハ。伏川ガ断金ノ友ナリシ也。

計ラザルニ伏川ガ後口ニ来リ。伏川殿何ヲシ玉
フニヤト云ヘバ。伏川大ニ驚キ。彼密狀ヲチヤク
ト袖ニ入レ。周章タル躰ニテ。秋津殿力如何ニヤ
クト云フ。秋津心早キ男ナレバ。此躰ヲ怪シク思
ヒシガ。去氣ナクモテナシ。伯父宮内、少輔秀国。何
ヤラン申シ談ズベキコトアレバ。御邊ヲ俱ヒ来
ルベキ旨申候イザ、也玉へ御供セント云ヘバ。
伏川モ是非ナク秋津ト打連テ。秀国ガ陣所ニ至
リケリ。孫四郎国花早ク。秀国ニ目クハセ、レカ
バ。秀国心得テ。能程ニ探探ス。斯テ国花傍ニ立ヨ
リ。秀国ニ私語キンカバ。秀国打ウナヅキ。伏川ガ

前ニ出領所コリ者多ク到来仕り候ヒシ程ニ酒
 一ツタベテ陣中ノ憂サヲ慰ンタメ招キ申テ候
 トテ種々ノ酒肴ヲ連子孫四郎ト二人様々モテ
 ナシ座真ニ乗ジ大ニ酒ヲ強イ腕ヲ燃手ヲ執リ
 ナンドシテ酒醉ニ及ビケルニ伏川覚へズ彼
 狀ヲ袂ヨリ落シケレバ国花急ギ彼狀ヲ取テ懐
 ニ入レ左アラヌ躰ニテ居タリケリ伏川大ニ醉
 沈ミ服ヲ告テ飯リケレバ国花頓テ彼狀ヲ聞キ
 見ルニ城中ヨリ夜討ヲカクベキ密狀ナリ国花
 急ギ伯父秀国ニ是御覽候へ某カ心得ス存ゼシ
 ガ案ノゴトク伏川敵ニ與シ夜討ノ術ヲナシ候

ト云へバ宮内火輔秀国大ニ驚キ我此密狀ヲ取
 リ得スンバ渠ヲ搦メテナリトモ奪ハント思ヒ
 シニ落シヌルコソ幸ナレ急ギ大将ニ指上シ
 国花ヲ俱ヒ大将ノ本陣ニ参リ彼狀ヲ指上ゲ右
 ノ次第ヲ申上ル政村大ニ怒リ吾伏川ガ心底ヲ
 心得ズ思ヒシユヘ誅セント云ヒシ者ヲ旁ガ制
 ヲシユヘニ免シ置テ又キヤツニ計ラレントセ
 シコソ安カラ子渠ヲ磔ニカケテ諸士ノ見ゴラ
 シセト怒リ玉フ秀国其トキ仰ニテハ候へ
 ドモ敵ノ計略ヲ引替テ味方ノ術トナスベキ謀
 ノ候先忍ビヤカニ伏川ヲ生捕リ城中ニ知ラザ

ルヤウニ仕リ。敵夜討ニ寄来ラバ。伏川ガ相圖セ
 レゴトク。味方ノ陣中ニ火ノ手ヲ揚ケ。敵ヲ思フ
 圖ニ引入レテ。伏兵ヲ以テ取リツ、之。一人モ残
 サズ討取り候ハン。是レ此度夜笠ガ。味方ヲ城中へ
 引入レテ。大利ヲ得レ術ト。同ジ謀ニテ假ハスヤ。
 是ヲ以テ先日ノ耻辱ヲ雪ギ候ハン。時尙移リテ
 伏川ヲ取逃シナバ。悔ルトモ甲斐候ハン。秀国
 国花兩人手勢ヲ引連レ馳向ヒ。伏川ガ陣屋ヲ取
 リ囲ム。孫四郎国花若黨五六人從へ内へツト入
 テ見レバ。伏川ハ前後モ知ラス醉伏タリ。国花引
 起シ。御邊逾心ノ聞へアリ。大将ノ御前ニ参リ。護

者ノ實否ヲ申レ聞カレヨト。忽ニ生捕レバ。伏川
 ガ即等共是ヲ見テ。既ニ討テカ、ラントスルヲ
 秀国大音揚ケ。汝等早マツテ卒尔ノ働キヲスベ
 カラス。伏川隠謀ノ旨沙汰アルニヨツテ。召取テ
 子細ヲ尋子ラル、処ナリ。汝等モ平伏シテ綱ヲ
 受ヨ。悉ク誅セヨトノ仰ナランニハ。汝等如何ニ猛
 クトモ。在バカリノ小勢ヲ。我屑トモ思フベキカ。
 吏ノ實否ヲモ糺サレサル先ニ早リテ吏ヲ仕損
 ジナバ。汝等ガ身ヲ亡ボスノミナラス。主人伏川
 ニ對シテ。太不忠ノ至リナラン。主ノ安否ヲモ見
 定メス。死ヲ急クハ何ゴトゾト。理非分明ニ云ヒ

ケレバ。伏川ガ勢理ニ服シ。皆巴ト生捕レシカバ。秀國。国花ガ軍勢共敢テ太刀ニ血ヌラズレテ。悉ク生捕タリ。諸人是ヲ見テ。秀國ガ謀オハ。陳平。子房ニモ劣ルヘカラズト。大ニ是ヲ羨談セリ。

大定

中國太平記卷之二終

大定

中國太平記卷之第三

目錄

衣笠尤近兵衛尉氏固夜討事

安川平六高名

附 松村市郎誤討主人事

八正寺覺藏坊後殿

附 秋津官内少輔秀國武者振事

伏川死罪 竝 清水政國叱久米近氏事

小沼橋合戰事

五十嵐又四郎笠松五郎八毛付高名事
弥高城攻

附五十嵐又四郎最期事

庄右京亮一番乘

並牛窓與市討石黒事

三穗田新右衛門武勇

並甲斐太郎関城事

中國太平記卷之三

洛下 馬場玄隆信意輯錄

衣笠元近兵衛尉氏固夜討事

去程ニ松山ノ城中ニハ。伏川ガ内通ニヨツテ。大ニ悦ブコト限リナシ。敵ヲ遠ク拂ハンコト。此一戦ニアリト。同キ十月十二日ノ夜ノ寅ノ寇徒第ノ衣笠元近兵衛尉氏固ヲ大将トシテ。東條又四郎仁保弥平兵衛尉ヲ相添ヘ篠原主膳兵衛尉ヲ先陣トシテ。七百餘騎ヲ指向ル。此勢城ヲ忍ビ出。寄手ノ陣ニ押寄ル。寄手ニハ兼テ巧クシコトナレバ。陣々ノ篝火ヲ打消シ。先手ニ備ヘシ張番ノ者

兵モ篝火ヲカスカニ焼捨テ前後モ知ラズ伏タル
 躰ヲゾ見セカケル城兵等仕スマレタリト悦
 ビ同音ニ関ヲ咄ト作り雨ノ降ルヨリシゲク手
 ダレヲ揃ヘテ射サセタリ先陣ニ備ヘタル完栗
 作十郎範高が軍勢兵大ニ周章タル躰ヲシテ上
 ヲ下ヘト騷動ス篠原主膳兵衛尉是ヲ見テ何ユ
 ヘニ猶豫フゾ鬼神ト呼レツル完栗ガクビヲ討
 ンコト今宵ノ中ヲ出ベカラズ我ニ續ケヤ者共
 ト真先ニ馬ヲカケ入ルレバ士卒等一同ニ喚イ
 テカハル完栗ガ勢暫時拒キ戦フトゾ見ヘシ我
 先ニト敗北シ蜘蛛ノ子ヲ散スガゴトクナカハ

逃失セケリニ陣ニ備ヘシ秋津が勢モ一支ヘモ
 支ヘス敗北ス係ル処ニ後陣ノ方火ノキヲ揚
 ルトゾ見ヘシ諸陣一同ニ震動シテ只今世界奈
 落ノ底ニ陥ルカト怪シマル城兵等是ヲ見テ須
 破伏川ガ相圖ノ火ヲカケタルゾ弊ニ乗テ們立
 ヲ大将赤松殿ト見バ何所マテモ追カケヨト馬
 ノ鼻ヲ双ベ鋒ヲ揃ヘテカケ入ントスル処ニ陣
 前ニ乱株逆茂木ヲ引テカケ入ルベキ様ナケレ
 ハ諸勢猶豫ヒ居タリケリ係ル処ニ大将政村ノ
 本陣ヨリ相圖ノ太鼓ヲ打出スト等シク陣々ニ
 雲火ヲ一同ニ焼上ケ松明ヒシト耀キ渡リ宛モ

白登ノゴトクニシテ。千雷万鼓一同ニ鳴リ止テ。
諸陣靜マリ返リ整々トシテ扣ヘタリ。に保弥平
兵衛尉是ヲ見テ。敵ニ計ラレツルト覺ユルゾ。取
リ囲マレナハ一人モ遁ル者ハアルマシキゾ。早
ク引取レヨ者共ト身ヲ捫テ下知スル処ニ。宇野
勘解由左衛門尉村範ガ陣ヨリ。矢先ヲ揃ヘテ散
々ニ射ル。城兵等是ニ中ツテ。漂ヒ騒ク処ヲ。村範
得タリ賢レト。大長刀ヲ水車ニ廻シ。一文字ニカ
レバ。士卒我レ劣ラジト討テカハリ。敵中ニカ
ケ入テ。東西ニ馳通り。南北ニ驅ナビケ。突テ切
立テ戦フタリ。

安川平六高名 附松村市郎誤討主人事

宇野ガ勇氣當リガタク。城兵等辟易シテ見ヘシ
カトモ。俄ニ引取ルコトモ叶ハス。悶へ漂ヒ居ル
処ニ。早晚ノ程ニカ廻リケン。完栗作十郎範高舍
第禰村作五郎範景敵ノ後陣ニ寄来リ。一色関ヲ
咄ト作ル。衣笠左近兵衛尉氏固敵ハ伏兵ヲ以テ
後口ヨリカ、リタリ。備ヲ立直セヨト下知スレ
ト。士卒等辱ニモ聞入レズ。上ヲ下ヘト動揺ス。完
栗カ勢勇進。無二無三ニ馬ヲカケ入ル。衣
笠ガ勢一支ヘニモ及バズ。我先ニト逃行クヲ。東
條又四郎馬上ニ鏡ヲ横タヘ。汝等キタナクモ敵

ニ後口ヲ見スル者カナ。返シ合セテ討死セヨ。逃
ントセバ。一人モ助カル者アルベカラズト。大邑
ヲハゲマシ眼ヲイラハケ。籠ノ柄ニテ夕、キ立
ル。是ヲ見テ安川平六我ニ續ケツ者共ト。只一騎
選ガル敵ノ真中へ。一文字ニカケ入テ。爰ヲ詮ト
相戦フ。東條ニ義ヲ進メラレ。二十騎ハカリ取テ
返シ。拒ギ戦フト云ヘドモ。氣ニ乗タル勢ナレハ。
我先ニ高名セント。喚キ叫ンテ戦フタリ。其間ニ
衣笠ガ勢守リ返シ。入レ乱レ火ヲ散ス。爰ニ安川
平六ハ敵三騎切テ落シ。猶モ白キ馬ニ乗テ。爽一
ヨロフタル敵ヲ目ガケ。手レケク追テ。岸陰ニ至

ル。古松枝指掩ヒ。殊ニ暗キ処ニテ。彼敵取テ返シ
汝何者ゾ。名ヲ名乗レト云フ。平六聞テ。河州ノ島
山ニ仕ヘシ。安川平六ト云フ者ナリ。逃キ比ヨリ
常國ニ下リ居レリ。赤松家ノ者共ノ武勇ハ知リ
ツル者ヲ。汝ハ何者ゾト問フ。彼武者聞テ。我ハ熊
崎矢部丞ゾ。我手ナミハ聞及ヒツラン者ヲト。互
ニ名乗リ合ヒ。馬ヲ乗リ放ツテ。安立ニナリ相戦
フ。兩方命ヲ限リニ戦ヒシガ。熊崎モ眉間總角付。
左ノ籠手。其外数ヶ所痛手ヲ負フ。安川モ左ノ頬
先綿嘴ノ逆レ。太股膝口数多所痛手ヲ負ヒ。一人
共ニ半死半生ニナリシカハ。心神クラミ起ツマ

口ビツ。互ニ大言ヲ揚テ怒リ罵リ。已レ安川道カ
 ジ者ヲト云へバ。已熊崎尋常ニ首ヲ渡セト。互ニ
 大ニ叫ンテ。奮打ニ打テウゴメキ居ル。然ル処ニ
 兵部丞ガ即等。松村市郎ト云ヒレ者。主人ヲ尋子
 テ馳廻リケルガ。已レ熊崎道カジト。喚ク言ヲ聞
 付ケ。アハヤト思ヒ。言ニ付テ馳行是ヲ見テ。爾無
 三寶ト走り来リ。暗サハ暗シ心セキ。過ツテ敵ゾ
 ト思ヒ。主人熊崎ヲ切伏セ。已ガ主ノ熊崎ナリト
 思ヒ。安川ヲ引立テ。鎧ノ上ニ擡負ヒ。後陣ノ方へ
 引退ク。安川ハ眼クヲミ。前後ヲ忘ビケルガ。人心
 付テ。四方ヲ見廻ハセバ。敵中ナリ。コハ如何ニ也

ント思ヒナガラ。物ヲモ云ハス行ク処ニ。松村少
 シ休マバヤト思ヒ。傍ノ静ナル処ニテ。安川ヲ下
 シ。心ハ何ト候ゾ。深手ヤ多ク負ヒ至ヒツルト云
 ス。処ヲ松村ガ胸板ヲ突テ打倒シ。頓テ上ニ乘リ
 カル。松村驚キ。コハ在氣ヤシ至ヒツルト云へ
 バ。我ハ安川平六ナリ。已ガ最前討ンコソ。熊崎ヨ
 トテ。松村ガ首ヲ搔切り。太刀ヲ杖ニツイテ。暗キ
 ヲ便リニ敵中ヲノガレ。味方ノ勢ノ中へカケ入
 テ。危キ命ヲ助カリケリ。

八正寺覺藏坊後殿 附 秋津秀因武者振事
 去程ニ衣笠ガ勞。前後ノ敵ニ取り囲マレ。瓦ノゴ

トクニ解ケ。崩レ立テ逃ル程ニ。親ヲ捨テ馬ニ
置テ。我レ先ニト敗北ス。大将右近兵衛尉氏回仁
保弥平兵衛尉大ニ怒リ。爰ヲ逃テ再ビ誰ニ面ヲ
向フベキ返シ合セテ討死セヨト。馬ヲ引返シク
下知シケレドモ。引立タル勢ノ碎ナレバ。耳ニモ曾
テ聞入レズ。親討レ兄弟ノ死スルヲモ顧ス。右往
左往ニ落行ク処ニ。秋津宮内少輔秀国舍弟十藤
坊心樂何所ヨリカ廻リケン。士卒ヲ従へ横令ヨ
リ討テカ、レバ。又散々ニ切りナサレ我一ニト
逃行クヲ追カケ追討程ニ。或ハ難所ニ行カ、
リ。心ナラス腹ヲ切ルモアリ。是非ナク敵ニ生捕

ル、モアリ。手負死人道路ニ備テ。紅波一帯ノ川
ヲナス。洩猿カハレ復共ナリ。爰ニ八正寺ノ覺藏
坊ハ。城中ニ居タリケルガ。今宵ノ合戦ニ。諸人ノ
高名セシコトヲ。羨シク思ヒ中間一人従へ城中
ヲ忍ビ出ル。門番ノ者共大ニ咎メ。大将ノ御下知
ナクンバ。門ヲ通スコト堅ク叶ヒ候マシト云フ。
覺藏坊大ニ怒リ。其ハ人ニコソヨルベケレ。此法
師が通ランニ。誰カ否ト申ベキ。以後ニ此詮儀ア
リトモ。汝等ガ越度ニハスマジキゾト。是非ヲ云
ハセズ門ヲ開カセ。右ニ例ノ大斧左ニ例ノ大松
明打振リく馬ヲ飛セテ馳タリシガ。味方散々ニ

賊軍スル必へ行カ、リ。木音揚テ。八正寺ノ覺藏坊ゾ。心易カレ。旁後殿ハ此法師ガ請取ルゾ。氣遣モナク引レヨト云へバ。氏固悦ヒ我々ハ大ニ戦ヒ疲レテ候へバ。御坊ヲ頼ミ存ルゾトテ引テ行ク。覺藏坊大斧ヲ打振テ。真先ニ進ム者共五六人。忽ニナキ居レバ。士卒等舌ヲ鳴シ身震ヒシテ。又例ノ斧坊至ソ。キヤツニ近付殺サレンハ。犬ニ喰ハレタルト同事ナリ。只遠矢ニ射テ落セト。簾ヲ捕ヘテ散々ニ射ル。覺藏坊打笑ヒ。イデ驅散シテ捨ントテ。大斧ヲ振リ廻レ。喚テカ、レバ。軍勢六甲角八方ニ散乱ス。係ル處ニ秋津宮内火輪秀圓

馬ヲ馳テ先手ニ来リ。必敵ヲ追フベカラズ。早ク引取レヤト。采牌ヲ打振リ。手先ヲ五六遍乘廻ストゾ見ヘシ。勢ヲ纏メ引テ行ク。覺藏坊是ヲ見テ。天晴能キ隊將ゾ。敵ナガラモゲナゲナル武者振カナト。大ニ是ヲ感稱シ。閑々トゾ引行ケル。

伏川死非並 清水政因叱各米近氏事

去程ニ赤松上總介政村ハ。敵ヲ思フ圖ニ偽引入レ。犬ニ勝利ヲ得ラレシコト。偏ニ秋津ガ謀オニヨル者ナリト。大ニ是ヲ感シ玉ヒ。其後伏川三郎次郎ガ妻并ニ十歳ト八歳トニナレル二人ノ男子ヲ。故郷ヨリ喚取りテ。渠等悉ク敵城ノ前ニ磔

ニカケ。諸士ノ見ゴラシニセヨト下知シ玉ヘバ
士卒等伏川夫島父子四人ヲ搦メ。城ノ追平口ニ
引出シ。城ノ方ヲ向ハセテ。四人共ニ礮ニカケ。城
中ノ者共是ヲ見ヨ。篠原是ヲ見ヨト喚ハツテ。一
同ニ咄ト笑ヒケレハ。衣笠篠原ヲ始メ。城中ノ者
共大ニ怒リ。闕ヘケリ。城中ニハ夜討ヲ仕損ジテ。
士卒多ク討レシ故。勇氣疲レテ打テ出ベキ義勢
モナク。固ク城ヲ守リ居シカバ。赤松政村諸臣ヲ
集メテ。合戦ノ評議アリ。其トキ久采十郎左衛門
尉近氏老岸等ノ異見ヲモ待ス。進ミ出テ申シケ
ルハ。世既ニ未代ニ及ベリトハ申シナガラ。日月

ニ私照ナシ。爭カ係ル逆罪ノ者共。天罰ヲ蒙ラテ
候ベキ。此度術ヲ仕損ジテ。敵ノ多ク滅シユト。天
命ノ尽ヌル驗シニテ候ナリ。其上敵モカヲ落シ。
屋形様ノ御威光ヲ怖恐レ候ハン。此弊ニ乘ツテ
衣笠ヲ攻滅ホサレ候ヘ。城ヲ拔シユト一日ノ中
ヲ過候ハン。然ラハ甲斐太即ハ戦ハズシテ敗シ
候ヘシ。其ヨリ三石ヘ御祭向アリ。浦上ヲ攻落サ
レシニ。何條ユトノ候ベキト。最安ケニ申シケリ。
其トキ清水甲斐守大邑ヲ揚テ打笑ヒ。近氏ハ早
晩ノ程ニ斯マデ軍略ニハ達セラレシ。警入テ候
ナリ。去ナガラ。其ガ存ル旨ヲモ申ヘシ。元來御邊

御傍ヲ離レズ。出頭人ト諸人ニ仰カレ。傍如處
 ヲ旨トシテ。心ニ合ヘルヲ以テ。御前ヲ宜シク申
 シナシ。忠ナキニ莫太ノ賞ヲ與ヘ。譜代忠義ノ士
 ト云ヘドモ。御邊ガ心ニカナハザレバ。忽議ヲ擧
 ヘテ罪ナキニ所領ヲ没收シ。又追籠テ蟄居セサ
 セナント。其罪勝テ計フヘカラス。去ニ依テ當家譜
 代ノ諸士。又ハ武功名譽ノ輩。悉ク敵ニ属シ。當家
 ノ安否此トキニ究マレリ。御邊何国ニテ武功ヲ
 顕ハサレタル。夏アツテ。當城ヲ一戦ニ拔ントハ
 申サル。ゾ。我々ニ骨ヲ折ラセ。御邊早晚トテモ
 見物ノ役タレバ。合戦ノヤウハ知ラルマシ。必ス

言モ出サル。ナ。其ユヘハ。此度秋津殿ノ計略ニ
 テ。敵ノ術ヲ却テ味方ノ謀トナシ。思ハザル勝利
 ヲ得シコト。秋津殿ノ謀才人々ノ戦勞ニヨル者
 ナリ。然ルニ御邊天ニ皈シ。神明ニ任セラル。ハ
 何夏ゾヤ。天ノ加護ヲ頼ミテ。諸士身命ヲ抛タズ
 ンバ。何トテ必死ヲ免ルヘキ。増テ敵ヲ討コトヲ
 得ンヤ。然ルヲ諸士ノ戦功ヲ。ナキ者ニセラルハ
 條譴レナシ。天命ニヨルベクンバ。御邊一手ノ勞
 ヲ以テ。衣笠ヲニホサレヨト。居長高ニナリ。礮ト
 白眼テ云ヒケレハ。近氏一言ノ返答ニモ及バス。
 赤面シテ居タリケリ。政村聞玉ヒ。汝ガ云フ。死其

中國太平記

卷之三

理アリ。近氏力過ハ。動テ是ヲ決スベシ。先合戦ノ術ハ如何スベキヤト尋子ラル。其トキ政国聞テ。其退テ愚案ヲ巡ラレ候ニ。衣笠武功アル者ニシテ。諸士ヲ能懐ケ候ヘハ。城中ノ士卒共皆一致シテ敢テ変スベキ心ナク。東條又太郎ハ正寺寛藏坊以下。武勇ニ名ヲ得シ者共多ク。一味仕リ候ナリ。是ヲ力攻ニセハ味方多ク討ハ候ハレ。未ダ諸方ノ敵ヲ一人モ平ケサルニ。當城ニテ多ク士卒ヲ失ヒナバ。後度ノ合戦難儀ニ及ビ候ヘシ然リトテ。當城ヲ守リテ数ヶ月ヲ送ラバ。其間ニ諸方ノ敵方ヲ得テ。勢ヒ強大ニナリ候ハン。是當家滅亡ノ端ニテ。

候ハスヤ。一盃ノ水ヲ以テ。車新ノ火ヲ消スコトヲ得サルカゴトシ。去ルニヨツテ當城ニハ押ヘノ勢ヲ残シ置レ。弥高ニ御祭向アツテ。谷澤ヲ攻ニホサレ候ヘ。弥高ハ要害無下ニ決間ニシテ。士卒小勢ニテ候ヘバ。攻落シニ容易カルベク候。衣笠ハ数月ヲ経ナハ。兵糧尽テ已ト亡ビ候ヒナン。然ル上ハ弥高落居仕ラバ。直ニ備前ノ三石ヘ御向ヒアツテ。逆徒ヲ御退治候サレ候ヘト云フ。完栗秋津猪股等。皆此儀尤ニ候ト同ジケレハ。猪股左衛門大夫光秀。別所孫次郎。則定。秋津孫四郎。国花ヲ押ヘノ勢トシテ。残シ置レ。同キ十八日。松山表

ヲ引拂ヒ同国弥高山ヘゾ向ハレケル。

小沼橋合戦事

去程ニ赤松上總介政村ハ松山ヲ卷解シ完栗作
十郎範高秋津宮内少輔秀国ヲ先鋒トシテ弥高
山へ押寄ラル城至谷沢甲斐太郎大剛ノ者ナリ
ケレハ士卒ヲ集メ敵ヲ近々ト引受テ取巻レテ
ハ叶フマシト城ヨリ出テ小沼橋ヲ前ニ當テ只一
手ニナツテ待カケタリ完栗ガ勢打寄ルト等シ
ク関ヲ作り矢合セシテ入レ乱レ相戦フ寄手ニ
ハ牛窓源六同源九郎石川太郎兵衛尉等真前ニ
進ミ邊リヲ拂ツテ戦フ程ニ甲斐ガ即等庄彦ハ

原見十内香山新六等爰ヲ詮ト戦ヘトモ敵ノ来
銳遮リカタク城方ノ旗ノ手少シ色メク処ヲ牛
窓源九郎三木造酒允爰ヲ捫ヤ者共ト曳々色ヲ
出シ喚キ叫ンテ攻立ル其色天地震動シ世界忽
破裂スルカト怪マル城共等懐へ兼我先ニト逃
退ク原見十内是ヲ見テイテ追崩シテ見セント
テ大太刀ヲ真向ニカサシ躍リ出直チニ進ム寄
手ノ勢ヲ見ル中ニ六七騎切テ落シ直モ進ンテ
戦フ処ヲ石川太郎兵衛尉白木ノ守ニ鴻ノ本白
ニテ矯タル大矢ヲ打番ヒ暫クカタメテ兵ト射
ル思フ矢坪ヲタガヘズ原見ガ胸板ヲ後口ヘク

ツト射通セバ。ウント計ニ百ト伏ス。石川ヲヲ掩
捨首ヲ取ント走り寄ル処ヲ。原見カ中間首ヲ敵
ニ渡サジト。王ヲ肩ニ引カケ逃ケ退ク。寄平弥氣
ニ乗テ。切り立突立戦ヘハ。城兵等ハ猶モ勇氣ヲ
脱シテ敗北ス。城將谷沢甲斐太郎云ヒ甲斐ナキ
者共ガ一戦ヲモ快クセザルコソ安カラ子ト。後
陣ノ士卒ヲ引徒ガヘ掛レクト下知シテ。烟塵天
ヲ掠メ。鯨波地ヲ動カシ。崩レ立タル味方ノ勢ヲ
超越々々踏越反越返セヤ者共新平ノ勢ノ軍立
テ詭ク見ヨト。一同ニカケ入テ。縦横無碑ニカケ
破ル。其勢ヒ龍ノゴトク虎ノゴトシ。勝ニ乘タル

敵ナレバ。寄平ノ勢心バカリハ勇メトモ戦ニ成
レテ幾ト引キ。小沼橋ヲ追越ル。城兵等勝ニ乗テ。
橋ヲ越テ追カクル。完栗作十郎範高敵ヲ思フ圖
ニ入レタルゾ。切所ヲ越テ来ルコソ。天ノ與フル
処ナレ。味方ノ勝利此トキゾト。朱柄ノ大鍵ヲ馬
上ニテ。リウクト打振テ返セヤ者共返セクト喚
ハリカクレバ。物馴タル軍勢共只礮打恨ノ岩ニ
當ツテ返ルガゴトク。大返しニ咄ト取テ返ス。其
勢ヒ決然トシテ。洪河ノ裂ルガゴトクナレバ。城
兵等又辟易シテ見ユル処ニ。秋津宮内。少輔三柏
ノ紋付タル栲葉ノ旗ヲ。西風ニヒラメカシ。是兵

等ヲ前後左右ニ從へ。靜カニ太鼓ヲ打也。備合ニ
打テカ、レバ、城兵等タマリ得ズ。又小沼橋ヲ越
テ逃ケ退ク。甲斐太郎齒階ヲナシ。我ニ續ケヤ者
共ト。真前ニ取テ返シテカケ入ル程ニ。士卒等又
守リ返シ。小沼橋ヲ追越シタリ。敵味方互ニ橋ヲ
追越ツ追越レシ。四五度マテ揉合シカ、城兵等寄
手ノ勇氣ニ碎カレ。手負討ル、者数ヲ知ラズ。血
ハ葺頭ヲ染テ。紅葉ノ散乱セルガゴトク。屍ハ河
邊ニ落重ツテ。石階壘ヲ重子シガゴトクナレバ。
城兵等モ大ニ戦ヒツカレ。城中ニ引入レバ。寄手
ニ勢ヲマトメテ引取リケリ。

五十嵐又四郎笠松五郎八郎毛付高名事
去程ニ寄手ノ勢ハ日々ニ仕寄ヲ付持楯疊楯ヲ
被キツレ。喚キ叫ンテ攻近ヅク。係ル処ニ同キニ
十二月ノ黎明ニ。甲斐カ郎等黒瀬敵右衛門。城中
ヨリ物見トシテ出ケルカ。香西少輔五郎が陣ノ難
人共。小川ノ流レタル岸ニノゾミ。河水ヲ汲居夕
リ。敵右衛門遙ニ見テ。奴原ヲ見捨ニハナリカタ
レト馳寄テ。忽ニ人切り倒ス。是ヲ見テ。其余ノ者
共。ハフト云フテ。香西が陣ニ逃飯ル。黒瀬二人ガ
首ヲ掻切り。馬ノ平頸ニ付テ。靜々ト引飯ル。香西
が手ニアリシ。岩井小平次。穴津八郎兵衛。服部吉

太以下六七騎。我討取ント追カケテ。戴レ返セト
 喚ハリカクル。黒瀬是ヲ聞。ヨレナキ汝等カ腕ダ
 テ名ナ。首ノ数ノ多クナリテ。馬ニ迷惑サセンモ
 如何ナレトモ。汝等カ我ニ與ユル物ヲ。受サルモ
 無礼ナレバト打笑ヒ。馬ヲ取テ返レ待カケタリ。
 服部言太真先ニ進ミ。高名セント馳近ヅキ。能々
 見レハ黒瀬ナリ。是等兩人ハ幼少ヨリモ隔ナク
 云ヒ語りレ朋友ナリケル故。コハ如何ニ黒瀬殿
 カト云ヘバ。服部殿カ如何ニヤ如何ニト互ニ馬
 ヲ歩セヨリ。扱モ年比兄弟ニ勝ツテ。共ニ志ヲ通
 ジ。死ヲ共ニセントコソ契リレニ。士ノ習ヒトハ

云ヒナガラ。敵味方ト分レヌルコソ是非ナケレ
 ト。コレカタノ物語ナントスル処ニ。跡ニ續タル
 岩井元津等。コハ何ゴトゾ。服部ハ敵ト一ツカ。討
 得ズンバ。我々討取ント罵リカ、ル。吉太是ヲ聞。
 上ハ御邊ト我ト勝負ヲセン去ナカラ。互ニ討
 テモ討レテモ益ナキコト。生死リテ何カセント
 云ヘバ。尤ト同ジテ。二太刀三太刀戦フトゾ見ヘ
 レ。馬ヲ馳双ヘ引テガヘテ。指臺ヘテゾ死ンダリ
 ケル。岩井元津以下六ニアキレ。詮ナキ死ヲレツ
 ル者哉トテ。引返ニ処ニ。城兵ニ笠松五郎八郎。五
 十嵐又四郎ハ。高名ヲ心ガケ。毎朝城外ヲ巡リケ

ルカ。敵ノ遷ニ引行ヲ見テ備討取ント云へバ。五十嵐又四郎是ヲ聞アノ黒皮ノ鎧著タル武者ハ。其討テ見セ申サント詞ヲ致ッ笠松某ハアノ椎形ノ堦著テ。鶴毛ノ馬ニ乗タル敵ヲ討取テ見セ申ント。互ニ毛付シテ追カケタリ。黒皮ノ鎧著タルハ穴津八郎兵衛尉。椎形ノ堦著タルハ岩井小平次ナリ。五十嵐笠松聞近ク追カケテ返セクト詞ヲカクル。五六騎ノ者共本意ナクモ引返セシニ。天ノ與ユル獲物ナレト。一同ニ引返ス。時ニ笠松五郎八郎。一文字ニ馳来リ。岩井ト詞ヲカハシテ相戦ヒ。其後馬上ヨリ組テ落。岩井カ首ヲ取

テ立揚ル。五十嵐ハ其間ニ穴津ト暫シ相戦ヒ。終ニ穴津ヲ切り伏ル。其余ノ者共毛助ケ合セテ戦ヒシガ。叶ハジトヤ思ヒケン跡ヲモ見ズレテ逃テ行ク。笠松モ五十嵐モ毛付セシニ違ハス。思フ敵ヲ討取リテ。城中ヘゾ引入りケル。

弥高城攻 附五十嵐又四郎最期事

去程ニ赤松上總介政村。早晚マテ城ヲ守ルベキ。急ニ攻ク。千ズンバ。敵ハ目ヲ逐テ勢ヒ強大ニナリヌベシト。同キ二十四日。列伍ヲ正シクト、ノヘテ。軍令ヲ定メテ攻寄ラル。甲斐太郎モ勇智兼備ヘタル者ナレバ。切所ノ諾々ニ勢ヲ伏置。精兵ノ

手少レヲ以テ。爰ヲセント射サセケリ。然レトモ
 奇手ノ矢ニ合スレバ。猶其半ニモ足ラサレトモ。
 城兵等ハ物馴タル者共ト云ヒ。殊ニ案内ハ能知
 リツ。松楯ノ生繁リタルヲ小橋ニ取リ。或ハ山ノ
 片岸ヲ味方ノ要害トシテ。指取引取散々ニ射ル。
 奇手ノ先隊少シ射レラマサレテ進ミカ子。士卒
 等楯ノカケニ爭ヒ奇リ。背ヲクバメテ猶豫ワタ
 リ。時ニ神村作五郎範景大音揚是程ノ矢ニ怖レ。
 進ミ得ヌハ臆病ノ至リナリ。死ヲ顧バ罪カ大切
 ヲ遂ベキゾ。勢ノ程ヲ指カクスハ。小勢ナリトモ
 ヘタリ。何程ノコトカアルベキゾ。一人モ泄サハ

計取レト。身ヲ探テ下知スレバ。早リ雄ノ若者
 是ニ氣ヲ得テ勇ミ競ヒ。山川モ崩レ江内モ挟ル
 バカリ。喚キ叫ンテ攻上ル。城兵等手シケク敵ニ
 攻立ラレ。城戸ロマデ引退ク。甲斐小中太五十嵐
 又四郎二人。城中ヨリカケ出テ。大ニ怒リ。敵ニ
 等爰ヲ破ラレ敵ニ墜ヲ乘ラレナバ。我々何国ニ
 カ身ヲ隠シ。何ノ面目アリテ。誰ニ面ヲ向フベキ。
 命ヲ惜ハ必城ヲ落サルベシ。其トキ或ハ生捕レ。
 又逃隠レントシテ。敵ノ撫切リニ遇ナバ。屍ノ上
 ノ耻辱ナラン。逆モ遁レ又命ヲ索ク討死シテ。修
 羅道ノ業ヲ免レヨト。真先ニ進ミ戦ヘバ。士卒等

甲斐五十七歳ニ義ヲ進メラレ。必死ニナツテ相戦
 フ。五十嵐又四郎ハ向フ敵三騎切テ落シ。四騎ニ
 手ヲ負セテ。ノツタル太刀ヲ押直シ。猶モ進ンテ
 相働ク。寄手ノ勢ノ中ニ。三木弥五左衛門連負ハ
 播州ニ隠レナキ。強弓ノ手ダレナリケルガ。必レ
 小高キ処ニアガリ。大矢ヲ取テ散々ニ射渡レケ
 レバ。自雨ノ板間ヲ過ルコトチレテ。折モ鎧モ夕
 マラバコソ。死生ノ程ハ知ラ子トモ。矢場ニ武者
 七八騎小篠ノ上ニ射伏セタリ。五十嵐是ヲ見テ。
 奴一人ニ支ヘラル。コソ安カラ子イデ討取テ
 見セントテ。向フ矢ヲモ怖レス。兜整ヲ傾ケ射
 ノ袖ヲ指カガシ。ツト走来ル処ヲ。ヨツ引テ兵ト
 射ル。思フ矢坪ヲ過タス。五十嵐ガ真只中ヲ射通
 セバ。是モ小篠ノ上へ百ド伏テ。起モ直ラテ死ン
 タリケリ。城兵等ハ頼ミ切タル五十嵐カ。一矢ニ
 射伏セラレタルヲ見テ。色ヲ変レ漂ヒタリ。寄手
 ノ勢是ヲ見テ。得タリ賢レト息ヲモ絶ス。攻上レ
 ハ。城兵等捫立ラレ崩レ引ニ引ル。短兵急ニ追
 ッコル。

庄有京亮一番乗

並牛窓與市討石黒事

去程ニ寄手ノ勢。手レケク敵ヲ追カケテ。城中へ
 追込ム。処ニ牛窓與市。庄有京亮ハ。物馴タル剛ノ

者ナリケルカ。附入りニ乗取レト。敵ノ跡ニ引付
 テ。城戸際マテ馳付タレドモ。城戸ヲ早ク指堅メ
 タレハ。城中ヘカケ入ルコトヲ得ス。右京亮大ニ
 憤リ。倡乘込ント云ヘバ。牛窓尤ト同ジテ既ニ乘
 入ントスル処ヲ。右京亮頓テ牛窓ヲ引留メ。庄有
 京亮一番乗ゾ。後自ニ論スルコトナカレト。高ラカ
 ニ喚ハソテ。城中ニ乗込バ。與市大ニ怒リナガラ。
 續テ城ニ乗入ツタリ。是ヲ見テ完栗作十郎兄弟。
 秋津宮内。少輔大音アゲテ。庄牛窓ハ早乗込ンダ
 ルゾ。ヤレ乗込メト下知レテ。真先カケテ乗入レ
 バ。士卒等我劣ラジト乗込ンダリ。石黒十郎右衛
 門。鎧ヲ投ケ走り来ソテ。右京亮ヲ突伏ル。是ヲ見
 テ。與市石黒ニ渡レ合セテ相戦ヒ。石黒ヲ切り倒
 ス。城兵等洪水ヲ手ニテ防グガコトク。如何トモ
 スベキヤウナク。我先ニト敗走レ。本城ヘ逃入リシカ
 バ。寄手外郭ヲ乗破リ。悦ビ勇ムコト限リナシ。香
 西々轉五郎急ギ大将政村ノ本陣ニ来リ。此競ヒ
 ヲ脱サズシテ。直チニ城ヲ攻落サレ候ヘカレト
 云ヘバ。政村聞玉ヒ。吾モ左思ヒツルゾトテ。先陣
 完栗作十郎。及ヒ秋津宮内。少輔ヲ。軍使ヲ以テ招
 キ。寄敵ノ臆病神ノサメガル先ニ。早ク城ヲ押落
 サンハ如何ニト問玉ヘバ。秋津仰ニテハ候ヘト

中日文平記 卷之三 十九
モ日モ早夕ケテ候ナリ。其上用斐モ去ル勇士ニ
テ候ユハ。容易クハ攻落サレマシク候ヘバ。夜軍
ニ及ビ候ハン。然レバ危キ働キニテ候。斯マテ仕
寄候上ハ。明日ハ落城ニ相究リ候者ヲ。危キ合戦
ヲナサレシハ。武略ノ足ラガル処ニテ候。兎角必
勝ノ謀コソ肝要ニテ候ヘト云ヘバ。政村聞玉ヒ。
汝が申処圖ニ當レリ。宜シク計ラフベシト下知
レ玉ヒケレバ。其夜ハ敵自ノ雲火ヲ焼ツバケ。用
心堅固ニ明レケリ。

三穗田新右衛門武勇並甲斐太即開城事

明レハ二十五日。將手ノ諸勢金鼓ヲ鳴シ。喚キ
ンテ攻立ル。城共ニモ垣原外記坂大介音屋松平
六入道以下。武勇勝レシ者共。我モくと切テ出。今
日ヲ限リト相戦フ。中ニモ坂大介ハ。敵数人討取
リ。邊リヲ拂ツテ戦フ処ニ。三穗田新右衛門能敵
ナリト走りカハリ。一太刀仕ラント詞ヲカクル。
大介打笑ヒ。我手ナミヲ見ナガラ。望ンテ向フヤ
サレサヨト。三打四打戦ヒシガ。大介が打太刀ニ。
脇立ノ逃レヲ切り込レ。三穗田痛手ナレバ。大居
ニ百ト倒レケルヲ。大介ツト寄首ヲ取ントス。三
穗田ハ。政村ノ近習ノ士ニテ。去ル剛強ノ者ナリ
ケレバ。伏テガラ敵ノ太刀ヲ。尤ノ小手ニテ講刀

ヲ拔テ横ニ打掃ヘバ。大介兩ノ膝口ヲ切ラレ。忽
 ガハト倒レケリ。三穗田スカサス立揚リ。敵ノ首
 ヲ襍ントスレバ。大介モ起上リ。己カ首ヲコソ取
 ルベケレト。無手ト組テ互ニカヲ劔マンケルガ。
 雪ノ薄ク降リケルユヘ。セノウゲタルヲ見ヤヤ
 マリ。片岸ヲ踏崩レ。二人上ニナリ下ニナリ。谷ヘ
 マロビ落ケルニ。大介上ニナリレカハ。頭テ胸板
 ニ乗カ、リ。右ノ手ニテ差添ヲ抜ントスル処ヲ。
 三穗田下ヨリ。大介ガ手ヲレカト握ツテ。刀ヲ拔
 セ。ト門合ヒケルガ。大介ガ勢力尽ル処ヲ見
 テ。三穗田下ヨリハ子返レ。押ヘテ首ヲ擡落レ。斬

々水ノ根ヲヨチテ這登リ。大將ノ本陣ニ来リ。實
 檢ニ入レケレバ。政村大ニ其武功ヲ感シ。太刀一
 振與ヘラレケリ。城兵モ勇ヲ振フト云ヘトモ。寄
 手多勢ナレバ。復共セス。入替們立戦ヒレカハ。城
 兵等モ多ク討レ。城戸ヨリ内ヘ颯ト引ク。寄手ハ
 弥氣ニ乗テ。只一息ニ攻破ラントゾ。們タリケル
 城ノ大將。甲斐太郎ハ。座席ノ真中ヘ大樽ヲニツ
 出サセテ。最期ノ酒盛レ。復モナゲニテ居レ。処ヘ
 笠松五郎八郎首一ツ提ゲ。朱ニナツテ走リ来リ。
 コハ能所ヘ參ツテ候。某モ御酒一ツ夕タベテ。渴ヲ
 休メ。最期ヲ快ヨク急キ候ハント。大キナル鉢ニ

テ酒ヲ引受ケツト干テ。今ゾ息ツグコトヲ得テ
 候。敵ハ早乗込ベク候ナリ。今一度潔ク合戦アツ
 テ。其後御自害候ヘト云ヘハ。甲斐太郎云フニヤ
 及ブ。早打出ンズルゾ。汝手負ヒタリト見ユレド
 モ。此世ノ名残ニ我ニ從ヒ。今一軍セヨト云フ処
 ニ。甲斐小中太走リ来リ。必ス死ヲ急ギ玉フヘカ
 ラス。某退テ思案ヲ巡ラシ候ニ。古人モ死ヲ急グ
 ハ近フシテ安ク。生ヲ保ツハ遠フシテ堅シトコ
 ソ申候ヘ。武勇ニ於テハ思フ程敵ヲ惱シ候ヒツ
 今ハ降ヲ乞ヒ城ヲ開渡シ。一先御開キ候ヘカシ
 ト云ヘハ。甲斐太郎聞ニ。我何ノ面目アツテカ。當

城ヲ開渡シ。誰ニ面ヲ合スベキ。一向討死ゾト云
 フヲ。小中太理ヲ尽シテ諫メケレハ。此上ハ免モ
 角モ宜シク計ラフベシト答ケリ。小中太悦ビ櫓
 ニ登リ。或ハ傘又ハ管笠ナントノ振テ矢止ヲ乞
 ヒ。今ハ是マテ候ナリ。迎徒ニ與シ候上ハ。終ニハ
 滅亡ニ及ヒ候ハンコト兼テ存シ設ケタルコト
 ニテ候ヘドモ。科ナキ士卒ニ死ヲ與ヘンコト如
 何ニシテモ不便ニ候ナリ。城中ノ者共一人モ残ラ
 ス。助命ナサレ下サレハ。城ヲ開渡シ候ベシ。若又
 此望ミ相叶ハス候ハ。潔ク死ヲ急ギ候ハンコト
 ソ望ミケル。大将政村功臣等ヲ集メ。吾既ニ外郭

ヲ踏破リヌル上ハ。本城ヲ乘崩シコト瞬目ノ中
 ニアリ。此期ニ至ツテ。谷沢助命ヲ願フトテ。吾何
 ゾ許容セン。早ク攻テスベキハ如何ニト問王へ
 ハ。秋津宮内、少輔秀国進ミ出仰ノゴトク是マテ
 仕寄セ候上ハ。攻テシコトハ。今一捫ノ中ニ候へ
 共敵ノ助命ヲ請候ヲ情ナクモ攻テホサレ候ハ
 多クノ敵徒皆心ヲ一致シテ。以後ノ合戦難儀
 ナルベク候ナリ。先當城ノ敵兵等ヲ悉ク助命ア
 リ。寛仁ノ徳ヲ顕ハサレ候ヘカレト諫メケレハ。
 政村理ニ服シ。助命セラルベキニ極マリシカハ。
 城中ノ士卒。上下ノ男女ニ至ルマデ。必死ノ命ヲ
 耶カリテ。悦フコト限リナク。城ヲ開渡シテ。落行
 シカハ。政村本城ニ入テ。諸士ノ戦功ヲタビサレ。
 感状褒養等其々ニ與ヘラレ。此上ハ衣笠ヲ指置
 テ。浦上ヲ攻ラルベシトテ。弥高ニハ番手ノ勢ヲ
 入レ置シ。飯陣ニ赴キ至ヒケリ。

本定

中國太平記卷之第四

目錄

浦上村宗三石籠城

附浮田家來由事

三石城町口合戰

附佐田荒平次事

真木越前守攻伊豆孫次郎陣

並三石城攻事

完栗範高武勇

並東條入道望與範高戰事

中國太平記

卷之四

二

中國太平記

三十二

浦上掃部助村宗智略事

浦上夜討 附放火事

赤松政村敗走

附勝田秋津完栗勇戰事

十静坊心樂計敵

附清水三穗田等勇戰事

中國太平記卷之第四

浴下 馬場玄隆信意輯錄

浦上村宗三石籠城 附淳田家来由事

爰ニ浦上掃部助村宗ハ。赤松家ノ一族ト云ヒ。殊

ニ長臣タリシカトモ。已ガ權威ニツノリ。王君政

村ヲ蔑如ニシ。其妾胡蝶ト云ヘル養女ヲ奪ヒ剩

進心ヲ企テ。居城備前国三石ニ逃下リ。下味ノ者

共ヲ相語ラヒ。防戦ノ用意急ラス。去ルニヨツテ。

播州ニハ衣笠長門守村氏。谷次甲斐太郎等。已カ

居城ニ桶籠ツテ。赤松家ニ敵スト云ヘドモ。是等

ノ味方打負ナハ。敵三石ニ突向セン。其トキ味方

二 敬ケノ勢ナクテハ叶フマシト。備中ノ国ノ松
田將監養作ノ国ノ中村五郎備前ノ国岡山ノ浮
田八郎能家是等八月比懇意ノ者共ナリシカハ
密カニ是ヲ相語ヲフニ。皆是ニ同意シテ中村五
郎ハ作州岩屋ノ城ニ楯籠リ。松田將監モ已ガ居
城ニ引籠リ。頃城傾圮ノ乱出来ル方見シカリシ
夏共ナリ。彼浮田八郎能家ト号セシハ。其先近江
源氏ニシテ。佐々木氏ノ庶流ナリ。人皇五十九代
ノ帝ヲ。宇多天皇ト申奉ル。此帝ノ皇子ヲ。一品式
部卿敦實親王ト号ス。其子参議扶義其子兵衛介
成頼始メテ。弓箭ヲ執テ武臣トナリ。佐々木兵衛

介ト号セララル。是ヨリ代々マノ業ヲ續テ。先祖
ノ名ヲ辱メス。其子兵部大夫章經其子源次大夫
經方。其子式部太輔季定其子ヲ佐々木源三秀義
ト号ス。然ルニ秀義ハ十三歳ノ年ヨリ六條判官
源為義ノ養子トナリ。平治ノ京軍ニハ惠源太義
平ニ從ツテ。武勇ヲ世ニ顯ハセリ。秀義ニ男子五
人アリ。嫡子ヲ太郎定綱ト号シ。後左衛門尉ニナ
ル。京極家ノ祖是ナリ。二男ヲ次郎經高ト号ス。後
中務丞ニ任シ。入道シテ經蓮ト号ス。三男ハ三郎
盛綱後兵衛尉ニ任シ。入道シテ西念ト号ス。四男
ヲ四郎高綱ト号ス。後左衛門尉ニ任ス。五男ノ五

即義清後隱岐守ニ任ズ。是太角家ノ元祖ナリ。然
ルニ治承年中右大将源頼朝卿義兵ヲ東國ニ起
シ玉フ。平家ハ救度ノ合戦ニ打負テ終ニ西海ニ
漂泊ス。此時計王ノ大将蒲冠者範頼九郎冠者義經
續テ西國ニ奔向セラル係ル処ニ。元暦元年十二
月平氏左馬頭行盛備前ノ兒嶋ニ二千余艘ノ舟
船ヲ浮ベ。源氏ヲ支ヘント待カケラル。同キ七日
源範頼藤戸ノ渡ニ著陣セラル。ト云ヘドモ舟
ナクシテ諸勢徒ニ守リ居ル。此時秀義ノ二男佐
々木三郎盛綱ハ範頼ノ手ニ属シ居タリケルカ
秘計ヲ巡ラシ。其夜淺瀬ヲ窺ヒ知リ夜ノ明ルヲ

待テ。其間三所計リノ海ノ面ヲ。即等六騎從ヘ。馬
ニテ颯ト乗入ルレハ。是ヲ見テ源氏ノ勢五千余
騎。一同ニ押渡ル。平家下戦ニ打負散々ニ敗北セ
リ。頼朝卿大ニ是ヲ感じ玉ヒ。備前ノ兒嶋ヲ恩賞
トシテ宛行ハレ。感状ヲ與ヘラル。其文ニ云ク。
自昔雖有渡河水類未聞以馬渡海。例盛綱振舞
希代勝事也。

元暦元年十二月廿六日 頼朝

佐々木三郎殿

凡感状ハ。頼朝卿ヨリ始マレリ。殊ニ渡海ノ感状
ハ日本無二ノ者ナルベシ。去レバ子孫代々持傳

ヘテ家寶トス浮田氏ハ此盛綱ノ後胤ニテ代々
備前ノ兒嶋ニ住シケルガ。赤松家備前播磨赤作。
三人ノ国ヲ領セラレシヨリ。浮田モ此家ノ幕下ニ
属シ居タリケルガ。次第ニ登用セラレテ。赤松家
ノ老臣ノ列ニ入り。威權甚盛ニシテ岡山ニ在城
セリ。

三石城町口合戦 附佐田荒平次事

去程ニ赤松上總介政村ハ浦上誅伐ノ夕ノ下万
余騎ヲ引卒シ。播州小塩ヲ雷發シ。同キ十月九
日。備前ノ三石ニ押寄ラル。先陣ハ秋津宮内。少輔
秀國。舍弟十静坊心樂ナリ。城中ヨリモ。浦上七郎

兵衛尉吉田木コ右衛門尉士卒ヲ從ヘ町口ニ出
張シテ。敵味方互ニ闘ヲシラベ合スル程コソア
レ。兩陣入レ乱レ。火ヲ散シテ拵ミ合フ。城兵ニ河
原又八。佐田荒平次。士卒ニ先立勇ヲ振フ。河原ハ
敵一騎切テ落シ。即等ニ其首取レト云ヒ捨テ。又
敵中ニ切テ入ル。荒平次ハ大方量ノ者ナリケル
ガ。二本シナヘノ大指物ヲ森ノゴトクニ負ナシ。
邊リヲ拂ツテ戦ヒケルヲ。三上ニ馬望ム。処ノ相
手ゾト。走リカ、ツテ戦フトゾ見ヘシ。内兜蓋ヘ
切り込レ。漂フ処ヲナギ倒ス。兄ノ三上尤京進目
ノ前ニ第ヲ討セ。ナジカハ以テ諒フヘキ。大長刀

ヲ車輪ニ廻シテ討テカ、ル。荒平次復共セズ。火
水ニナレト戦ヒケルガ。左京進長刀ノ柄ヲ切り
折レ。既ニ危ク見ヘシ。此ニ陶山弥四郎トテ。生年
十六歳ノ若武者三上助ルゾト。詞ヲカケテ。荒平
次ニ討テカ、ル。三上聞テ。若輩ナル陶山ガ。スケ
ハ受マレキゾト。又太刀ニテ相戦フ。荒平次二人
ノ敵ヲ復共セズ。勇ヲ振テ。働ク。此ニ荒平次ガ。勇
ノ。佐田紀三郎助候ハント。走り来ツテ。敵味方四
人一。所ニ戦ヒケリ。吉田木ノ左衛門尉。是ヲ見テ。
佐田討スナ。續ケヤト。馬ヲ馳セテカケ出レバ。主
奔等一同ニ喚テカ、ル。寄手ニモ三上討スナ。陶

山討スナカ、レヤト。刀祢奈良崎。神田以下。馬馳
ヲ立テカケ合スレバ。三上本意ヲ遂スレテ。終ニ
佐田ト物別レシテ引タリケリ。城兵ノ勇氣當リ
ガタク。寄手ノ勇騷キ漂ヒ引トモナク。逃ルトモ
ナク。一町ばかり引退ク。浦上七郎兵衛尉。吉田木
ノ左衛門尉。時分ハ今ゾ。一柵々ヤト下知スレバ。
士卒ナレカハ猶豫フベキ。勝鬨ヲ作ツテ。追カク
ル。秋津宮内。火輔秀国ハ。兵子孫子ガ秘セシ。此ヲ
我者ト得タリシカバ。馬上ニ采牌ヲ振ツテ。返セ
ヤ者共。須破軍ニハ勝タルゾ。爰ノ競ヒヲ脱スベ
カラズ。勇メヤ進メヤ。掛レヤカ、レト下知レテ

三柏ノ村葉ノ旗ヲ龍蛇ノゴトクニヒラメカシ
テ。進ミ、方、レバ軍勢六、丁同ニ取テ返シ、霹靂天
ヲ動カシ、漁陽ノ鼙鼓地ヲ震フ。汗馬東西ニ馳違
ヒ、旌旗南北ニ入レ交ハリ。山川震動シ、紅花散乱
スルトゾ見ヘシ。浦上方散々ニカケ立ラレ。敗走
シテ引ントスルヲ、秋津手シケク追カケ。透サズ
險止、突伏セ、切り伏セ討取レバ、城兵等ハ引取ル
コトラ得ズ。闕へ漂ヒ居タリケリ。城ノ大将浦上
掃部助村宗、追手ノ櫓ニアカリ。此躰ヲ見テ、今日
ノ合戦、味方勝利ヲ得タリト見ヘシガ、勝ニ乘テ
仕損ジタリト覺ルゾ。嶋村修理亮菅生弥市兵衛
馳向ツテ、味方ノ勢ヲ引取ラセヨト下知シケレ
バ、菅生嶋村士卒ヲ引連馳行テ、大将ノ仰ナルゾ。
爰ハ我々請取リ申ス。早ク引取リ至ヘヤト。吉岡浦
上ヲ引取ラセ。追來ル敵ノ中へカケ入テ、曳々
ヲ出シテ相戦フ。氣ニ乗タル寄手ナレバ、敵ノ荒
手ニモ猶豫ハズ。烟塵天ヲ掠メテ、切り掛リ、引テ
くと互ニ耻シメ戦ヒケルガ、敵味方トモニ戦ヒ
衰レ、相引ニゾ引取リケル。

真木越前守攻伊豆孫次郎陣並 三石城攻事

爰一浦上ガ一味ノ士ニ、真木越前守負知ト云フ
者アリ。我々度ノ合戦ニ、目ニ立程ノ高名ヲシテ。

諸人ノ膽ヲ寒サセ。西國ニ養名ヲ顯ハサント。同
キ十三日ノ赤明手勢與カノ士ヲ相從ヘ。寄手ノ
宗徒伊豆孫次郎ガ火シ引離テ陣取タル所ヘ
押寄テ不意ヲ撃ント相議リ密カニ三石ノ城ヲ
出。伊豆孫次郎ガ陣屋ニ押寄。閑ヲモ作ラズ。火矢
ヲ射カケテ攻メ、ル。伊豆孫次郎惡キ敵ノ仕業
カナ。驅散シテ捨ヨトテ。少シモ騷カズ馳出テ。鋒
ヲ揃ヘ討テカ、ル。寄手ハ空逃シテ敗走ス。孫次
郎勝ニ乘リ。一人モ残ズ討取レヨ。敵ハ小勢ト覺
ユルゾ。追諾ヨト下知シテ。二町バカリ追行。処ニ
真木越前守貞知ハ。小高キ岡ニ備テ立。靜マリ返

ツテ扣ヘシガ。朝霧ノ立岡ミタル中ヨリ。此字ノ
旗ヲヒルガヘラセ。手タレノ射ヲソロヘ。指諾
引諾散々ニ射サス。其矢雨霰ノゴトクナレバ。手
負死人見ル中ニ。上ガ上ニ重リ伏ス。伊豆ガ勢恠
ヘカ子。既ニ敗軍ト見ヘシ。処ニ。伊豆孫次郎士卒
ヲ下知シ。物々シヤ驅崩セト。馬武者ヲ前後左右
ニ從ヘ。風ノ勢スルガゴトク。一文字ニカケ入レ
バ。貞知モ士卒ヲ從ヘカケ合セ。四方ニ當リ入。向
ヲ拂ヒ。縦横無碑ニカケ立ル。伊豆ガ勢暫シ攻戰
フトゾ見ヘシ。士卒若干討レ。伊豆モ切腹ニ介所
マテ蒙ツテ。朱ニナツテ逃退ク。去レドモ政村諸

陣ニ号令シテ。敵ノ変化シリ難ケレバトテ。勞ヲ
 一騎モ出サレズ。真木ガ勞勇ミ進ミ。追討ニセシ
 ト追カクルヲ。真知士卒ヲ下知シ。必ズ敵ヲ追ベ
 カラス。早ク引取ルヘント。馳廻リク。士卒ヲ纏メ
 城中ヘゾ引入リケル。寄手ノ大将。赤松上總介政
 村大ニ怒リ。急ギ城ヲ攻テ。味方ノ勇威ヲ見スベ
 シトテ。同キ十五日ノ黎明ニ。諸陣一同ニ攻寄先
 巽ノ方ノ出堀ノ際マテ攻詰テ。堀ヲ埋テ乘破ラ
 ント。近邊ノ諸木ノ枝ヲ伐ラセ。下草ヲ刈セテ持
 運バセ。土破ヲ入レテ。澁ヲ埋ントス。城兵等ハ埋
 サセ。シト。櫓ノ上狭間ノカゲヨリ。雨ノ降ルガコト

クニ射出テ。互ニ挑ミ合フ処ニ。浦上七郎兵衛。宇
 野丹波守。東條兵衛入道順格。選兵等ヲ引卒シ。城
 ノ大門ヲ開カセテ。敵ノ後口ニ切りカ、レバ。真
 木越前守。仁保。清十郎。佐敷。右門。菊野。小隼。人。楠手
 ノ門ヨリ突出テ。道サジト攻立ル。寄手ハ城ヲ打
 控置爰ヲ證ト戦ヘドモ。向フ敵ニ對シテ戦ハン
 トスレバ。後口ヨリ城兵攻カ、ル。跡ヲ防ントス
 レバ。向フノ敵虚ニ乘テ競ヒカ、ル。寄手ハ多勞
 ナリト云ヘドモ。前後ノ敵ニ闕着シ。一同ニ咄ト
 崩レ立ツ。城兵等氣ニ乘ツ。進ミ追フコト速ナリ。
 東條兵衛入道順格ハ。六十有余ノ入道ナリケル

が鎌ヲ横夕へ大音アゲ。某が嫡子又太郎氏秀當
 時播州松山ニアルコソ疾念ナレ。渠ハ子ナカラ
 モ大剛ノ者ナレバ。當城ニ居ル程ナラハ。敵ニ足
 ハタメサセジ者ヲ。氏秀カ傳へ聞ン程モ耻カシ
 軍能セヨ汝等ト。手ノ者共ヲ却後ニ立馬蹄ニ
 塵ヲ蹴立テ馳ケル処ニ。松田三左衛門尉武任ト
 名乗ツテ。馬ヲ取テ返シ。追來ル敵ノ中へカケ入
 テ。爰ヲ詮ト戦へバ。城兵等モ追シランデ。此彼ニ
 群リ立。閑ヲ作り遠矢ヲ射カクルバカリナリ。入
 道順格大ニ怒リ。キヤツ一人ニ支ヘラレテ敵間
 ノ遠クナリヌル無念サヨト。鎌ヲ提ケ突テカ
 リ。火花ヲ散シテ戦ヒレガ。終ニ松田ヲ馬ヨリア
 ニ突落シ。押ヘテ首ヲ掻切り。赤ク若カノ火シ残
 リシゾヤト。打笑フテゾ立タリケル。

完栗武勇 並東條入道望與範高戰事

係リケル処ニ。完栗作十郎範高舍身神村作五郎
 範景士卒ヲ下知シ。汝等馬ヲ乗放テ。下リ敷テ敵
 ヲ待カケヨ。敵ヲ近々ト引寄テ。鎧長刀ヲ持テ。敵
 ノ騎タル馬ヲ突テ。十騎モ十四五騎モ。ハ子落サ
 シ。漂フ処ヲカケ立ヨト。馳廻ツテ下知シケレバ。
 軍勢共馬ヲ乗捨下敷テ。追來ル敵ヲ近々ト引受
 ケ馬ノ前足ヲ薙倒シ。胸掛平頸ヲ突テ突落ス。城

兵等辟易シテ。騒立ツル處ヲ。完栗兄弟士卒ヲ下知
シ。須破乘込メヨ汝等。敵ヲ討捨ニシテ必ス首ヲ
取ルヘカラス。無二無三ニカケ散ラセト。真先ニ
馬ヲ乗入ル程ニ。士卒等馬ヲ引寄々々。打乗々々。
咄ト喚テカケ入レバ。城兵等崩レ立。是ヲ見テ寄
手ノ勢。我モくと取テ返シ。関ヲ作ツテ追カクル。
秋津宮内。少輔秀国モ。引行ク味方ヲ耻レメ。守リ
返シテ相戦フ。完栗作十郎ハ。例ノ朱柄ノ大鎧ヲ。
軽々ト搜ケ。相近ヅク者共ヲ。十四五騎マクリ切
ニ打倒セバ。城兵等振ヒ揚リ。逃ル共ナク。コトフ
トモナク。只蜘蛛ノ子ヲ散スガゴトク。ワツト云
フテ敗走ス。仁保清十郎是ヲ見テ。衆リサフト云
フマ、ニ。大長刀ヲ水車ニ廻シテ。馳向フヲ。完栗
會釈モナク。彼大鎧ヲ以テ。長刀ヲ夕、キ落レ。ツ
ト鎧ヲ突入レタレバ。喉輪ヲ廻レテクサト突通
ス。完栗荒余ト笑ヒ。中ニテ一振り振テ。妻手ノ方
ヘガハト投シカバ。是ニ當ツテ馬武者一騎真倒
ニ打落サル。敵味方是ヲ見テ。舌ヲ震ハサスト云
フ者ナシ。寄手ハ弥氣ニ乗テ。切立突立喚キ叫ン
テ追カクル。東條入道順格諸勢ヲ耻レメ。敵モ敵
ニヨルゾ。此比マテ肩ヲ連子膝ヲ双ベシ者共ナ
ラスヤ。見若シキ軍ヲシテ。必敵ニ笑ハル、ナト

兵等辟易シテ。騒立ツル處ヲ。完栗兄弟士卒ヲ下知
シ。須破乘込メヨ汝等。敵ヲ討捨ニシテ必ス首ヲ
取ルヘカラス。無二無三ニカケ散ラセト。真先ニ
馬ヲ乗入ル程ニ。士卒等馬ヲ引寄々々。打乗々々。
咄ト喚テカケ入レバ。城兵等崩レ立。是ヲ見テ寄
手ノ勢。我モくと取テ返シ。関ヲ作ツテ追カクル。
秋津宮内。少輔秀国モ。引行ク味方ヲ耻レメ。守リ
返シテ相戦フ。完栗作十郎ハ。例ノ朱柄ノ大鎧ヲ。
軽々ト搜ケ。相近ヅク者共ヲ。十四五騎マクリ切
ニ打倒セバ。城兵等振ヒ揚リ。逃ル共ナク。コトフ
トモナク。只蜘蛛ノ子ヲ散スガゴトク。ワツト云
フテ敗走ス。仁保清十郎是ヲ見テ。衆リサフト云
フマ、ニ。大長刀ヲ水車ニ廻シテ。馳向フヲ。完栗
會釈モナク。彼大鎧ヲ以テ。長刀ヲ夕、キ落レ。ツ
ト鎧ヲ突入レタレバ。喉輪ヲ廻レテクサト突通
ス。完栗荒余ト笑ヒ。中ニテ一振り振テ。妻手ノ方
ヘガハト投シカバ。是ニ當ツテ馬武者一騎真倒
ニ打落サル。敵味方是ヲ見テ。舌ヲ震ハサスト云
フ者ナシ。寄手ハ弥氣ニ乗テ。切立突立喚キ叫ン
テ追カクル。東條入道順格諸勢ヲ耻レメ。敵モ敵
ニヨルゾ。此比マテ肩ヲ連子膝ヲ双ベシ者共ナ
ラスヤ。見若シキ軍ヲシテ。必敵ニ笑ハル、ナト

テ五六度マテ守リ返シ。東條兵衛入道順格ソ。完
栗殿ノ鑓先ヲゾト見申サント進ニ寄レバ。完栗
ハ馬ヲ引返ス。東條怒リ。吾ヲ老武者ナリト思ヒ。
合ヌ敵トアナドルカヤ返セヤ返セト詞ヲカク
ル。完栗聞テ我御邊ヲ侮ルニアラス思フ子細ア
ンバ。勝負ハスマジキゾトテ引返ス。石川太郎兵
衛馬ヲ馳寄セ。サバカリノ御勇力ニテ。何ユヘ東
條ト勝負ヲハシ玉ハス。此入道武勇ノ譽レアリ
ト云ヘトモ。何程ノコトノ候ベキト云ヘバ。亮栗
聞テ。情ナクモ申サル。者カナ。アノ入道ト戦ハ
バ。彼カ首ヲ落サンコト只一討ノ中ナルベシ。七
十二及ベル老法師ヲ。我情ナクモ。争カ計取ルコ
トヲスベキヤト云ヘバ。石川ヲ始メ是ヲ聞ケル
者共。範高程ノ猛キ武士ノ情深キ詞カナト大ニ
是ヲ感養セリ。入道ガ教度返シ合セシユヘ。城兵
等死ヲ遁レテ。城中ニ逃入ツタリ。日既ニ夕陽ニ
傾キレカバ。奇手モ今ハ是、デゾトテ。悉ク勢ヲ
引入レケリ。

浦上掃部助村宗智略事

去程ニ浦上掃部助村宗ハ。仁保清十郎ヲ始メ。士
卒ヲ多ク討セ。憤激シテ安カラサリケルガ。如何
モレテ此憤リヲ散シ。敵ヲ速ニ追拂ハント。様々

思慮ヲ巡ラシテ。戸畑忠次郎。鴨山勝五郎ト云フ
二人ノ郎等ヲ招キ。我一術シテ敵ヲ討リ。先日ノ
耻辱ヲ雪ガント思フナリ。汝等兩人ハ。此度備後
ヨリ召抱ヘツレバ。敵方ニ見知レル者ハアルニ
シキゾ。汝等密カニ城ヲ出。商人百姓ニ姿ヲ替。敵陣ニ
紛レ入り。寄手共ヲ方便レト。術ヲ委ク云ヒ。舍メ
ケレバ。戸畑鴨山聞テ。我々御奉公ニ罷出。未ダ何
ノ忠切モ候ハチバ。此ヲ首尾ヨク仕課セテ。忠義
ニ備ヘ候ハントテ。兩人下入共ヲ少々従ヘ。已上
五六人ニテ出ケルガ。一人二人ツ、引分レテ。城
中ヨリ忍ビ出ニケル。斯テ二人ノ者共ハ。下入共ヲ或
ハ鞆。鐘等ヲ賣ル商人ニ出立セ。又ハ酒賣。焼豆
腐ナンド賣ル商人ニ似セサセテ。敵陣ニ遣ハシ
テ後。戸畑鴨山兩人ハ。國中ニテ去リヌベキ。庄官
等ガ方ニ行キ。忍ビヤカニ浦上ガ密意ノ赴ヲ云
ヒ聞セ。此術ヲ能ナシ課セナハ。過分ノ廢養ヲ與
ユベシト云ヘバ。庄官共大ニ悦ビ。夥シク酒肴ヲ
調ヘ。戸畑鴨山ヲモ。庄官ノ躰ニ出立セ。赤松殿ノ
陣中ニゾ。参リケル。戸畑鴨山カ下入共ハ。様々ノ
商人ニ姿ヲカヘ。敵陣ニ紛レ入り。此彼ニテ四方
山ノ物語ナンドシケルガ。浦上殿ハ。此比吐血シ
至ヒテ。大病ノ床ニ伏至ヘルユヘ。城中ノ者共手ニ汗

ヲ握リ。奔走仕リ候由承リ候ナンド、語リケレ
ハ。浦上大病ノ由。寄手ノ陣中ニ誰云フトモナク
風聞ス。然レドモ其實ヲ知ラザリケル。処ニ。烟鴨山等
近郷。庄官名主共ニテ候トテ。大将政村ノ本陣ニ
来リ。酒肴ヲ連子。燕山片上。其余其所々々ノ名主
庄官等。御礼ヲ申上候ト云ヘバ。政村大ニ悦ビ。自
出テ對面セラル。戸畑。鴨山等申シケルハ。我々ハ
浦上殿領地ノ者共トハ申セドモ。其殆メヲ申セ
ハ。御先祖月澤圓心公。將軍等持院殿。尊氏。利ヨリ。
備前。播磨。美作。三ヶ国ノ守護職ヲ賜ハリシヨリ。
以來。御屋形様数代ノ御恩惠ヲ。我々累代。四代家テ

候ナリ。其上。一旦浦上殿ニ。當所ヲ賜ハルト申セ
ドモ。實ノ御領主ハ。屋形様ニテ候ヘバ。其御厚恩
ヲ。争カ。疎カニ存ジ奉リ候ベキ。近日。國中。靜謐。逆
徒。滅亡ノ佳儀ヲ祝シ奉ランタメ。酒肴ヲ捧ケ候
ト云フ。政村感悅アリ。近日。逆徒等。誅ニ伏スベキ
コトアリヤ。子細ヲ申スベシト。尋子玉フ。彼者共
サン候。浦上殿軍慮ニ心ヲ苦シメ。大ニ吐血シ。重
病。五體ヲ惱マシ候由。本腹アランコトハ。百ニレ
テ一ツトコソ承リ候ヘ。是。靜謐スベキ吉地ニテ
候ナリト云ヘバ。政村。悦喜。限リナク。頃。浦上。重病
ヲ受シ由。風聞スト云ヘドモ。定メテ。浮説ナラン

ト思ヒシニ。叔ハ夏實オリケルカ。衛モ変リシコ
トアラバ。早速知ラスベシト宣ヒテ。服ヲ遣ハサ
レシカバ。戸畑鴨山ハ安々ト計リ課セ。軍勢ノ程
陣ノ張様用心ノ躰残ル処ナク見スマシテ。互ニ
目クハセシテゾ飯リケル。

浦上夜討 附 放火事

斯テ寄手ノ陣中ニハ。浦上既ニ重病ヲ受シト聞
今ハ城兵等計出ルコトハ思ヒモ寄スト氣ヲエ
ルシテ。陣中曾テ用心ノ躰モナク。近日總攻ヲス
ベシトテ。軍議ニ日ヲゾ送リケル。去程ニ戸畑鴨
山兩人ハ。思フマヽニ仕課セテ。下人共ト共。

ヒクニ城中ニ飯リ。掃部助ニ右ノ次第ヲ語リケ
レバ。村宗大ニ悦ビ。謀既ニナレリトテ待処ニ。同
十九日ノ朝ヨリ。風雨烈シク。暫クモ小止夕ニナ
カリシカバ。是コソ天ノ與フル処ナレ。一夜討シ
テ敵ヲ遠ク追拂ハント。夜討ノ用意ヲナシ。軍令
ヲ出ス其文ニ云ク。

- 一 味方相詞誰ソト問バ。森ト答ヘ可申夏
- 一 松明之外別ニ松明ニ埒硝硫黃ヲ仕込人々
用意之可持夏
- 一 敵ニ逢候ハ。首不取之致切捨テ。變化之
術ヲ尽シ可申夏

一敵ト取合最中ニテ候共相圖之具ヲ吹候ハ
イ。早速其所へ相集可申夏

一或追敵或退夏其手々々ノ隊將之下知ヲ受
テ可進退敢而私ノ働ヲ仕間敷夏

右五个條之赴堅可相守者也

永正十五年十一月十九日 村宗

菅生弥市兵衛殿

斯ノゴトクニ認メテ。武者奉行菅生弥市兵衛ニ
ゾ渡シケル。其後村宗ハ先立テ忍ビノ者ヲ敵陣
一遣ハシ其夜ノ子ノ下尅ニ城ヲ打立備ヲ三ツ
ニ分テ押向フ。係ル処ニ忍ビノ者走り飯リ敵陣

ノ様ヲ窺ヒ見候ニ曾テ用心ノ躰ハナク候殊ニ
香西少輔五郎ガ備大ニ怠ツテ相見へ候ト云フ。
浦上聞テ然ラハ少輔五郎ガ陣ヨリ攻破何所ニ
モアレ風上ト見ハ彼用意セシ塩硝松明ヲ抛掛
ヨ。汝等一所ニ居ベカラス敵中ニ馳散テ多勢ノ
躰ヲ見スベシト。委細ニ下知シテ押寄タリ。寄手
ノ陣ニハ係ル術アリトハ夢ニモ知ラス。頃ハ陣
中五歳ヲ唱へ酒宴ニ月ヲ送りケルカ。今夜ハ殊
ニ風雲烈シケレバ敵寄ヘシトハ思ヒモ寄ス陣
々ノ篝モ多クハ打消テ前後モ知ラス伏居タリ。
去程ニ城兵等香西少輔五郎ガ陣へ押寄テ一色

聞ヲ咄ト作ル程コソアレ。雨ノ降ガゴトクニ散々ニ射サセ。足輕共ヲンテ。柵ノ木ヲ引ノケサス。寄手ニハ思ヒ寄サルコトナルユヘ。雷霆カ大地震カト。目ヲスルく起上ル処ニ。ヤレ夜討ヨ太刀ヲ物ノ具ヨ。馬ヨ人ヨト陣々俄ニ震動シ長刀一振ニ五人三人取付バ。予一張ニ二人三人取付テ。我ガヨ人ノヨト相爭ヒ打合ヒ踏合ヒスルモアリ。鑓長刀ヲ逆マニツキテ。巴カ足ヲ突進キ。人ニカコチテ咆々合フモアリ。只何ト思ヒ分タルコトモナシ。寄手ノ勢氣ニ乗ツテ。馬ニテ一同ニカシ破レバ。香西ガ勢敵ニ一太カラモ合サズ。四角ハ

方ヘ敗走ス。寄手ノ十方ニ馳散テ。方々ノ陣屋ヘ。彼松明ヲ抛樹々々。此ニ紛レ彼ニ頭ハレ攻立ル陣々ハ猛火熾ニ燃上ル。元來増焔ヲシカケタレバ。炎遠ク飛散テ。只火焼地獄ニ入ルガゴトシ。去ニヨツテ寄手ノ勢。カケ合スヘキ様モナク。親ヲ踏越主ヲツキキノケテ。我先ニト逃テ行ク。大柵政村ニ物ノ具蓄モフベキ間モナク。帶ヲダニ斬ク結ヒ玉ヒシニ。炎遙ニ飛来リ。本陣一片ノ煙ト燃上レバ。政村仰天シ。汝等我ヲ助ケヨ知河ニヤ如何ニト悲しく玉ヘド。耳ニ聞入ル者モナク。命コノ物種ヨト。多クハ赤裸ニテ逃奔ル。見苦レカリシ良

赤松政村敗走 附勝田秋津完栗勇戰事

係ル処へ大石民部丞常ニ政村ノ秘藏シ玉ヒシ。明石篤毛ト云ヘル名身ヲ牽セ来リ。早ク右レ候ヘトテ。政村ヲ乘セ。已レモ馬ニ打乘リ落テ行ク。抑コソ政村漸々火ヲ遁レ至ヒケリ。勝田伯耆守村定ハ。多勢ノ中ニ取り籠ラレ。大汗ニナツテ戦ヒケルガ。一方打破リ。南ヲ指テ逃行ハ陣屋ノ猛火。サカンナル処へ行當リ。遁レ出ヘキ道モナレ。後ロヨリハ敵、多勢追カツル。今ハ叶ハヌ処ソト。群ガリカ、ル敵中へ。又ワツト喚テカケ入り。

満宇一馳乱シ。巴ノ宇ニ敵ヲ追廻シ。終ニ遁レテ落行キケリ。秋律宮内少輔秀国モ。鎧ハ著タレドモ。兇整ヲ著ル間モナク。大童ニナツテ戦ヒケルガ。後ロヲ耽ト見レバ。早大將ノ本陣ニ火カ、リタリ。ゴハ如何ニ南無三寶ト其所ヲ打捨。本陣ノ本陣へ馳行ント。敵中ヲ切り通り。炎ヲ踏テ煙ノ中ヲクバリ抜。本陣ニ馳著クレバ。早大將ハ居至ハズ。叔ハ落玉ヒツルニコソ。我モ追付奉ント。至從五騎ニテ落テ行ク。敵手シケク追カクレバ。取テ返シテカケ散シ。敵逃ンハ落テ行ク。イカメシカリシ奉勅ナリ。完栗作十郎範高。舍屋神村作五

即範景ハ今夜敵ニ討ラレシコト。我身ニ取テノ
耻辱ナリト思ヒシカバ色花ナル一戦シテ潔ク
討死セント。敵ノ多勢扣ヘタル真中へ切テ入り。
七顛ハ倒シテ相戦ヒカケ入テハカケ出馳入テ
ハ追廻シ。死狂ヒニ戦フ必ニ牛窓源六。同源九郎
兄弟馳来リ。コハ何意候ソ。大将ノ御大事。今夜ハ
カリニ限ルベカラズ。其上大将モ早落カセ玉ヒ
候者ヲ。今爰ニテ討死シ玉ハンハ。恐ラク無益ノ
死ニテ候ベシ。大将ノ御先途ヲ見届ケラレ候ヘ
ト云ヘバ。完栗兄。身理ニ服シ。然ラハ是ヨリ落行
ベシト。敵ヲ颯トカケ散シ。人ナキ処ヲ行ガゴト

ク。開々ト落行キケル処ニ。佐敷存門。菊野小隼。八
二百余騎ニテ追カケ。去リヌヘキ敵トコソ見シ
返セヤクト追カクル。範高馬ヲ引返シ。山陽山陰
兩道ニ隠レナキ。完栗作十郎。範高ゾ。汝等モ定メ
テ他家ノ者ニハヨモアラジ。年比我門下ニクイミ、
シ者共ニテゾアルラン。然ラバ我手チミノ程ハ
知リツランニ。我ヲ追ハ。膽ノ太キ奴原カナ。イテ
年来ノ好ムニハ。微塵ニ碎テクレントテ。完栗。牛
窓只四騎。無ニ無ニ切テ入り。血煙ヲ立テ相戦
フ。範高ハ例ノ大鎧ヲ打振り。死人ノ山ヲ築セ
テ。體ヲ程ニ。天地破烈シ。霹靂碎クルゴトクナレ

バ。佐敷菊野等辛キ命ヲ賜カリ西ノ方へ逃テ行
 ク。亮栗打笑ハ已等ゴトキノ音共ハ何万騎アリ
 トテモ蟻程ニモ思ハヌゾトテ陣屋ノ焼ルヲ松
 明トシテ究竟ノ明リゾヤト吐ク笑フテ落テ行
 ク。是ヲ見テ三石勢渠ハ大剛ノ死武者ゾ只聞テ
 通セヨトテ敢テ遮ル者ナカリケリ。

十静坊心樂計敵 附清水三種中勇戰事

係ル必ニ宇野丹波守景泰百四十五騎一テ馳来
 リ。一人モ遁スナト真中ニヲツ取り籠メ火水ニ
 ナレト攻立ル。範高大ニ忍リヨレナキ宇野カ拳
 蹴力テイテ物見セントテアマハニ衝突無風ニ

軀破ル。丹波守景泰大音アケ汝等死ヲ顧ズ。完栗
 兄弟ヲ討テ名譽ヲ子孫ニ残セヨト爰ニ取コメ
 彼ニ馳合ヒ戦ヘドモ完栗兄弟復共セス。于爰乃
 化シテ戦ヘバ。宇野味ヘズレテ引テ行ノ。牛窓兄
 弟モ痛手負ヌ。神村モ手負ヌ。四人共ニ鎧モ馬モ
 血ニ染ミナガラ東ヲ指テゾ馳タリケル。秋津秀
 國右合弟。十静坊心樂ハ霄ノ酒宴ニ醉沉テ。先後
 モ知ラズ。伏タリケルニ。即等龜田弥八走ル来リ。
 夜討ガ寄テ候ゾト引起ス。心樂驚鎧取テ着ル処ニ
 早十方ニ火カハリテ。味方悉ク敗レタリト見ヘ
 シカバ。コハ如何セン。今ハヨモ遁レシ。自害セン

ト云ヒケルヲ。跡ハ制シ争カ去リ候ベキ。然リト
 テ此所ヲ落ントセバ。敵勢ニ追ツメラレ。終ニハ討
 レ候ヘシ。如シ謀ヲ以テ遁レンニハトテ。主人心
 樂ヲ。鎧ノ上ニカキ負ヒ。手負ヲ助ケテ退ク。躰ニ
 モテナシ。三石勢ノ中ヲ押分々々落行ケハ。味方
 ノ手負ナリト心得テ。敢テ咎ムル者ナカリケリ。
 龜岡ハ怖ロシキ敵ノ中ヲ紛レ拔ケ。瀧山マテ落
 其ヨリ海邊ニ出。獵船ニ乘ツテ落行キケル。滑
 水甲斐守政國ハ武功勝レタル者ナリケレバ。少
 シモ驚カス。己ガ手勢ヲ一騎モ散サス。真丸ニテ
 ツテ落テ行ク。敵追カクレバ近々ト引ヘテハ驅
 散シ。敵引ハ落テ行ク。其勢ヒ決然トシテ敢テ當
 ルベキ。ヤワアラサレハ。田ミヲ解テゾ通シケル。
 三種田新右衛門尉ハ浦上ガ旗本ノ勢ニ取巻レ。
 既ニ討レヌベク見ヘケルガ。漸々田ミヲ切り拔
 テ。馬ヲ飛セテ逃ントスレバ。向フヨリ吉田木ユ
 左衛門尉五十騎ハカリニテヲツ取り籠ル。三種
 田元來大剛ノ男ナレバ。四方八面ヲ拂ヒ戰ヒケ
 ルガ。馬ヲモ射伏セラレ。痛手三個所負ナカラ辛
 フシテ逃延ビクリ。

中國太平記卷之四終



中國太平記 卷之四

三十一

中國太平記卷之第五

目錄

赤松上總介政村敗軍

附 完栗大石勇戰事

名倉玄蕃允事

政村重而被寄三石

附 狂歌事

久米十郎左衛門尉近氏讒借水秋津事

三石城軍

附 三穗田新右衛門尉討死事

浮田八郎能家三石後諾

附政村飯陣事

作州岩屋城軍

並松山城追手合戰事

松山落城

附覺藏坊東條只丸以下討死事

中國太平記卷之第五

洛下 馬場玄隆信意輯錄

赤松上總介政村敗軍附完栗大石勇戰事

去程ニ赤松上總介政村ハ大石民部丞ト主従只
二騎馬ヲ飛シテ落ラレケルガ遙ニ落延テ後
ノ方ヲ見返シタレハ諸陣悉ク火カ、リタリト
覺ヘテ炎天ヲ焦シテ左ナガラ自昼ノゴトクナ
リ係ル処へ城兵等雲霞ノゴトク馳来ル。政村是
ヲ見玉ヒ今ハ遁レヌル速ニ自害スベシ汝
ハ我首ヲ討何方ニモ深ク隠シ其後如何ニモナ
ルヘシト宣へバ大石聞テ某ガアラン程ハ御自

害アルベカラス異國ノ湍公吾朝ノ頼朝是皆危
 難ノ圃ミヲ遁シ終ニ本意ヲ遂玉ハリ叶ハヌ一
 テモ身ヲ全フシ玉フコソ良將トハ申候へ某
 支へ申スベシ其間ニ少モ落延サセ玉フヘシト
 制シケレバ政村理ニ服シ鞭ヲ揚テ落玉フ大石
 ハ半町計リ取テ返シ田ノ畔ノ一段高キヲ小楯
 ニ取テ待居タリ係ル処へ北ノ方ノ森陰ヨリ汗
 馬ノ馳來ル音シケレバ是モ敵ニヤト見ヤリタ
 ルニ武者四五騎カ程大將ハ如何ナリ玉ヒツル
 是ニテモ叅リ逢サルハ跡ニ取籠ラレテヤ坐ス
 又討レ玉ヒヌルニヤナント云フヲ聞テ叔ハ味

方ナリト思ヒ大石民部丞爰ニアリ味方ナルカ
 ト喚ハレハ我々コソ完栗兄弟ヨトテ馳來リ大
 將ノ行衛ヤ知り玉ハヌト問フ大石大ニ悦ビ敵
 近付候ユへ大將ヲバ落シ叅ラセ取テ返シ候ナ
 リ爰ニテ支へ候ハント云へハ完栗云フニヤ及
 フ大將ノ御供ニハ誰カ叅リシゾイヤ只一騎落
 ナセ玉ヒ候ト云フ範高泪ヲ流シ係ル浅間シキ
 夏ヤアル神村ハ痛手肩タレバ急キ追ツキ大將
 ヲ見ツキ叅ラセヨト云フ中ニ敵早近ツキタレ
 ハ範景早ク立退アヨト云ヒ捨テ完栗作十郎是
 ニアリイテ物見セント突カレハ大石民部丞

牛窓元身續テ敵中ニ切テ入ル。神村作五郎範景ハ兄ノ詞ニ從ヒ。大将ニ追著叅ラセント。飛カコトクニ馳タリケリ。完栗作十郎ハ多勢ノ敵ヲ屠トモ思ハス。大鎧ヲ片手ニテ。電光ノゴトク振テハシ。縦横無碍ニ馳巡レバ。是ニ近ヅク者共或ハ尻居ニ打スエラレ。或ハ中ニ打上ラレ。人馬共ニ重リ伏シ。新夕ニ一堆ノ山ヲナス。城兵等怖レ周章テ落花ノ風ニ吹乱サル。カコトク。四方ト逃散テ。渠ハ摩利支天ノ化現ナルカ。又ハ夜又羅刹ノ来レルカ。只遠矢ニ射落セト。指取引取散々ニ射ル。完栗大石。牛窓兄弟。数ニモ入ラヌ。羽武者共驅散シテ捨ヨトテ。馬ノ鼻ヲ双ベワツトテカケ入レバ。蜘蛛ノ子ヲ散スガゴトク。四角ノ方ニ逃行ケリ。其間ニ四騎ノ者共馬引返シテ落テ行ク。敵又慕ヒ来レバ取テ返シ。難ナク遠ク追退ケ。馬ヲ早メテ落行ケリ。大将政村ハ。神村作五郎ト只二騎心細クモ落玉ヒケルガ。暫ク馬ノ足ヲモ休メ。完栗大石ヲモ待付テコソトテ。兩人共ニ馬ヨリ下リ。暫ク懸ツギ居玉フ処ニ。完栗大石。牛窓兄弟。皆身ニハ矢ヲヒシト射立ラレナカラ。氣色ハウテ馳来ル。政村大ニ感称シ。旁命ヲ輕ンゼス。ンバ。争カ必死ヲ免ルヘキト。泪ヲ流シテ悦

者共驅散シテ捨ヨトテ。馬ノ鼻ヲ双ベワツトテカケ入レバ。蜘蛛ノ子ヲ散スガゴトク。四角ノ方ニ逃行ケリ。其間ニ四騎ノ者共馬引返シテ落テ行ク。敵又慕ヒ来レバ取テ返シ。難ナク遠ク追退ケ。馬ヲ早メテ落行ケリ。大将政村ハ。神村作五郎ト只二騎心細クモ落玉ヒケルガ。暫ク馬ノ足ヲモ休メ。完栗大石ヲモ待付テコソトテ。兩人共ニ馬ヨリ下リ。暫ク懸ツギ居玉フ処ニ。完栗大石。牛窓兄弟。皆身ニハ矢ヲヒシト射立ラレナカラ。氣色ハウテ馳来ル。政村大ニ感称シ。旁命ヲ輕ンゼス。ンバ。争カ必死ヲ免ルヘキト。泪ヲ流シテ悦

七玉ヲ係ル処ニ。清水甲斐守。秋津宮内。火輔以下。
 方々ヨリ馳集ツテ五百騎ハカリニナリシ方バ。
 今ハ心易シトテ。神村作五郎範景ニ先手ヲ討セ。
 清水。秋津ヲ後陣ニ備ヘサセ。畝ノ宿一テソ落ラ
 レケル。

名倉玄蕃允事

爰ニ赤松家譜代ノ士名倉玄蕃允ガ分野ヲ傳ヘ
 聞コソシカシケレ。其夜ハ秋津十静坊カ陣所ニ
 招カレ。酒宴酬ニ及ヒテ後。己カ陣ニ飯ヲ現心ナ
 ク醉伏シタリケルニ。城兵等不意ニ押寄。塙塙
 火ヲ放チ。陣々ヲ焼立攻入リレカハ。陣中。俄
 動レ上ヲ下ヘト反シケレハ。玄蕃允ガ嫡子二郎

三郎父カ傍ニ来リ。早ヤ此陣ニモ火ノカヽリテ
 候ト引起セトモ醉伏テ。尤ナカラ死人ノコトク
 ナレハ。コハ口惜キ御分野カナト。己ガ背ニ父ヲ
 掻負ヒ。二三町落行キケル処ニ。宇野カ陣ノ邊リ
 ニテ。敵兵ニ追カケラレ。今ハ遁レヌ処ゾト思ヒ。
 傍ノ暗キ所ニ父ヲ下シ伏セ置取テ返シテ相戦
 ヒ。敵ヲ追テ馳行シガ。大勢ニ取り籠ラレ。終ニ討
 死ヲゾシタリケル。玄蕃允陣雷ニ驚キ目ヲスル
 一々四方ヲ見レハ。前後皆火燃上リ車輪ノコトク
 ナル。炎飛散リ黒煙地ニ敷キ敵味方ノ喚キ叫ブ

色呼喚大叫喚ノ苦ニ異ナラス。名倉大ニ驚キ、
 傍リヲ見レドモ、即等共モナク。子共モナシ。爰ハ
 何国ニヤト思ヘハ、郊原ナリト覺ヘテ、大地ノ上ニ
 坐シ居タリ。コハ如何ニ我生ナカラ。地獄ニ落夕
 ルニヤ。叔洩猿ヤ如何センナフ。悲シヤ怖ロシヤ
 ト泣叫ビ。南無阿弥陀佛助ケ玉ヘ。地藏菩薩ハ係
 ル地獄ノ苦ニシテ助ケ玉フトコソ聞シガ。地藏薩
 埵ハ坐ヌカト。荒手ヲ搦テ泣居シガ。余リノ怖シ
 サニヨロメキナガラ、逃行キタリ。係ル処ヘ次男
 ノ三郎四郎父ヲ尋子テ馳来レバ、ヤレ愛襲シヤ。
 汝ハ如何シテ死シタルゾ。爰ハ如何ナル地獄ゾ

ト云ヘハ、三郎四郎大ニアキレ不意ノ敵ニ驚キ
 テ、本心ヲ失ヒ玉ヘルカト。手ヲ引キテ落行キケ
 ル処ニ、城兵等ニ追カケラレ。遁レカタク見ヘシ
 カバ、傍ナル岸カケニ、父ヲ下シ返シ合セテ相戦
 フ。吾番允此トキ、醉醒メ心ツキ。叔ハ夜言ノ入リ
 タルニヤ。我子ノ討レン悲シヤトハ思。トモ元
 来大臆病ノ男ニテ。我子ノ討ルベキヲモ願ス。息
 ヲ限リニ逃行レガ。後口ヲ乾ト見返シタレハ、早
 三郎四郎ハ討レタリト覺ヘテ、敵兵等追来ル。叔
 ハ我子ハ死シタルニコソト思ヘバ、身毛瘰心モ
 消シカ共敵ニ切ラレン怖ロシサニ。天ニモ升リ

夕ク地ノ底ニモ入りタキ心地レテ。身ヲ震ハシ
逃行ク処ニ主モナキ離レ馬ノアリケレハ是コ
ソ天ノ與ヘナレト。彼馬ニ打乘リ。難ナク其場ヲ
道レ。遇ニ落延ビ夕リケル処ニ松ノ生繁リタル
陰ニ三木弥五充衛門尉連貞歩卒十四五人ハカ
リ従ヘ馬ヨリ下テ休ミ居夕リ。名倉ガ追来ルヲ
見テ名倉殿カ如何ニヤ如何ニト云ヘハ名倉ハ
余リノ怖レサニ。敵ナリトヤ思ヒケン。我ハ名モ
ナキ者ニテ候。耶ケ玉ヘト云ヒ捨馬ヲ飛レテ逃
ル程ニ三石ヨリ五里余リノ路ヲ逃テ。海鳴ニテ
落タリケルガ翌日漸々胸ノ躍リテ。大將ノ
陣所。敵宿ニ立飯リシカバ。諸人爪弾キヲシテツ
笑ヒケル。

政村重而被寄三石 附狂歌事

去ル程ニ赤松上總介政村ハ敵宿ニテ落玉ヒ爰
ニテ味方ヲ待玉フ処ニ。賊軍ノ者共馳集リ。八十
余騎ニナリニケリ。係ル処ニ浦上因幡守村岡ハ
掃部頭村宗ニ同意セズ。一族ノ好ミヲ捨テ。忠臣
ノ節義ヲ守リ。敵ノ宿ニ馳参リケレバ。政村感悦
斜ナラス。然ルニ完栗作十郎範高ハ。此度ノ合戦
ニ数人所ノ功ヲ蒙リ。一身續ケル処ナレト云ヘ
トモ。勇氣勃生。決然トシテ。屈スル氣色ナカリケ

ルガ。翌日ヨリ痲痛ミ出テ。心身鬱乱セシカバ。痲
 養生スベシトテ。小塩へ返シ遣ハサレ。村国ガ勢
 ヲ合セテ。丁万余騎ヲ引率シ。又三石ヘゾ寄ラレ
 ケル。爰ニ久米十郎左衛門尉近氏ハ夜討ノ奇ヲ
 リシ夜。何国ヘカ進行ケン。翌日モ其行衛ヲ知ラ
 サリケルガ。同キ二十一日。三石ノ本陣ニ飯り来
 リシカバ。集ハ政村ノ籠ヲ受ケ。無二ノ近臣タリ。
 殊ニハ此度ノ合戦。皆渠ガ倭奸ヨリ出タリト出
 ノ諷スル処ナリ。然ルニ近氏年采ノ厚恩ヲ顧ス危
 キニ臨ンデ。一番ニ逃奔リ。今何ノ面目アツテ
 スゴクト飯ルラン。人面獸心ト云ツベシト。後日

指ヲサシテ。笑ハヌ者コソナカリケレ。此度寄
 ノ敗軍ヲ。ヲカシト思フ者ヤシタリケン。大将政
 村ノ本陣ノ前ニ高札ヲ立テ。
 赤松ノ千歳ノ数ヲ違ヘシト逃テ命ヲ續レケル哉。
 又久米近氏ガ。主ヲ捨テ。人ヨリ先ニ逃タリケル
 ヲ。悪シトヤ思ヒツラン。其傍ニ。
 大将ノ傍近氏モ逃失テ久米ノ更山更ニ甲斐ナキ
 ト。二者ノ狂歌ヲ。ノ立タリケル。近氏心ニ思ヒケ
 ルハ。最前清水甲斐守カ。我ニ耻辱ヲ與ヘシニ付
 テ。鞆々思慮ヲ巡ラスニ。完栗。秋津。清水等。我計略
 ヲ以テ。浦上ヲ叛カセシヲトヲ。地開シト覺ヘタ

リ其^カ上我^カ暉^カ近^クヲ^チ妬^ム。又ハ^カ巴^カ等^カガ^カ武^カ勇^カニ^カ慢^シ。某^カヲ^チ慢^リ惡^シ。如何^カニ^モシ^テ某^カヲ^チ失^{ント}。内^カ々^カ巧^クムト^見ヘ^テア^リ。然^ル上^ハ秋^津。清水^等ガ^チセ^レ。処^ニ疑^ヒナ^シ。司^ジク^ハ秋^津。清水^ヲモ^ナキ^者ニ^シテ^心ノ^任ニ^威ヲ^振ハ^{ント}思^ヒ。様^々思^案ヲ^巡巡^ラレ^ケル。

久米十郎左衛門尉近氏讒清水秋津事

去^レ程^ニ久^米十^郎左^衛門^尉近^氏ハ^大將^政村^ノ前^ニ出^ル。彼^モ此^度御^本陣^ノ前^ニ狂^歌ヲ^立テ^候コト。如何^ナル^レシ^レ者^ノワ^サヤ^ラント^存ジ^テ候^ヘバ。宗^徒ノ^人々^ノ巧^クマ^レテ^候ナ^リ。武^道ノ^ミナ^ラズ。

歌^道ニ^サハ^達シ^{タル}人^々ニ^テ候^ト云^フ。政^村面^色カ^ハリ。其^ハ誰^ガ所^為ナ^ルゾ。早^ク申^スベ^シト怒^リ玉^フ。其^トキ^近氏^ガン^候秋^津官^内火^輔。清水^甲斐^守完^栗作^十郎^等已^ガ武^勇ヲ^鼻ニア^テ。當^屋形^ハ御^先祖^代々^ニモ^劣リ。別^レテ^ハ御^養父^政則^公ニ^モ似^至ハ^ス。臆^病第^一ニ^シテ。賞^賜ニ^暗ク。一^向ノ^愚將^ニテ^坐セ^バ家^ノ危^キコト^且夕^{ニア}リ。當^家ニ^我々^ナク^ンハ^争カ^一日^モ安^穩ナル^ベキナ^{ンド}。内^々廣^言ヲ^吐候^ナリ。又^某累^年御^厚恩^ヲ蒙^リ候^コト。是^渠等^ガ妬^ム處^ニテ^候。然^ルニ^此度^敵ノ^旗ヲ^ダニ^御覽^セラ^レズ。御^鑑ヲ^ダニ^召レ

スシテ君ノ落サセ玉ヒシコト。又近氏^{チカ}近ノ臣
 タリナガラ。君ノ御供ヲモセズシテ。敗北^{ハク}シ候ヒ
 シヲ。夏ヲカシク存ジ。秋津^{アキツ}清水^{しみず}ガナセシコトニ
 テ候由^{ツゲ}告知ラセシ者ノ候ト云ヒケレバ。政村大
 ニ怒^{イカ}リ。渠等^{カシラノカモ}某ヲ愚ナリト思フユヘ。我^ガ云ヒ出セ
 ル計^カリコトヲ。一度モ用ヒタル例^{タリ}シナシ。如何^{イカ}シ
 テ此^{イキホ}憤^ホリヲ散^{サン}スベキ。汝^{ナニテ}ガ思慮^{シヨリ}ヲ聞ントアル。近
 氏^{チカ}サン候某^カ愚案^{アホ}ヲ巡^メラン候ニ。渠等^{カシラ}ハ宗徒^{ムネト}ノ者
 共ニテ候ヘバ。只今ノ時^ジ節^{セツ}卒^{ソツ}余ニ罰^{バツ}ヲ加ヘラレ
 シコトモ。叶^ハヒガタク候ベシ。然レハ先^ツ暫^シク御情^{ミナシ}
 リヲ押^{オシ}ヘラレ。浦上^{ウラカミ}誅伐^{チウバツ}ノ以後^{イノチ}御城中^{ミナト}ヘ方^{カタ}便^ビ

寄^{ツキ}死罪^{シツミ}ニ行^{ユク}ハレ候ベシ。先^ツ此^{コノ}度^{タビ}ハ御旗本^{ミナト}ノ勢^セヲ
 以^モテ。城^{シロ}ヲ一^ヒ攻^セムラレ候ヒテ。渠等^{カシラ}ガ口^{クチ}ヲ御塞^{ミサ}ギ
 候ヘ。某^カモ粉骨^{コノコ}ヲ尽^{ツク}シ相^{アヒ}働^ワキ。此^{コノ}耻辱^{チヨク}ヲ雪^{ユキ}ギタク
 候ト云フ。政村^{シマムラ}聞玉ヒ。汝^{ナニテ}カ云フ処^{トコロ}吾^ガ心^{ココロ}ニカナヘ
 リ。然^シラハ旗本^{ハタゴ}ノ勢^セヲ以^モテ。城^{シロ}ヲ一^ヒ攻^セムベシトテ。
 其^カ赴^{ツク}キヲ陣中^{マタラシ}ヘゾ綱^{ツル}ラレケル。清水^{しみず}。秋津^{アキツ}是^{コノ}ヲ聞^ク。
 今^{イマ}敵^{テキ}大利^{トク}ヲ得^ユテ。飛龍^{ヒリウ}ノ雲^{クモ}ヲ得^ユ猛虎^{モウコ}ノ山^{ヤマ}ニ境^{サカイ}リ
 タルガゴトシ。然^シルヲ今^{イマ}我^ガ々^々ニモ評議^{ヒヤウギ}ナク。旗本^{ハタゴ}
 ノ勢^セハカリヲ以^モテ。攻^セラレントノ計^{ケイ}略^{リョク}ハ如何^{イカ}ナ
 ルユヘニテアルヤラント。大持^{オホモチ}ノ本陣^{ホンジン}ニ。数^{スウ}度^{タビ}参^{マシ}
 リシカドモ。左右^{サマ}ニ夏^{ナツ}ヲ寄^{ツキ}。一度モ對面^{タイメン}シ玉^{タマ}ハガ

レバ、兩人モ不審ニ思ヒ、心中、急カナラガル処ニ、浦上因幡守村国ヲ召レ、御邊ハ荒手ナレバ、先陣ヲ仕ルベント宜ヘハ、村国大ニ悦ビ、領掌シテゾ、飯リケル、清水、秋津ハ、又近氏カ、讒口ニヨツテ、申シ、掠メレ、由ヲ傳ヘ、聞大ニ怒リ、憤リ、此度ノ先陣ハ、範高ト、秀国ナル処ニ、範高痛手ヲ蒙リ、小塩ニ飯リシ上ハ、秀国ニ、清水カ、神村ヲコソ加ヘラルベキ処ニ、秀国ガ先陣ヲモ、変改アツテ、村国ニ仰付ラレシコソ、無念ナレ、此上ハ、今ヨリノ合戦ハ、見物スルヨリ外アルベカラズト、二人共エ、泪ヲ流シテ、怒リケル。

三石城軍 附三穂田新右衛門尉討死事

去程ニ秋津官内、火轉秀国ハ、久米十郎左衛門ガ讒ニヨツテ、先陣ヲ變改アリシユトヲ大ニ恨ミ、憤リ、我、此陣中ニアツテ、何ノ面自カアルベキトテ、虚病ヲ搦ヘ、舍、身十、齋坊ト共ニ、手ノ勞ヲ引、卒シ、已ガ居城ニゾ、飯リケル、斯テ、赤松上總介、政村ハ、浦上因幡守村国ヲ先陣トシ、次ハ、旗本備ヲ以テ、三石ノ城ニ攻寄ラル、浦上掃部、助村宗ハ、敵ヲ思フ、圖ニ、偽引キ寄ンガタメ、城中、静マリ返ツテ、居タリケリ、氣早ナル、荒手ノ勞、敵ノ虚實ヲモ、窺ヒ、計ヲズ、持、指、墨、桶ヲ、被キツレテ、攻寄ル程ニ、切

岸ノ下マテ攻著タリ。時ニ城中ニ太鼓ヲ打出シ。堀ノ上ヨリ。大木ヲ抛カケク。矢ヲ飛スコト。白雨ノ板屋ヲ過ルゴトクナレバ。寄手ノ勞共。楯ヲ碎カレ。甲ノ鞆ヲ傾ケ。漂ヒ騷ク。城兵等。城戸ヲ開キ。突矢直チニ進テ。馳出レバ。ナジカハ以テ。喉ヲベキ。寄手立足モナク。敗北ス。大将上総介。白旗ヲ振テ。今日ノ軍ニ打負ナバ。弥世ノ人口ニカ。ルベシ。汝等身命ヲナゲウツテ。先度ノ耻辱ヲス。ケヨト。松ノ字ノ赤旗ヲ押立サセ。カ、レクト下知シ玉フ。旗本ノ遲矢等。大将ニ義ヲ進メラレ。烟嵐ヲ巻テ切りカ、ル。東條矢衛入道。順格見

ヲ見テ。今カ、リ来ル敵ハ。大将政村ト覺ルゾ。高名シテ譽レヲ中国ニ顕ハセト。真先ニカケ入レバ。佐敷右門菊野小隼人。順格討スナ。續ケマト。一洞ニ突入タリ。敵味方ノ喚キ叫ブ。色ニハ。大陣モ崩レ。坤軸モ碎ケヌベシ。血ハ流レテ。洪河ノゴトク。屍ハ積テ石。墨ニ似タリ。去レバ百陣敗レテ。一陣ニナルトモ。互ニ引ジト戦ヒケル。処ニ。真木越前守。負郊菅野。花房以下。横合ニカ、ツテ。柵立シカバ。寄手又散々ニ戦ヒ。負親ヲ捨主ヲ。跡ニ置テ。我一ニト敗走ス。政村ハ床肌ニ腰打カテ。士卒ヲ下知シテ。居玉フ。処ニ。久米十郎右衛門近氏。ツ

ト馳衆ル大將是ヲ見至ヒ。久米カ合戦ハ如何ニ
 ト宣フ。近氏サン候。先陣ノ村国合戦ヲ仕損ジ候
 コヘ。城共等勇ミホコリ。其勇氣當リガタク候ナ
 リ。先今日ハ御退キアリ。後日ニ御寄候ヒテ。城ヲ
 乘破ラレ候ヘト云テ。馬引寄セ。大將ヲ打乗セ。逃
 退ク。見苦シカリシ。復共ナリ。大將既ニ斯ノゴト
 クナル上ハ。諸勢誰ニカ耻ラフベキ。命ノアルヲ
 勝一セヨト。我勢ヲジト逃テ行ク。三穗田新右衛
 門尉眼ヲイラケ。近氏何ユヘ大將ヲ進メ退ク
 ザ。汝倭奸ノ石頭ヲ以テ。無謀ノ合戦ヲス。斯レ
 大敗ヲ仕出シ。今更命ノ情キカヤ。返シ合セニ業

カ討死スルヤウヲ見習ヘヨト。只一騎取テ返セ
 バ。義ヲ重ンスル者共。我モくと守リ返シ。追來ル
 敵ヲ遮ツテ。今日ヲ限リト相戦フ。必死ト期シタ
 ル者共ナレバ。纒十四五騎ニ支ヘラレテ。城兵等
 進ミ得ズ。三穗田ハ大剛ノ勇士ナリケルガ。四方
 ヲ掃ヒ八面ニ當リ。驅入りく戦フテ。終ニ討死ヲ
 ギレタリケレ。三野丹波守景泰東條入道順裕士
 卒ヲ下知シ。長追ヲスベカラストテ。勢ヲ纏メテ
 引テ行ク。三穗田ガ敵ヲ支ヘテ。討死セシ間ニ。大
 將ヲ始メ。諸勢漸々ト。本ノ陣所ニ引取リケリ

淳田八郎能家三石後詰 附 政村敏障事

去程ニ赤松上總介政村。久米近氏カ勤メニ依テ無
 謀ニカ、ソテ多クノ士卒ヲ討セラレシカハ。實
 ノ国敵ハ近氏ナリ。終ニハ赤松家渠ガ夕メニ亡
 ビナント。諸人惡ミ疎ンゼリ。清水甲斐守モ。大ニ
 政村ヲ恨ミ思ヒシカバ。大将ノ本陣ヘモ。信ヲモ
 通ゼズ。己ガ陣所ニ引籠リ。世間ノヤウヲゾ見夕
 リケル。係ル処ニ。備前ノ国岡山ノ城主淳田八郎
 能家。浦上ニ一昧シテ。三石ノ城ノ後詰ヲセシガ
 クメ。数千騎ヲ引卒シ。加賀戸片上ヲ過テ。龍山ニ
 陣ヲ取り。寄手ヲ前後ヨリ立夾ンテ。討取ント。ソ
 議シ夕リケル。上總介政村。大ニ驚キ。諸臣ヲ集メ

今城中兩度ノ合戦ニ。大勝利ヲ得。勢ヒ龍虎ノコト
 クナルニ。淳田八郎モ當家累代ノ恩ヲ忘レ。逆心
 ニ與シ。三石ノ後詰トシテ。龍山マデ出張セシ由
 如何シテ敵ヲ防グベキト。諸人ノ異見ヲゾ問シ
 ケル。時ニ伊豆孫次郎進ミ出。當時味方ニ專一ト
 頼ミツル。完栗作十郎ハ痛手ヲ肩テ飯リヌ。秋津
 宮内。少輔ハ君ノ侍臣ニ迷ハサレサセ玉フヲ憤
 リテ。虚病ヲ搦ヘテ。己ガ居城ヘ引籠リ。清水モ君
 ヲ恨ミテ。己ガ陣所ニ取り籠リ。罷リアリ候。是皆
 當家ノ武運頓キタル驗シニテ候ナリ。播磨。赤松
 備前ノ三州ハ。御先祖天寶林寺妙喜律師。祐則ヨ

以以来、知し召ル、国々ニテ候ヘドモ、三个国ノ
 者共悉ク、吾ヲ恨ム、多ク浦上ニ一、味仕リシコト
 是非ニ及バサル処ナリ、去ルニ依テ、當家ニ罷リ
 アル者共ニモ、運ヲ兩端ニ窺フ、族多クアルヘク
 候ナリ、其上、味方ハ完栗、秋津、清水、三人ノ、功臣退
 キテ、諸勢力ヲ落シ罷リアリ候処ニ、淳田多勢ニ
 テ、後、語仕リ候コト、敵ハ龍ノ雲ヲ得タルガコト
 ク、味方ハ五更ノ燈ニ、嵐ノ通フガコトクニテ候
 前後ノ敵ニ攻ラレナバ、由々シキ大事ニテ候ハ
 ン、其上、歳末ニモ及ビテ候ヘハ、早々御引取りア
 ツテ、来春又、御出馬候ヘカシト云ヘハ、諸人皆此、

儀ニゾ、同ジケル、政村聞王ヒ、然ラハ先、小堀ニ引
 取ルベシ、誰ヲカ、後、殿ニ定ムベキ、浦上、淳田、味方
 ヲ、喰止ント追カケナハ、諸勢難儀ニ及ブヘシ、如
 何セント宣ヘバ、浦上、因幡、守村、因進、出、敵ニ向
 フ、処ノ先陣ハ、引取ルトキハ、後陣ニテ候ハズヤ、
 然ル上ハ、此、度ノ後、殿ハ、誰人ニカ、讓リ候ヘキ、村
 田、勤ムベキニテ候ト云フ、其トキ、神村、作五郎、範
 景、某ガ、兄、作十郎、此、御陣中ニ候ハ、誰人ニカ、後
 殿ヲ、渡シ候ベキ、然ル上ハ、範景ニ、仰付シレ下サ
 ルベシ、範高ガ、思ハン、処モ、如何ニテ候ト云フ、政
 村、聞至ヒ、汝ガ、望ム、処モ、一、理アリ、此、上ハ、一ノ、後

殿ハ村田二ノ後殿ハ神村勤ムベシト定メラレ
 三石表ヲ陣拂ヒアツテ。十二月晦日。小塩ニ飯陣
 シ至ヒケリ。去レドモ城中ヨリサノミ道ニ慕フ
 敵モナカリシカバ。諸勢畝ニ至ツテ。始メテ突キ
 思ヒヲナセリ。斯テ浮田八郎ハ。三石ノ城ニ入り
 浦上ニ對面シ。軍議ヲ凝シテ後。已カ居城岡山ニ
 ゾ返リケル

作州岩屋城軍

並松山城追手合戰事

斯テ赤松上總介政村ハ。浦上ニ一味セシ。養作ノ
 国岩屋ノ城主中村五郎ヲ攻ラルベシトテ。永正
 十六年。赤松家ノ一族タル。播州姫路ノ城主小寺

加賀守則職ヲ数千騎ニテ指遣ハサレ。此勢作州
 岩屋ノ城ニ押寄テ。攻動カスニト番靈ノゴトシ。
 去レドモ城主中村五郎武勇ニ長シ。其上賀川助
 次郎。芳根入道。開月。岩淵吉四郎ナト。云フ武功
 ノ者共。備籠リシカバ。敵ノ多勢ヲ屑モセス。近々
 ト引請テ。大石大木ヲ抛カケ。敵ノ色メク処ヲ。切
 テ出テ驅立ル。幾度モ斯ノゴトクシケレバ。寄手
 モ案ニ相違シテ。イヤク此城アナドリニクシト
 テ。合戦ヲ止遠卷ニシテ。月日ヲソ送りケル。此分
 ニ數日ヲ經ル中ニ。備前ノ浦上後詰ヲセハ。味方
 勝利ヲ失フヘシトテ。播州小塩へ飛脚ヲ馳。急キ

御出馬候ヒテ。中村ヲ御退治候ベシト。類リニ臣
 進ラゾシタリケル。爰ニ赤松上總介政村ハ。松山
 ノ衣笠長門守ヲ攻モボシ。先當國ヲ心安クシテ。
 其後何方ヘモ向ハメトテ。松山ニ發向シ玉ヒ。日
 々城ヲ攻ラル。ト云ヘドモ。城主長門守村氏ハ。
 頃コト近郷カサヨリ兵糧ハ多ク取り入レシ。小塩勢沛ル
 、ニ足スト勇イサクアヘリ。時ニ勝田伯耆守村定大
 將ノ本陣ニ参ル。思フニ城中左ノミ多勢ニテハ
 候マシケレバ。四方ノ狭間サハ夕ハリニ。軍勢ノ不足
 候ベシ。又當城ヲ見積シリ候。搦手ハシノ方要害無下
 ニ。狭間ニ候。然レバ。追手ヨリ手ヅヨク攻テ御覽

候ヘ。追手ノ合戦難儀ナランニハ。城中ノ士卒悉
 夕追手ヘ集ツテ。破ラレビト防マギ候ハン。其トキ
 搦手ハシヨリ攻破リ候ハント云ヘバ。政村此謀圖ニ
 當レリト宣ヒテ。多勢ヲ卒レ押寄テ。息イキヲモ續セ
 ズ。攻立ル。城兵等モ爰ヲ破ラレビト。精兵ノ手夕
 レヲ搦ハシヘテ散々ニ射サス。寄手是ヲ復共セス。三
 負討ル。ヲモ顧カス。曳々カ場テ攻カ。ル。城將
 衣笠長門守村氏モ。追手ノ櫓ヤニアツテ下知レケ
 ルガ。寄手多勢ナレバ。荒手ヲ以テ入レ替カク攻ル
 コヘ。寄手ノ勢ハ勇氣次第ニ盛ンナリ。此。將ニテ
 ハ。今日此口ヨリ乘破ラレヌベク覺ルゾトテ。四

方ニ軍使ヲ馳テ喚取リシカバ。搦手ノ者共モ守リノ勢ヲ少々残シ置持口ヲ捨テ皆追手へ馳集マリ。破フレビトゾ防ギケル

松山落城

附 覚藏坊東條只丸以下討死事

爰ニ勝田伯耆守村定。宇野勘解由左衛門尉村範。香西少輔五郎八三手ノ勢合テ千二百余騎搦手ニ時分ヲ窺ヒ待居シガ。追手ノ合戦真最中ニ見ヘシカハ。須破時コソ能ケレ。攻込ヤ者共ト一同ニ咄ト攻寄テ。乘破ラントゾ捫ダリケル。此手ヲ守リシ者共ハ。過半追手へ向ヒシユヘ。城戸ヲ堅ク閉堀櫓ノ上ヨリ破ラレビト防ギタリ。寄手ナシ

カハ猶豫フベキ。我先ニ乘込ント。軍ヒ集ルル城ノ者共。爰ヲ破ラレビト。鑓長刀ヲ以テ突落シ切リ落ス。ヤレ搦手破ラルハト云フ程ユソアレ。士卒ハ皆追手アリ。女童老タル姥ナンドマデ。櫓ノ陰堀ノ上ヨリ。爰ヲ破ラレナバ如何セント。飛礮ヲ打破ラマキ。破ラレビト防ギタリ。氣ヲ得タル寄手ノ勢。親討ルレバ其鑓ヲ取テ突カ、リ。至突落サルレハ。其死骸ヲ足ダマリニシテ。乗入ント捫立ル。桑原平治之助堀ノ上へ乗揚ラントスル処ヲ。城兵等右ノ腕ヲ切リ落セバ。桑原下ニ百ド落ルヲ。中間一人走り寄肩ニ引カケ退キ

夕リ。淡屋十郎。熊見式部。痛手ヲ負テ引退ク。尤
 山又吉。田上主馬。中條七郎。左衛門尉。武藤久作。竹
 田仙友。齊岩。因台阿弥。若王寺兵衛次郎等。皆突落
 サレテ死ニダリケリ。其外手負死人数ヲ知ラズ
 勝田伯耆。守村定我。ニ續ケヤ者共ト。敵ノ突鐘ニ
 取リツキ乘込ハ。郎等ノ秋岡平太系。田七郎次郎
 小南平馬。三人ツバイテ乘入ル程ニ。早城兵等五
 六騎討シテ。騷キ漂ヒ居ル処ニ。宇野香西ヤレ。勝
 田ハ乘入りタリ。乘込メヤ者共ト下知レクレハ
 諸勢一同ニ乘破リ。城兵等ヲ爰ニ追シケ。彼ニ追
 諾切リ伏ル。須破搦手ハ破レタルゾト云フ程コ

ソアレ。城中一同ニ鳴動シ。千雷万鼓シテ。天維地
 ニ落。坤軸碎クル計リナレバ。追手ノ寄手得タリ賢
 シト。突トモ射レドモ疼マズ。曳ヤト喚キニ
 喚テ攻立ル。浦光勝太兵衛尉ト名乗り。黒皮ノ鎧
 ニ風車ノ前立打タル。堦登ヲ着。一番乗ハ我ナリ
 ト。高ラカニ喚ハリ。乗入ントスル処ヲ。城兵ニ小
 野寺平八。打入ラセ。ゼト鐘ヲ以テ。鐘ノ透間ヲ打
 ト突ク。浦光スカサズ。鐘ノ柄ヲタグツテ。登ラン
 トスル処ニ。三木弥五左衛門ガ放矢ニ。小野寺内梵
 登ヲ射ラレテ。真倒シマニ。百ド落ル。浦光モ共ニ
 連テ落タリシガ。頓テ平八ヲ取テ押へ。首掻切テ

中臣大平記

立揚ル。其間ニ秋津又四郎国花。一番乗ト名乗テ
真先ニ乗入ルレバ。早リ雄ノ若者共。我先ニト爭
ヒテ。難ナク塀ヲ乘破リ。一人モ泄ガシト。攻立切
立相戦フ。城兵等今ハ早十計クイソキ悉ク本丸ニ引入
タリ。八正寺ノ覺藏坊例ノ大斧ヲ打振り。イカメ
レキ敵ノ挙動ヤ。乗取レハスマシキゾト。群リカ
ル敵ノ中へ。只一騎カケ入テ。七顛ハ倒シテ戦
へバ。討ル者数ヲ知ラス。東條只丸同。又四郎以
下十二騎。覺藏坊ヲ討セシト。是モ敵中ニ切り入
テ。死生知ラスニ戦ヒケルガ。十四騎共ニ悉ク討
レケリ。城兵等多ク討シ。本丸ヲモ持保ユルコト
叶ハサレバ。城主長門守村氏殘兵等ヲ從ヘ其夜
城中ヲ切テ出。一方打破リ。備前ヲ指テ落テ行ク
寄手ノ勢追カケ追ツメ討程ニ。村氏僅ノ勢ニ討
ナサレ。辛キ命ヲ助カリ。漸ク死ゾ免レケル。斯
テ政村ハ。松山ノ城ヲ燒掃ニ。此上ハ作州ニ本馬
スベシトテ。一先飯陣シ玉ヒケル



中国太平記卷之五終

中国太平記

中國太平記卷之第六

目錄

作州岩屋城攻

附 小寺加賀守則臧リモトジガシ自害事

赤松浦上和睦ボク

附 政村剃髮閑居事カニハツカン

足利家社稷カキ頤瘡シヨクケイカク

並 赤松入道常印小塩ジホバツ拔落事

赤松入道常印三石ハツ祭向

附浦上計略事

弘岡^{ヒロヲカ}左京進^シ反心 附常印^{ホシソウ}奔走事

公方義晴^{ヨシハル}朝臣自播州入洛

並浦上^{カイスル}害常印事

伊豆小寺以下^{ホウキ}蜂起

並山名右京太夫政豐^{トヨバン}播州乱入

附家系事

洛下 馬場玄隆信意輯錄

作州岩屋城攻 附小寺加賀守則職^{モトシキ}自害事

爰ニ赤松三十六家ノ内。小寺加賀守則職^{モトシキ}ハ中村

五郎ガ攻手トシ。作州ニ桑向シ。岩屋ノ城ヲ取圍ミ

昼夜息ヲモクレス。攻戦フ。寄手術ヲ変テ攻レバ

城中巧ニテ替テ拒ク。變ニ臨ミ。機ニ應ジテ。城奔

曾テ屈セサレバ。寄手ノ勢モ只大将ノ後詰ヲ相

待居タリク。爰ニ寄手ノ勢ノ中ニ。野沢主計助

ト云フ者アリ。熟々ト思慮ヲ巡ラシケルガ。當時

浦上ガ武威盛シナレバ。赤松家ハ終ニ断絶ニ及



ブヘシ。此上ハ城中へ内通シ。身ノ後榮ヲ討ラント
思ヒ忍ビヤカニ城中へ矢文ヲ射入レシカバ。城
主中村五郎。是天ノ與フル処ナリト。大ニ悦ビ勇
ミ同キ十月六日。城ヲ拂ツテ突テ出寄手ノ陣ニ
押寄ル。城兵等ガ突テ出タルハ。寄手ヲ思ヒ侮ル
ト覚ヘタリ。近々ト偽引寄手痛ク攻テ。城ヲ付入
リニ乗取レト。敵ヲ間近ク引受ケテ。矢ノ一ツヲ
モ射出サス。喚キ叫テ相戦フ。敵味方互ニ勇ヲ震
ヒ。奮翼ニ連ナリ魚鱗ニ進ミ。陰ニ開キ陽ニ閉干
雷万鼓シテ。大山モ是ガタメニ崩レ。洪河モ忽裂
スベシ。係ル処ニ野沢主計助ガ軍勢共。時分ハ後

ゾト云フマヽニ。後陣ヨリ討テカヽリ。一人モ泄
サズ討取レト。息ヲモ續セス。攻立ル。寄手ノ勢案
ニ相違シテ。野沢ガ反心ヲ知ラスシテ。敵ノ謀ニ
落ヌル口惜サヨトテ。後口ノ敵ヲ拒ントスレハ。
前ナル城兵等。一捫ニ捫崩ント切り立ル。前ナル敵
ヲ拒ントスレハ。後口ヨリ野沢ガ勢突立切立。攻
カヽル。前後ニ備ヲ分テ敵ニ相當ラント闘着ス
ル程ニ。諸勢一同ニ崩レ立ツテ。主ヲ討セ親ヲ捨
テ。我先ニト逃ントスルヲ。短兵直チニ進ンテ攻
付レバ。紅血蕩々トシテ。波ヲ揚ケ。死骸墨々トシ
テ山ヲナス。哀シナリシコト。夏共ナリ。小寺加賀

守則職今ハ遁レヌ処ナリト思ヒケレハ。多勢ノ
敵ニ相當リ。七顛ハ倒手ヲ碎キテ後。父子三人自
害シテ。同枕ニ伏タリケリ。是ヲ見テ死ヲ一場ニ契
リシ者共。我モくと討死シ。其余ノ者共ハ。右往左
往ニ逃行ヲ追カケ追詰討取ツテ。勝鬨ヲ揚ケ氣
色ハウテ。城中ニゾ引入リケル。係ル処ニ赤松上
總介政村ハ。衣笠カ居城ヲ攻落シ。今ハ国中心易
ケレハ。作州ニ衆向シ。小寺ニカヲ添ヘテ。岩屋ノ
城ヲ屠リ拔ント。軍勢ヲ引卒シ。小塩ヲ打立。白旗
ノ城マテ出張セラレケル。処ニ早小寺父子討負
テ。自害セシ由聞ヘシカハ。政村大ニ驚キ。カラテ落
シテ。小塩ヘゾ引飯サレケル。

赤松浦上和睦 附政村剃髮閑居事

去程ニ作州岩屋ノ寄手。小寺加賀守則職合戦ニ
打負自害シテ。中村五郎大ニ勝利ヲ得タリシカ
ハ。浦上方ニハ勇ミ悦ブコト限リナン。小塩ニハ
大将政村ヲ始メ。諸勢氣ヲ失ヒ。當家ノ武運未ニ
ナリテ。亡ブベキ時節到来セルニヤ。今ヨリ墓々
レキコトハヨモアラジト私語ケリ。其上赤松家
ニテ。股肱爪牙ト喚レツル。完栗作十郎範高ハ重
手ヲ負テ。生死ノ界定メカタシ。秋津官内。東輔秀
國。清水甲斐守政國ハ。倭人ノ讒口ニヨツテ。大将

政村ヲ恨之。已カ居所ニ引籠リ。世間ノヤウヲ見
 居タリシカバ。赤松家ノ衆流三十六家ノ輩ヲ始
 累代思ヲ荷ヒ徳ヲ戴キシ者共マテ。拔々浦上
 方ニ馳加ハリ。又ハ縁ヲ求メテ彼手ニ属センコ
 トヲ望ミシカバ。浦上ハ勢ヒ日ヲ遂ウテ盛ンニ
 ナリ。政村ハ次第ニ士卒減ジテ。勇氣ヲ墮シ。只
 然トシテ居ラレケリ。然ルニ政村ノ北ノ方并ニ
 北ノ方ノ母儀赤松左京大夫ハ。年比政村ヲ入り
 聳ナリト侮リ思ヒ。殊ニ政村常ニ養女ヲ愛セラ
 レシカハ。此コトヲ深ク妬ミ憤リ。母子共ニ政村
 ヲ疎マレシカハ。浦上掃部助村宗深慮ヲ巡ラシ。
 母儀室家ノ方ヘ云ヒ送リケルハ。某コトハ御先
 祖圓心公ヨリ以来宗徒ノ一族トシテ。累代忠義
 ノ譽レヲ顯ハシ。曾テ逆臣ノ名ヲ取り候ハス。殊
 ニ亡父兼作守則宗。故性善院殿則政ニ仕へ奉リ。
 執事ノ職ニ居テ。国中ノ政道ヲ司リ。故殿逝去ノ
 後ハ。赤御幼雅ノ當屋形ヲ補佐シ。三ヶ国ヲ靜謐
 ニ治メ。赤松殿ト世ニ威名ヲ喚セ奉ルコト。恐ラ
 クハ則宗カ忠勤ニテ候ハスヤ。某又父ガ遺識ヲ
 守リ。專忠功ヲ尽シ候処ニ。讒人傍ニアツテ。様々
 申掠ルヲ。實ト思シ召レ。村宗ヲ誅セラレントノ
 結講ハ。何ゴトニテ候ゾヤ。某ガ敵對仕ルハ。止コ

トヲ得サル必ナリ其上愚案ヲ巡ラシ候ニ屋形
様ハ一代御家ハ末代ニテ候ハズヤ何ゾ庭弱不
器ノ大将ヲ仰キテ長久ノ御家ヲ滅亡ニ及ハセ
候ベキ然ル上ハ屋形ハ早ク隱居坐シ幼少ノ若
君ニ家督ヲ譲與レ玉フベレ然ラバ其幼君ヲ輔
佐シ繁榮ノ謀ヲ巡ラシ候ベシ某ガ申処忠アツ
テ私ナシ御家永久ノ謀ヲ能ク御思慮候ベシト
様々云ヒ賺シケレバ母儀北ノ方モ常々政村ヲ
疎シ思ハレケレバ浦上ガ申旨一同ジ玉ヒヌ政
村モ勇氣尽果テ如何トモセラルベキ術ナク云
ヌル永正十年ニ誕生シ出ヒテ今年七歳ニナリ

玉ヒケル若君ニ家督ヲ渡シ政村ハ隱賢ノ身上
ナリテ剃髮深衣ノ姿ニ変名ヲ常印ト改メ玉ヒ
幽閑閑疎ノ住居ノ程是ヲ見聞人ゴトニ泪ヲ催
サスト云フ者ナシ母儀北ノ方モ常印禪門ヲ見
捨備前ノ三石ニ立越テ浦上ガ方ニ身ヲ寄玉フ
若君ハ後赤松在京太夫政祐ト号シ其後將軍
義晴公ヨリ一字ヲ賜ハリテ晴政トソ号ヒラレ
ケル

足利家社稷頭並赤松入道常印小塩拔落事
其比京都大乱ニ及ビ国々所々關場ノ街ト成夏ア
リ其ユヘヲ季ク尋ヌレバ足利家八代ノ公方征

夷大將軍義政公。御甥。左馬頭義視朝臣。天下ヲ
 讓與シ玉フベキ旨。御契約アツテ。御養子ニ定メ
 玉ヒシニ。御實子義尚公誕生坐シカハ。忽御心變
 リ。御實子義尚公ヲ。天下ノ武將トナサバヤト思
 召シ。終ニ義視朝臣ヲ瘞去シテ。義尚公ニ天下ヲ
 讓リ玉フ。應仁ノ大乱ト云ヘルハ是ナリ。其後江
 州ノ守護佐々木六角四郎高頼武名ニ叛キ。逆心
 ノ企テ。テル由聞ヘシカハ。將軍義尚公。江州ニ進
 發シ玉ヒ。對陣シテ坐シケルニ。重病ヲ受サセ玉
 ヒ。延徳元年三月二十六日。江州釣里ノ陣中ニ薨
 去シ玉フ。御齡二十五歳未御子坐サバハリレカハ
 義視ノ御子ヲ。濃州ヨリ喚上セ奉ラセテ。天下ノ
 主トナシ奉ラスル。惠林院義植公是ナリ。然ルニ
 明應二年。河州ノ畠山義就ノ長子。彈正忠義豊ヲ
 誅伐ノタメ。河州ニ發向アリ。正覺寺ニ居陣シ玉
 フ。此トキ細川右京大夫政元。畠山ト心ヲ合セ。不
 意ニ正覺寺ヲ襲ヒ。大將義植ヲ生捕リ奉ラスル。
 其後義植忍ンデ落行キ玉ヒ。北國ニ吟行ヒ。四國
 ニ漂泊シテ。其ヨリ大内介義興ヲ頼ミ。周防ニ蟄
 居坐シケリ。去ニヨツテ京都ニハ。細川政元自管
 領職ニ居テ。故義政公ノ御弟左兵衛督政知ノ嫡
 男左馬頭義澄伊豆ノ北條ニ坐シケルヲ。喚迎ヘ

義視ノ御子ヲ。濃州ヨリ喚上セ奉ラセテ。天下ノ
 主トナシ奉ラスル。惠林院義植公是ナリ。然ルニ
 明應二年。河州ノ畠山義就ノ長子。彈正忠義豊ヲ
 誅伐ノタメ。河州ニ發向アリ。正覺寺ニ居陣シ玉
 フ。此トキ細川右京大夫政元。畠山ト心ヲ合セ。不
 意ニ正覺寺ヲ襲ヒ。大將義植ヲ生捕リ奉ラスル。
 其後義植忍ンデ落行キ玉ヒ。北國ニ吟行ヒ。四國
 ニ漂泊シテ。其ヨリ大内介義興ヲ頼ミ。周防ニ蟄
 居坐シケリ。去ニヨツテ京都ニハ。細川政元自管
 領職ニ居テ。故義政公ノ御弟左兵衛督政知ノ嫡
 男左馬頭義澄伊豆ノ北條ニ坐シケルヲ。喚迎ヘ

参ラセテ。武将ニ備ヘ参ラスル。然ルニ政元嗣子
 ナカリシカバ。家臣香西又六元近是ヲ歎キ。九條
 關白尚經公ノ次男。澄之ヲ請受テ。政元ノ家督ヲ
 嗣セントテ。細川九郎澄之ト号ス。同家臣三好筑
 前守長元大ニ怒リ。一家ノ氏族ヲ指置テ。他家ノ
 人ニ細川ノ家ヲ継スベキカトテ。細川諸岐守義
 春ノ子。右京兆澄元ヲ招キ。細川ノ家ヲ継セント
 ス。政元ハ又一族民部少輔政春ノ子息。高国ヲ養
 子トス。香西是ヲ憤リ。逆心ヲ企テ。永正四年六
 月二十四日。主ノ政元ヲ執逆シ。三好ト相争ヒテ
 合戦ス。前將軍義植此弊ニ乗テ。大内介義興大友

鳴津龍造寺。吉川。小早川。毛利。完戸以下。十一万三
 千余騎ニテ上洛アル。細川澄元。三好長元等。撰州
 ニ馳向ツテ。是ヲ防グト云ヘトモ。合戦利ナフシ
 テ。京都ノ將軍義澄。近江ヲ指テ落玉ヘバ。義植頓
 テ入洛シ玉ヒ。征夷大將軍ニ再復アリ。大内介義
 興ヲ管領職ニ補シ玉フ。義興是ヨリ在京シテ。天
 下ノ政道ヲ執リ行ハレケレバ。暫ク静謐ニ皈ス
 ト云ヘトモ。財穀尽テ供給足ラザリシカバ。永正
 十五年秋八月。執政ヲ辞シ。防州ニ皈国セラレ。是
 ヨリ四海大ニ乱シ。狼烟天ヲ焦シ。逆浪地ヲ動ス。
 終ニ八蠻德ニ背キ。忠心ヲ翻シ。尽ク自国ニ皈テ。

小ヲ賣大ヲ拒ンテ。鄰境ヲ相爭フ。關東ニハ兩上杉。北條早雲ト相戦ヒ。北國ニハ長尾為景。越後。越中ヲ切り乱シ。四國ニハ河野刑部丞道宣。其子彈正。忠通政ト。父子ノ合戦止トキナク。九州ニハ大友。秋月龍造寺以下互ニ相戦ヒ。中國ニハ武田。毛利。吉川。完戸。尼子。赤松。浦上。銚楯ヲ與シ。京都ニハ兩細川。三好。鼎ノゴトクニ峙チテ。一日片時モ合戦止間ナカリシカバ。將軍義植公モ。今ハ政務ニ倦セ玉ヒ。如何ナル國ニモ立忍ビ。世ヲ安ク送ラバヤト。内々思シ召立レケル。茲ニ前將軍法住院義澄卿ハ。細川右京太夫政元ニ一味シ玉ヒ。一度ハ

義植卿ノ御敵トモナリ玉ヒシカトモ。幾程テノ薨去坐シガ。御幼稚ノ御子二人。爰被ニ忍ヒ坐シケルヲ。義植卿憐レシ玉ヒ。嫡子龜王丸殿ハ。近年京都ニ召上セラレ。父子ノ御契リヲナシ玉フ。又次男ノ若君ハ。去ヌル永正八年三月五日ニ誕生坐シテ。今年十歳ニナラセ玉ヒケルガ。播州ニ忍ヒ坐シケリ。然ルヲ上總入道常印。熟々ト思慮ヲ巡ラシ。公方家ノ若君。當國ニ坐スコソ幸ナレ。吾レ此若君ヲ守リ立ルト号シ。公方家ノ威ヲカリテ。浦上ヲ攻亡ホシ。勢付ナハ若君ヲ俱ヒ京都ニ登リ。義植卿ニカヲ添へ。後榮ヲ期セバヤト思ハレ

シカバ。譜代恩顧ノ者共ヲ相催シ。若君ヲ俱ヒ参
ラセ。永正十七年十二月二十六日ノ夜。忍ビヤカ
ニ小塩ヲ落テ。船ニ取り乘リ。明石ノ沖ヲ過テ。榛
谷ト云フ処ニ至リ。一族衣笠五郎左衛門尉ガ許
ニ居テ。便宜ノ味方ヲ催サレケル程ニ。其年モ頓
テ暮ニケリ。

赤松入道常印三石癸向 附浦上計略事

斯テ永正十八年ニハ。年号改元アツテ。大永ト号
セラル。茲ニ赤松上總介政村入道常印ハ去年ノ
冬ヨリ。衣笠ガ方ニアツテ。軍勢ヲ相催サレケレ
バ。一族譜代ノ輩又ハ一言報恩ノ者共相集ツテ。
既ニ多勢ニ及ビシカバ。時日ヲ移サズ。三石ニ押
寄テ。浦上ト雖雄ヲ決スベシト。弘明左京進ヲ先
陣トシ。別所孫次郎則定。宇野勘解由左衛門尉村
範。大石民部丞衣笠五郎左衛門尉香西少輔五郎。
久米十郎左衛門尉近氏。秋津孫四郎国花同十郎。
坊心樂三木弥五左衛門尉連負以下ヲ引卒シ。五
著マテ出陣セラレケル。去程ニ浦上掃部助村宗
ハ。赤松入道常印日比ノ素隈ヲ達センガタメ。士
卒ヲ催シ。三石癸向ノ由聞ヘシカバ。村宗モ合戦
ノ用意急ラズ。何様一術ナサバヤト思ヒケルガ。
既ト案ジ出シ。大濱ノ妙覚寺ニ。日奥トテ。赤松方

ノ弘暉ト所縁アツテ。親シキ僧ノアリケレバ。是
コソ究竟ノ幸ナレト。彼僧ヲ招キ寄和僧ニ頼ム
ベキコトノ候。弘暉尤京進ハ。御坊トハ親シキ由
ヲ聞及ベリ。何トゾ敵陣ニ行向ヒ。弘暉ヲス、メ
テ味方ニセラレヨ。然ラバ過分ノ廢養ヲ與フベ
シト云へバ。日奥聞テ。ガン候。弘暉ト愚僧トハ。母
方ニ付テ從弟ニテ候ユへ。親シク睦ヒ候。殊ニ弘
暉モ日蓮宗ニテ候へバ。愚僧ヲ皈依仕リ候術ヲ
巡ラシ候ヒナバ。弘暉ガ心ヲヒルカヘラセンコ
ト。掌ノ中ニ覚へ候ト云フ。村宗大ニ悦ビ。偏ニ御
坊ヲ頼ミ候。弘暉トハ年来ノ友ナレドモ。敵味方

ト隔タリヌレバ。如何シテ音信ヲスベキ便リエ
ナカリシニ。是コソ天ノ與ユル所ナレト。弘暉ガ
方へノ密狀ヲ書テ。日奥ニ與へ術ヲ委ク云ヒ。舍
メテゾ遣ハシケル。斯テ日奥ハ畝宿片嶋ヲ過テ
急キケル処ニ。赤松殿早五著マテ出張セラレシ
カバ。頓テ弘暉ガ陣中ニ入テ對面ス。弘暉驚キ。コ
ハ何ユへニ越玉ヒテ候ゾト云フ。日奥尤アラヌ
躰ニテ。サン候。貴邊此度出陣ト云ヒ。殊ニ先鋒ヲ
承リ申サレシ由傳へ聞テ。大事ノ役儀ナレバ。武
運長久。全勝必利ノ祈禱ヲ仕ランタメ。又ハ御邊
ノ鎧ノ下著太刀刀乘馬マデニ。秘密ノ文ヲ書與

ヘナバ。身ニ於テ少モ過ナアルベカラズ。其ユヘ
来リ候ト云ヘバ。弘岡手ヲ合セ。是三寶ノ御加護
高祖日蓮菩薩ノ再来ニテ坐ント。悦ブコト限リ
ナシ。日奥モ其月ハ誠レヤカニ念珠ヲスツテ。經
ヲ讀陀羅尼ヲ唱ヘ。大汗ニナツテゾ祈リケル。

弘岡左京進反心 附常印奔走事

斯テ日奥ハ其夜弘岡ト閑所ニ入り。忍ビヤカニ
云ヒケルハ。愚僧是マテ来レルコト余ノ儀ニア
ラス。御邊モ赤松殿ト共ニ。身ヲ亡ホシ家ヲ失ヒ
玉ハン方見サニ。是マテ立越候ソヤ。元来赤松入
道殿ハ其性愚ニシテ。久米近氏ト云フ侯人ヲ愛

シ。完栗清水。秋津以下ノ功臣ヲ退ケ。色ニ迷ヒ酒
ニ沉醉シテ。人ノ詞ニ付テ理非ヲ知ラス。左ナガ
ラ女童ノゴトクナリ。係ル人爭カ国家ヲ治ムベ
キ。又浦上掃部助ハ武勇ニ長シ。謀才深シ。其上京
都ノ管領細川右京大夫高国懇意タレハ。終ニハ
入道殿滅亡疑ヒアルベカラズ。然ルトキハ浦上
ニ一味シ。早ク子孫ノ後榮ヲ計ラレヨト云ヘバ。
左京進暫ク頭ヲ頷ケ去レバトヨ某モ内々左存
ジ候ヘドモ。不義ノ名ヲ蒙ンコト。末代マテノ耻
辱ナレバ。力及バス候ト云フ。日奥キモ敢ス。コ
ハ弘岡殿トモ覺ヘズ。左程理ニ暗ク候カ。不義ノ

君ヲ瘵スルコト。古今其例シ多シ。其上政村。既ニ
幼息ニ家督ヲ讓與シ玉ヒヌル上ハ。當時ノ大将
ハ彼幼息アリ。浦上又幼稚ノ大将ヲ守リ立。赤松
家ノ長久ヲ計ラントス。左ルニヨツテ。備前播磨
養作。三ノ国ノ諸士悉ク浦上ニ属スル処ニ。郷邊
此理ニ迷ヒ玉フハ何ゴトゾ。愚僧ガ斯市ハ高祖
日蓮大士。七面大明神ノ未タ捨サセ玉ハサル処
ナリ。早々思慮ヲ定メラレヨト云ヘバ。弘岡打ウ
ナヅキ。今ゾ心中一決シテ候ナリ去ナガラ浦上
ヘハ。如何シテ下ルベキト云フ。日與打笑ヒ。先互
テ浦上ヨリノ密狀ヲ取り来レリ。急ギ術ヲ巡サ
レヨトテ。彼密狀ヲ渡シ。浦上ガ云ヒシ謀ノ次第
ヲ委ク云ヒ聞セケレバ。弘岡大ニ悦ビ。翌日彼僧
ヲ皈シ。謀反ノ用意專ラナリ。弘岡又浦上ガ術ニ
任セ。秋津十。静坊甥ノ孫四郎等。總領宮内。少輔ガ
大将ヲ恨ミ。君臣ノ中不和ナル故。籠居シテ迎心
ヲ企ツルニヨリ。二人共ニ是ニ與シ。隱謀ヲ相巧ム
由。陣中所々ニテ云ハセケレバ。諸軍勢須破コト
コソ出来リタレト。思フドチ打寄指向ヒ。私語ヒ
ソメク。夏限リナシ。又別所孫次郎。則定。浦上ニ心
ヲ通シ。大将ヲ討ント計ルナンド。方々ニテ風聞
セサセケレハ。陣中大ニ騒動ス。入道常印。此由ヲ

傳へ聞コハ何コトゾヤ。當家ノ氏神。總社伊和木
 明神モ捨果玉ヒヌルカトテ。仰天ノ外他ナシ。其
 トキ衣笠五郎左衛門尉進之出。某退テ愚案ヲ巡
 ラシ候ニ。秋津宮内少輔ハ。智勇兼備へ。常ニ聖賢
 ノ道ヲ好ンデ。仁義ヲ專ト嗜ミ候へハ。爭カ隠謀
 ヲ相巧ミ候ベキ。渠ガ弟十静坊。甥ノ孫四郎。共ニ
 忠義ノ者共ニテ候へハ。ヨモ不義不忠ノ奉動ハ
 仕ルマシク候。又別所孫次郎ハ。日比浦上ト不快
 ニ候へハ。今更村宗ガ手下ニ属コトハ候ハジ。推
 量仕ルニ。敵ノ謀ニテ加様ノ浮説ヲ云ハスルト
 覺へ候。必卒余ノ御計ヒ。アルベカラスト云ハバ。

入道少シ色ヲ直シ。御邊ノ諫ヲ以テ。吾少シ心ヲ
 安ンゼリ。渠等ガ隠謀能々聞定ムベシトゾ宣ヒ
 ケル。係ル処ニ其月ノ暮方ニ。久米十郎左衛門尉
 近氏馳来ツテ。大将ノ前ニ出。叔モ弘岡左京進。浦
 上ニ一味仕リ。既ニ復急ニ候ト云へハ。入道大息
 ヲ繼テ。叔如何スベキト計リナリ。暫クアツテ。秋
 津孫四郎。即因花香西少輔。五郎等馳来リ。弘岡ガ反
 心。度分明ニ傳へバ。此所ニ御滞留暫時モ叶ヒ候
 マジト云へバ。常印。面色益業ノゴトクニナリ。敵
 ノ謀ニ落サレナバ。叶フマジト。取ル者モ取リ敢
 ス。東條ヲ指テ落玉へバ。諸軍勢親ヲ喚子ヲ尋子

テ落行程ニ從者ハ主ヲ捨我先々々ニト押合路
合ヒ逃テ行ク。淺猿カリシ復共ナリ。弘固此由ヲ
聞テ。初ハ早密謀ノ冊ヌルニコソ。追カケテ打取
レヨト。士卒ヲ下知シ。後レテ引シ者共ヲ。少々討
取リシカドモ。味方小勢ナリ。長追ヲスベカラズ
トテ引取りケリ。大將上總入道常印ヲ始メ。諸勢
悉ク。東條ノ王泉寺ニ落著テ。始メテ生タル心ゾ
出来ニケル。

公方義晴朝臣自播州入洛並浦上害常印事

其比四夷ハ蠻類リニ乱レ。天下ノ政道ニ暗ヲ吐
キ。上ヲ輕ンジ法制ニ背キシカバ。諸國表ハ万民
困窮シ。國々モ益揺蕩シケレハ。大樹義植卿モ今
ハ政道ニ倦果カセ玉ヒ。故將軍義澄卿ノ長男龜
王義冬。朝臣ヲ俱セ玉ヒ。大永元年三月二十五日。
密カニ京都ヲ御攝落アリ。淡路へ御退出坐シケ
リ。是ニヨツテ京都ノ武將坐子バ。天下只日月モ
地ニ落タル心地シテ。暗路ニ迷フ思ヒヲナセリ。
斯テハ誰カ王化ヲ被ケ。洛中ノ諍乱ヲモ靜ムベ
キトテ。此トキノ帝後栢原院震襟ヲ苦シメサセ
至フ。然ルニ發法住院義澄卿ノ次男。今年十一歳
ニシテ。播磨ノ國ニ居玉フ由。獻聞ニ達シケレバ。
急ギ石上セ。武將ニ補セラレベシトテ。頓テ播州

ニ勅使ヲ下サセラル。管領細川武藏守高国モ赤
松浦上ガ方早々若君ヲ御供由シ。上洛アルベシ
ト觸送リテ御迎ヒヲゾ參セケル。是ニヨツテ浦
上掃部助。又常印ノ方へ嘸ヒヲ入レ。勅定ト云ヒ。
管領ノ催シナレバ。爭カ背キ申ベキ。其上將軍家
再與ノ時節ナレバ。互ニ和睦仕リ。若君ヲ輔佐シ
奉リ。譽レヲ末代ニ殘シ候ハン。此儀若御同心ナ
キニ於テハ。將軍家ニ對シ。不忠不義ノ至リニテ
候ハント。又余儀ナク云ヒ送リケレバ。常印モ是
一同シ。村宗ト和睦シ玉ヒケリ。斯テ掃部助村宗若
守ヲ守護シ奉リ。同キ七月二十日。京都ニ入洛ナ
シ。參ラスレバ。至上獻感アリ。同キ二十八日。大外
記清原良雄ヲ勅使トシテ。從五位下ニ叙セラレ。
同キ十一月二十五日。正五位下ニ轉ジサセ玉フ。
同キ十二月二十四日。管領武藏守高国加冠トシ
テ。頸テ御元服ナシ。參ラセ源義晴朝臣ト号シ。參
ラスル。足利家十二代ノ公方五松院殿是ナリ。翌
日征夷大將軍ノ宣下ヲナシ下サル。日出タカリ
ケル。夏共ナリ。其年モ程ナク暮シカバ。大永二年
ニナリス。浦上掃部助村宗ハ。義晴朝臣ヲ供奉シ
上洛シテ。此間在京シ。管領細川武藏守高国ニナ
レ親シシ。公方家無二ノ忠臣ト喚レ。頸テ本国ニ

中書大司馬
卷之六

飯リ。已レガ一時ノ権威ニ誇リ。播州ヲ押領シ。入道
常印ヲ室津へ押籠置タリシガ。此人ヲ生置ナハ。
行末又如何ナルコトヲカ仕出シテ。我身ノアタ
トナリナント思ヒ。花房菅野。岩井等ヲ指遣ハシ。
同キ九月十七日ノ夜。室津ニテ終ニ常印ヲ弑シ
ケル。天命ノ程コソヲソロシケレ。

伊豆小寺以下蜂起。山名政豊播州乱入。附家系事
常印既ニ浦上村宗ガタメニ害セラレ玉ヒシカ
ハ。赤松一家ノ人々。又ハ請代恩顧ノ者共カヲ落
シ。破窓ニ燈ノ消シ心地シテ。或ハ九州。或ハ四国
ノ方ニ落散リテ。閑達ノ時節ヲ待居タリ。斯レテ

早晚マテ月日ヲ送ルベキソトテ。翌年諸方ノ味方ヲ
相催シ。残黨等ヲ招キ集メ。小寺藤共衛尉政職浦
上因幡守村田。完栗作五郎景範伊豆孫次郎等多
勢ヲ率シ淡路ノ国ヨリ押渡リ。播州福泊ニ着岸
シ。大貫上ノ高峯ト云フ山ニ陣ヲ取り。潛龍が一
陽來復ノ時ヲ得タルガゴトク。回夫ノ氣ヲ顕ハ
シ。敵ヲ一口ニ吞ント待カケタリ。其上故入道殿
ノ家督ヲ讓與ハプリシ若君。今年十一歳ニテ。浦上
ガ方ニ居玉ヒケルヲ引取り。是ヲ太将ニ取立テ。
赤松元京。大夫政祐トゾ号シケル。浦上掃部助村
宗此由ヲ聞敵ノ殘黨何程ノコトノアルベキゾ

トテ士卒ヲ従ヘ。三石ヲ立テ。播州ニ發向ス。茲ニ
 但馬ノ國ノ守護山名右京太夫政豐ト云フ人
 リ。其世系ヲ尋ヌレバ。人皇五十六代清和天皇ノ
 皇子ヲ。桃園貞純親王ト申シ奉ル。其御子六孫王
 經基始メテ源ノ姓ヲ賜フ。經基ヨリ五代ノ後
 鎮守府將軍陸奥守義家号ハ幡ノ子ヲ。式部太輔義
 重ノ三男。伊豫守義範始メテ山名ト号ス。其ヨリ
 七代ノ末孫山名伊豆守時氏其嫡右衛門佐師氏
 父子足利尊氏卿ニ仕ヘテ功勞アリ。師氏が舎弟
 時義其孫官内少輔時熙其子ヲ右衛門佐持豊ノ
 道宗全ト号シ。赤松滿祐逆心ノトテハ。滿祐
 手ノ大将トシテ。山陽道ニ威名ヲ耀シ。滿祐
 ノ後播磨ノ國ヲ恩賞トシテ賜ハリケリ。然ルニ
 滿祐が甥彦五郎則尚公方家ニ歎訃シテ。五七ハ
 カリテ御免アリケルニ。殘黨等ヲ催シ集メ。於
 ヘ乱入シテ。押テ國ヲ取り返ントス。川内入道宗
 全士卒ヲ従ヘ。室津ヘ押寄テ。一戰ニ敗ル。其
 セリ。其後滿祐が弟伊豫守義範が子赤松元直太
 夫政則。赤松家ヲ再興セラレ。加賀半國備前。美濃
 庄。出雲ノ宇賀庄。勢州高宮庄ヲ領セラシケルガ
 時ノ管領細川右京太夫勝元ノ輩ナリシト云ヘ。其

權勢ニ乗テ。本国播州ヲ取ビ領セントゾコソ
ケル。入道宗全大ニ怒リ。管領勝元ト讎ヲ結ビ。終
ニ應仁ノ大乱出来シリ。其後政則備前攝關。三作
三。个国ヲ昔ノゴトク全ク領シ。公方義尚公ノ執
事トシテ。位從三位ニ昇進シ。赤松家ノ中奥ト称
ゼラル。當時ノ政祐ノ祖父是ナリ。山名入道宗全
ノ家嫡ヲ伊豫守教豊ト号シ。父ノ遺跡ヲ継テ。但
馬ノ国ヲ領セラレ。若京太夫政豊ハ。教豊ノ嫡男
ニテ。宗全ノ嫡孫ナリケルユヘ。但州ノ領主ナリ
ケルガ。播州ハ父祖ノ国ナレバ。此虚ニ乘レ攻入
テ。再ビ領セズンハ。又早晚ノトキヲ期スベキト

國中ノ勢ヲ相催シ。小田垣。小林等ヲ先キトシテ。
長良口ヨリ押寄ラル。浦上掃部助村宗。敵ヲ二方
ニ受テ。如何ントモスベキ様ナク。仰夫シテ居夕
リケルガ。管領高国ニ加勢ヲ乞ヒ。長良口ニ馳向ヒ。
少々相戦フト云ヘドモ。寄手多勢ニシテ。一度モ
勝利ヲ得サリケル故。早速暖ヲ入レ。山名ト和睦
シケレバ。右京太夫政豊モ。但州ニゾ引取シケル。



中國太平記卷之第七

目錄

浦上村宗取立赤松寒松軒大將事

入道常祖撰州癸向事

撰州天王寺合戰事

六角定頼後援

並近藤平六兵衛尉最後事

常祖禪門浦上村宗以下最後

附野里川人面蟹事

大定

嶋村殺宇喜田能家

附八郎直家討父敵事

上野伊豆守滅亡 並三村穗井田諍戰事

三浦藏人迎心 附植木下總守兄弟事

三浦藏人討死 附秀長高名事

備中合戦

附六花武者 同隅野武勇事

中國太平記卷之第七

洛下 馬場玄隆信意輯録

浦上村宗取立赤松寒松軒大將事

斯テ小寺藤共衛尉政職ハ播州五着ノ城ニ移リ。

伊豆孫次郎浦上因幡守村国等ト心ヲ合セ大將

赤松充京太夫政祐ヲ輔佐シ浦上ヲ攻亡ホシテ

君父ノ讎ヲ報セント日々合戦止トキナシ浦上

モ王君ニ對シテ子ヲヒクユヘ合戦ニ利ナキニ

ヤト思ヒ赤松家ノ一族ニ寒松軒ト云ヘル人丹

波ニ隠レ居ラレケルヲ三石ニ招キ大將ニ取リ

立テ左京太夫政祐ト数度合戦ニ及ヒケルガ其

後赤松寒松軒大ニ戦ヒ負野間ニテ討死シテ一朝ノ露トゾ消ラレケル。

道常桓撰州癸向事

京都ノ管領武藏守高国ハ細川右京大夫澄元ト。

養父政元ノ遺跡ヲ相争ヒ鬪戦ニ及ヒシヨリ互

ニ憤リ月ヲ逐テ重ナリ暫ラクモ合戦ノ止間ナ

シ澄元既ニ卒去セラレシカトモ其子右京大夫

晴元直モ高国ヲ亡ホシテ父ノ素懐ヲ達セント

舅江州ノ佐々木六角定頼ト心ヲ合セ様々秘計

ヲソ巡ラサレケル是ニヨツテ彈正少弼定頼本

征伐アルベシトテ江州坂本ニ御勤座アツテ

陣シテ坐ス処ニ大永七年正月細川右京大夫晴

元三好筑前入道奇雲二万余騎ニテ四国ヨリ押

渡ル將軍警キ玉ヒ急キ京都ニ飯陣アツテ洛外

桂川ニテ合戦アリ三好入道奇雲高国ニ打勝ト

云ヘドモ越前ノ朝倉カ横合ニ切り崩サレ奇雲

ハ自害シ晴元ハ又四国ニ逃飯ラレケルカ此憤

ヲ散セント再ヒ軍勢ヲ相催シ三好入道宗三ト

共ニ多勢ヲ卒シ享祿四年二月二十一日

月撰州ニ押渡リ近国ノ勢ヲ招キ集ム播州ノ赤

松左京大夫政祐モ晴元ニ一味シテ此手ニ馳来

ツテ相加ハル。是ニヨツテ撰州ノ早馬。京都ニ急
 ヲツグルコト。薊ノ齒ヲ挽カゴトクナリ。管領細
 川武藏守高国。入道常桓大ニ驚キ先ニスルトキ
 ハ人ヲ制シ前ンゼラル。トキハ人ニ制セラル
 ハト云ヘリ。察スルニ敵ハ近日。京都へ寄テ一戦
 セント。其用意ヲスベケレハ。防戦ノ心ハ曾テア
 ルベカラズ。急キ此方ヨリ押寄ヘシ。謀不意ニ出
 ルトキハ勝スト云フコトヤアルベキトテ。七千
 余騎ヲ引卒シ。同キ三月十日。撰州ニ発向セラ
 レハ。入道常桓ノ催促ニ従ヒ。浦上掃部助村宗モ
 嶋村伊丹河原林以下多勢ヲ卒シ。馳来ツテツ
 ハリケル。

撰州天主寺合戦事

係ル処ニ三好筑前守長基奇雲三千余騎ヲ卒シ。
 兵船数百艘ニ取り乗テ。泉州堺ノ浦ニ船ヲ着任
 吉ヨリ難波ニ繼テ陣ヲ取ル。武藏入道常桓ハ先
 中嶋ノ城ヲ攻落サント。合戦数度ニ及フト云ヘ
 トモ互ニ雌雄ヲ変テ。勝敗曾テ定マラス。斯テ同
 キ六月四日。京勢ヲ切リマクツテ。一戦ノ中ニ運
 ヲ開クベシト。三好宗三八道八百余騎ニテ。阿部
 野ニ出張スレハ。中嶋ノ城ヨリ。香西越後守ヲ先
 鋒トシテ。遅共七千余騎生玉ノ官ニ陣ヲ取リ。追

手撥手相圖ヲ合セ不意ニ天主寺ニ押寄テ南北
 ヨリ攻立ル武州禪門ヲ始メ浦上以下ノ輩敵兵
 今寄来ルベシトハ思ヒモ寄ズ緩々トシテ居夕
 リケレバ大ニ周章騷テ上ヲ下ヘト悶着ス敵ハ
 氣ヲ得テ勇ミ進ミ多年ノ鬱憤今月一戦ノ刃ニ
 散シ入道カ首ヲ鋒ニ貫カスンハ早晚ノトキヲ
 カ期スベキト喚キ陣ンテ攻込ンダリ武藏入道
 常極大音揚ケ敵モ敵ニヨルゾ大将ヨリ士卒ニ
 至ル一テ皆同家同流ニシテ敵味方一族ナリ武
 士ハ名ヲ以テハ千金ニモ代ヘカラス汝等見苦
 シキ拳動シテ先祖ノ面ヲ汚シ子孫ニ辱バシ
 スベカラス今日敵ノ根ヲ断スンハ又幾度カ種
 生ルベキ命ヲ義ノタメニ輕ンセヨト白旄ヲ振
 テ下知セラルレバ軍勢共死ヲ一場ニ誓ヒ馬ノ
 鼻ヲ双ヘ咄ト喚テカケ入り七顛八倒シテ我程
 ニ片時ノ刃ニ紅波漲リ敵味方ノ手負死ハハ尤
 ナカラ屠所ノ肉ノゴトク墨々トシテ横タハレ
 リ三好筑前守長基亦松左京大夫政祐荒手ヲ入
 レ替ク攻立ル別所衣笠佐用相原以下ノ者共爰
 ヲ詮ト相戦フト云ヘトモ大将高国浦上朴宗幸
 卒ヲ勵マシカレト下知シテ軍勢ヲタハキ
 立村宗真前ニ進ンテ馬上ニ鏖引ソハメ多勢ノ

中へ真驀ニナツテカケ入ハ東條又太郎嶋村伊
 丹以下一騎當千ノ兵共百モ振ス切テ入り東西
 ニカケ通り南北ニ切り靡ケ衝突双ヲ碎キ山川
 モ裂ヨト塵煙天ヲカスメ一挙ニ死ヲ争ヒテ拒
 キシカハ赤松三好カ勢戦ヒカ子松ノ字ノ赤旗
 モ松笠菱ノ白旗モ漂フトゾ見ヘシ赤松三好カ
 軍勢共一同ニ色メキ立既ニ崩レヌヘク見ヘケ
 ルカ必々堺ノ方ヲ指テ逃シ勢モアリシトカヤ
 細川浦上カ勢氣ニ乗テ短兵直チニ捫崩サント
 ノ戦ヒケル

六角定頼後援

近藤藤平六年兵衛尉最後事

茲ニ江州ノ領主佐々木六角輝正火彌定頼ハ細
 川右京大夫晴元ノ舅ナリケレバ兼テノ相圖ヲ
 違ヘズ此表ニ馳来ラレケルカ西矢筈ノ紋定頼
角高頼ノ次男タルカ故始ハ箕作四郎ト号シ兩
矢筈ヲ以テ家ノ紋トス後ニ四日結ニ改ムル
 カキタル白旗ヲ野嵐ニヒルガヘラセ荒手ヲ以
 テ攻カヘリ討トモ射レトモ疼一ス捫立々々攻
 立ル細川浦上カ勢猛シト云ヘトモ數回ノ合戦
 ニ戦ヒ疲レ荒手ノ敵ニ切りマクラレ入替ヘキ
 勢ナケレバ漂ヒ立テヒシメキタリ赤松三好カ
 勢又氣ヲ直シ曳々舌ヲ揚テ攻カレバ細川浦
 上カ勢討ル者數ヲ知ラス掃部助村宗カ功臣

二。嶋村彈正左衛門尉貴則或書ニ高国ノ即等討
 代ノ臣ナリ。譜トテ大剛ノ者アリシカ精兵ノ手
 タレナレバ。イテ射シラマシテクレンスルゾト
 テ。白木ノ弓ニ大矢ヲ取テツカイ指詰引詰射夕
 リケレハ。目加田馬淵多胡三雲以下ノ者。數十騎
 矢場ニ射落サル。去レトモ。寄手多勢ナレハ。其共
 セス。只カケ散セト。響ヲ双ヘ。一文字ニカケ入レ
 バ。貴則モ矢種ハ尽ヌ。弓ヲカラリト抛捨。四尺三
 寸ノ太刀ヲ電光ノゴトクニヒラメカシ。今日ヲ
 限リト相戦フ。細川浦上カ勢。荒手ノ敵ニ攻立ラ
 レ。過半枕ヲ双ベテ討死シ。敵早三方ヨリ。天王寺
 ノ中ニ乱レ入リシカハ。近藤平六兵衛尉盛久。大
 將高国ノ前ニ馳来リ。今ハ如何ニ拒キ候トモ。此
 所ヲ持保ヘンコト。中々叶ヒ候マシ。一先落サセ
 玉ヒ。童子テ勢ヲ催サレ。此度ノ耻辱ヲ御雪ギ候
 ベシ。敵未ダ四方ヲ圍マサル中ニ。西門ヨリ御遁
 レ候ベシ。盛久防矢仕リ。御息ノ下ニ骸ヲ曝シ候
 ハント云ヘバ。高国入道常桓。近藤カ諫メニ從ヒ。
 浦上ト兵ニ。殘兵四百騎ハカリヲ相從ヘ。西門ヨ
 リ。難波ニ出。尾崎ノ方ヘゾ落ラレケル。平六兵衛
 盛久。天王寺ノ塔ノ第七層ニ飛上リ。力ニ任セテ
 早鐘ヲツキ鳴シ。武藏入道常桓。武運ツキテ自害

スルゾ。我ト思ハシ者共ハ。近ヅキ寄テ首ヲ取レ
ト。高ラカニ喚ハリ。指取り引取り射タリケリ。敵
ハ是ヲ常桓ナリト思ヒシカバ。我討取ント争ヒ
シカトモ登ルベキヤウアラサレハ。アレヤクト
ヒシメキテ。徒ニ時尅ヲソ移シケル。庄十郎太郎
イデ首取テ高名セント。郎等十人ハカリ従ヘ塔
ヘ登リ終ニ盛久ヲ討取リケルカ。近藤ニ方便ラ
レテ骨ヲ折ヌル無念サヨトソ怒リケル。

常桓禪門浦上村宗以下最後附野里川八百餘事

去程ニ武州禪門ハ盛久カ敵ヲ討リシ其間ニ足
崎ヲ志シテ落ラレケルカ或、野伏カニ討レ
ハ十方ニ逃散リテ大物ノ浦ニ著レケレハ。僅四
十騎ハカリニナリニケリ。今ハ如何ニシテカ遁
ルベキ。武運尽ヌル哀シサヨト歎カレケルヲ。浦
上掃部助村宗合戦ノナラヒ。千騎カ一騎ニナル
トテモ。珍シカラズ候ナリ。某ガ本国ニテ。何トソ
シテ御供仕リ落ナリ候ハ。備前養作ニ残リシ
軍勢共ヲ催シテ。此憤リヲ散レ候ベシ。御心ヲ苦
メラルベカラズト云ヘバ。入道悦ヒ。浦上殿ノ志
シ死ストモ忘レ候ハジト。二人馬ヲ双ベテ落ラ
レケル処ニ。羽床七郎。林元近。進安富。刑部左衛門
尉。三百余騎ニテ追カクル。浦上掃部助村宗今ハ

遁レヌ処ナルゾ皆討死セヨ者共ト真先ニ切テ
 入レバ皆一同ニ取テ返シ今ヲ限リト戦ヒシカ
 敵ハ多勢ト云ヒ味方ハ皆疲レタル落武者ナレ
 バ過半討レテ残ル勢十三騎ニゾナリタリケル
 浦上掃部助村宗嶋村弾正左衛門尉ニ向ヒ我々
 ズ一世ノ軍ノ仕ヲサメナレハ罪作リトハ思ヘ
 ドモ心ニ飽マテ敵ヲ討テ迷途ノ土産トナサン
 ト云ヘバナニ騎ノ者共申ニヤ及フト云フマハ
 ニ又一同ニ切り入テ縦横無碍ニ驅立シ程ニ討
 ル者数ヲ知ラス去レトモ敵ハ多勢ナレバ爰
 ニ取り籠メ彼ニ闘テ戦フタリ細川勢又八騎討レ
 僅ニ残ル勢トテハ浦上掃部助村宗厚東山城守
 伯加部左衛門次郎高田五郎嶋村弾正左衛門尉貴
 則只五人ハカリナリ大將細川高国入道常桓ハ
 若ヤ遁レテ見バヤト思ヒ大寇ノ内ニカクレ玉
 フ敵ノ多勢群リ来リ終ニ常桓ヲ搜シ出シ敢テ
 クモ刺殺シ首掻切テ指上敵將常桓入道ヲ討取ツ
 タリト喚ハレバ浦上以下ノ五人ノ者共今ハ何
 ヲカ期スベキト又敵中ニカケ入テ死生シラス
 ニ戦ヒケルガ掃部助村宗モ矢多ク射立ラレ敵
 ト指違ヘテ伏ケレバ厚東高田伯加部モ枕ヲ双
 ベテ討死ス嶋村弾正左衛門尉貴則ハ主ノ村宗

ガ討死ヲ見テ。今ハ思ヒ残スコトナシ。風ノ祭
スルガゴトク。十方ニ走り巡ツテ。敵ヲ追廻シケ
ルガ。佐田岡平次。吉村十郎二人ヲ。兩ノ脇ニ引
ミ。野里川へ飛入りケリ。貴則ガ魂魄忽是ヨリ
ト化レテ。甲ニ怒レル人面ヲ備ヘ。七手八脚真
ノ形。世ニ類スベキ者ニアラス。赤代ニ至ルニテ。
世俗ノ云フ嶋村蟹トハ是ナリケリ。去程ニ細川
右京大夫晴元ハ。累年ノ怨敵。常植ヲ討亡ホシ。頓
テ京都ニ入り玉ヘバ。公方義晴卿。晴元ヲ以テ管
領職ニ補セラレ。此度赤松左京大夫政祐ノ戦功
ヲ感レサセ。至ヒ晴ノ字ヲ賜ハツテ。晴政ト改メ
本ノゴトク。播州ノ守護職ヲゾ賜ハリケル

嶋村殺宗喜田能家 附八郎直家討父敵事

浦上掃部助村宗。根州大物浦ニテ討死ノ後ハ。嫡
子備前守宗景。父カ遺跡ヲ續作州天神山ノ城ニ
居住スト云ヘトモ。若年タルニヨリ。国家ノ政事
ハ。宇喜田八郎能家。嶋村觀阿弥兩人トシテ。執リ行
フ。殊ニ宇喜田ハ。備前岡山ノ城主ナレバ。威權尤甚
シ。去ニヨツテ。嶋村ハ。宇喜田カ下ニ立ンコトヲ憤
リ。如何ニモシテ能家ヲナキ者ニシテ。吾一人ニ
テ威勢ヲ振ハバ。ヤト思ヒ。様々思慮ヲ巡ラシケ
ルガ。終ニ宇喜田ヲ害シケリ。此時能家ニ一人ノ男

子アリ。未ク一歳ナリケルヲ。宇喜田ガ後妻懷一イ
ダキ。巳ガ館ヲ恐ビ出備州ニ落行テ。福岡野ニカ
クレ居テ。年月ヲソ送リケル。茲ニ西大寺ノ住持
尼ハ。彼幼息ノ姨ナリシカハ。宇喜田ガ後妻モ世ヲ
渡ルベキタツギナク。彼比丘尼ノ方ニ行。幼兒ガ
コトヲ頼ミ置。我身ハ浦上方ヘ奉公ニ出。明暮心
ヲツクシ勤メケリ。西大寺ノ住尼ハ。甲斐々々シ
クモ。彼子ヲ預リ養育シケルガ。既ニ十三歳ニナ
リシニ。却ツテ次第ニ心虚ケ。只且暮小兒ノ戯レ
ヲノミナシテ。物ノ用ニ立ベクモアラザレバ。姨
尼モ大ニ疎ミ。汝ハ父ニモ似ヌ者カナ。行末ハ人
ノ奴隷トナリテ。草履ヲ取ルヨリ外他アラジト。
度々是ヲ折檻ス。此若十六歳ノトキ。姨ノ尼大ニ
是ヲ諫メケレバ。サン候某曾テ虚氣タルニハ候
ハズ。實ハ亡父ノ敵嶋村某ヲ氣遣ヒ仕リ候ハン
カト存レ。渠ニ心ヲユルサセンタメニ。偽ツテ虚
言候ナリ。御心安カレト云ヘバ。尼大ニ悦ビケリ。
能家ガ後妻ハ。奉公ニ心ヲ尽シケル程ニ。大ニ出
頭女房トナリテ。主人備前守宗景ヘ様々トナケ
キケレバ。十八歳ノトキ始メテ召出シ。宇喜田八郎
ト号シテ。傍近ク召遣ハル。後宇喜田和泉守直家ト
テ。天下ニ威名ヲ顯ハセシハ。此人ニレテ。備前中

納言秀家ノ父是ナリ。其ヨリハ郎直家。数度ノ武
功ニ養名ヲ擧ケ次第ニ登用セラレテ已カ威勢
盛ニナリシカバ。父讎ニハ共ニ天ヲ戴ストテ。
終ニ嶋村觀阿弥ヲ討テ。年来ノ宿意ヲ達シ。浦上
宗景ノ長臣トナリ再ビ同山ニ在城シテ。猶モ心
ニ飽タラス覺ヘシカバ。如何ニモシテ赤松浦上
ノ两家ヲ亡ボシ。備前播磨養作三介曰ヲ。伐リ從
ヘント相巧ム。心ノ中コソ怖シケレ。

上野伊豆守滅亡 並三村穗井田評戰事

其比大内義隆卿ハ位從二位官大納言ニ昇進シ。
嶋ニ震ヒ玉フ。毛利陸奥守大江元就ハ大内ノ幕
下ニ属シ安藝ノ国ニアツテ。出雲ノ尼子伊豫守
經久ト合戰暫クモ止トキナシ。備中ノ國中モ或
ハ大内幕下ト号シ。或ハ尼子ノ味方ト称シ。合戰所
々ニ起ツテ。互ニ此ヲ屠リ彼ヲ失ハント相爭フ
去ルハ當国大松山ノ城ニハ。上野伊豆守居住シ
テ。小松山ノ城ニハ。同名右衛門尉ヲ居置ケル處
ニ。去ヌル天文二年猿懸ノ城主庄為資押寄テ相
戰フ。庄ハ當国ノ旗頭タルニヨリ。植木ノ城主植
木下総守秀長。庄ニカヲ合セ横合ヨリ攻カ、リ。
上野カ勢ヲ追崩シ。伊豆守ヲ討取り。大松山ヲ乘

破ル。小松山ノ上野右衛門尉毛植木ガ一族。若林
次郎右衛門ニ討レシカバ。是ヨリ為資。兩松山ヲ
持テ。庄備中守ト号シ。備中半国ヲ領シテ。一丁方貫
ノ主トナレリ。其跡猿懸ヘハ。翌年穗井田實近移
リ住シ。植木下總守ハ。阿賀郡齊田ノ城ニ任ヌ同
国鳴輪ニハ。三村修理進家親津々ニ津々加賀守
石賀ニ。石賀與兵衛此口部ニ。福井孫六左衛門新
見ニ。猶崎。唐松ニ。伊達竹庄ニ。工藤高山ニ。石川離
小屋ニ。大槻アリ。植木津々。福井等ハ為資ガ一族
ナリ。三村石川工藤猶崎等ハ。庄カ縁者トナリ。一
國中無異ニ暮ケル処ニ。近年鳴輪ノ城主三村修
理進家親大内ノ幕下トシテ。武威ヲ振ヒケル処
ニ。穗井田實近尼子ニ一味シ。猿懸ヨリ打テ出。三
村ト堆雄ヲ相争フ。是ニヨツテ大内義隆急ギ藝
州ニ使ヲ馳元就ニ加勢アツテ。三村ヲ救ハルヘ
シト下知セラレ。元就是ニ從ヒ。其子備中守隆元
同吉川駿河守元春。小早川左衛門佐隆景。戸安
藝守隆家以下ヲ相從ヘ。備中ニ發向セラレケル処
ニ三村。穗井田互ニ場ニ出合ヒテ合戦ノ最中ナ
リ。元就敵味方ノ陣勢ヲ見渡サルハ。ニ。穗井田ハ
武勇勝レシ者ナルユヘ。隊伍整ミトシテ勇氣凜
烈タリシカバ。今日ノ合戦ハ。味方ノ利アルベカ

日本書紀

ラス。早ク軍勢ヲ引揚ゲラレヨト。三村ガ陣ヘ軍
使ヲ以テ云ヒ送ラル、処ニ、早穂井田ガ勢風ノ
奔スルカコトク。三村カ備ヘニ突テカ、リ。喚キ、
叫ンテ相戦フ。三村カ勢火シ漂ヒ見ヘシカバ、元
就采牌ヲ振ツテ士卒ノ下知シ。横合ニカケ立ラ
ル。穂井田カ勢戦ヒカ子。旗ノ手既ニ色メキ立敗
軍ト見ユル処ニ。石賀ノ。石賀與兵衛。唐松ノ伊達
軍人。山陰ニ勢ヲ伏テ居タリケルガ。時分ハ今ゾ
ト云フマ、ニ。一同ニ起上リ。毛利勢ノ後ヨリ
無ニ無三ニ切りカ、レバ。先後ノ敵ニ逆ヲ失ヒ
散々ニ敗走ス。毛衛門、佐隆景戴ナクモ敵ニ後ヨ
リ見ヒテ、何国ヘカ遁ントスルゾ。返セヤ返セト
叱シノテ。取テ返シク戦ハレケレバ。其間ニ諸勢
悉ク引取リ。三村モ鳴輪ノ城ヘ引入レケリ。隆景
モ士卒多ク討レ朱ニナツテ引ルレバ。穂井田ハ
思フマ、ニ勝利ヲ得狼懸ノ城ヘ引取リケル
三浦藏人逆心 附植木下総守兄弟事
其後備中松山ノ城主在、為資率去シテ。其子伊中
守高資。父ガ家督ヲ相續ス高資カ母ハ。参作ノ
高田ノ城主。三浦元兼ガ娘ナリ然ルニ元兼カ弟
臣ニ浦藏人。己カ威ニ誇リテ。主人元兼ヲ蔑如ニ
セシカバ。元兼是ヲ憤リ。藏人ヲ方便リ討ントト

心ニ藏人是ヲ風カニ聞大ニ怒ツテ。天文二十
 二年令身奉莊幸ノ般若坊ト云フ。大剛ノ惡僧ト
 共ニ高田ノ城ノ二ノ丸ニ引籠レバ。元兼カ一族
 ヲ始メ。是ニ同意シテ。楯籠ル者多カリケリ。元兼
 怒ツテ士卒ヲ徙ヘ。二ノ丸ヲ攻ルト云ヘドモ。敵
 ハ必死ト期シタレバ。能防ギ守リシ程ニ。容易ク
 落スベシトハ見ヘザリケリ。元兼今ハスベキト
 ウナク。外孫備中松山ノ庄高資カ許ヘ使ヲ馳長
 臣藏人逆心ヲ企高田ノ二ノ丸ニ取籠リ候。元兼
 謀ハ大剛強ノ者ト云ヒ。舍弟ノ般若坊ハ。隠レナ
 キ大強力ノ惡僧ナルニ。常手ノ郎等共多ク。浪來ニ
 一味仕リ候。去ニヨツテ味方ノ勢少ク。元兼又老
 衰シテ。誅罪ヲ加フルコト難儀ニ覺ヘ候ナリ。然
 レバ貴殿ノ一族植本下総守秀長ハ。武功ノ譽レ
 アルナレバ。貴邊ヨリ頼ミ遣ハサレ。藏人ヲ誅伐
 アツテ賜ハルベシトゾ云ヒ送リケレ。備中守高
 資ハ。此コト如何アラント思ヒケレバ。案レ煩ヒ
 居レ処ニ。下総守秀長。此コトヲ傳ヘ聞。松山ニ來
 リ。加様ニ風聞レ候カ。實實ニテ候カ。左モアラハ
 秀長罷り向ヒ。討亡ホシ候ハント云フ。高資去レ
 バトヨ。参作ニテ双ビナキ大剛ノ者共カ。死設ケ
 ンテ楯籠リタレハ。勝劣如何ト存。思慮決セズ候

中國本記

ト云フ。秀長聞テ。左アリトテ御邊ノ祖父ノ頼
玉ヲ聞捨ニハナレガクシ。明後日ハ其地へ參
著仕ラント。急キ返事シ玉ヘトテ。已ガ居城齊田
ニ飯リ士卒ヲ催シ。作州高田ニゾ向ヒケル。茲ニ
秀長ガ舍身ニニ尾寺ノ宥善法印トテ。世ニ隱レ
ナキ大カノ惡僧アリ。大長刀ヲ好ンデ數度勇名
ヲ顯ハシケルガ。此度兄秀長城ヲ出ケルトキ。三
尾寺ニ使ヲ送り。御邊僧徒ノ身トシテ戰場ニ出
ルコト甚以テ宜シカラズ。此度ニ於テハ必追來
ルベカラズト削レ遣ハシケレバ。畏テ候ト返事シ
ナガラ。又例ノ大長刀ヲ同宿ニ被カセ息ヲ限リ
ニ馳ケル程ニ。先へ行拔ケ參作ニ著テ秀長ヲ待
居タレバ下総守馳著大ニ驚キ我詞テ用スレテ
又來リタルカト怒リケレハ。宥善打突ヒ。曾テ仰
ニ泄候ハズ。追來ルノト乘リシ程ニ。先立テ相待
申候トゾ答ヘケル。

三浦藏人討死

附下総守秀長高名事

去程ニ植木下総守秀長ハ高田表ニ着陣シ。且
攻ニ捫落サン者ヲト思ヒ。二ノ九ニ押寄ル。三浦
藏人門漕ニカケ上リ。寄手ノ勢ヲ見渡シテ。扇ヲ
揚テ招キケレハ。植木ガ郎等。峰十郎馬ノ城近ク
騎寄ル。藏人大音揚ゲ。只今是へ向ヒ玉フハ誰人

ソ旗ノ紋ハ中黒ニ橘ヲ付ラレタレバ必定借中
 ノ植木殿ト賞ヘタリ。某カ願フ必ノ相手ニテ候
 ギヤ。互ニ多クノ士卒ヲ討セ。罪作リテ何カセシ。
 植木殿是ヘ御出候ヘ。一騎合ノ勝負ヲシテ。運ヲ
 瞬目ノ中ニ定ノ候ハント云フ。十即馳飯リ。此由
 ラ云ヘバ。秀長聞テ。潔シク。汝等ハ一人モ出ヘカ
 ラス。抑ヘテ我武勇ヲ見物セヨ。必矣ヲ射ベカラ
 スト制シテ。閑々ト乗出セバ。舍身ノ者善法印。自
 糸威ノ鎧ニ。帽子形ノ甲ヲ着。太長刀ヲ引ソバメ
 テ相従フ。藏人門ヲ開カセユルギ出レハ。是モ第
 ノ般若院脇ニ添テ歩ミ出ル。其トキ植木モ馬
 リ下リ。互ニ詞ヲカハシ。火ヲ散シテ相戦フ。珍シ
 カリシ見物ナリ。敵味方ノ軍勢共拳ヲ握リ汗ヲ
 流シ。堅ヅヲ吞テ見物ス。終ニ植木戦ヒ勝。藏人ヲ
 討捕レバ。者善モ般若坊ヲ突伏ル。然レドモ二人
 共ニ。熊ト首ヲ取ラス。静々ト退キケル。是ヲ見
 テ。二ノ丸ノ軍勢共。十方ニ落行ヲ追カケク。討取
 タリ。三浦元兼大ニ感シ。下総守ガ手ヲ執テ。本城
 ニ入り。種々饗應シテ飯シ。其ヨリ福嶋右近兵衛
 ヲ長臣トス。同國篠吹ノ城主。江原兵庫助モ剛強
 ノ誉レアリケルカ。此度ノ秀長ガ武勇ヲ傳ヘ聞
 大ニ感シ。今ヨリ無二ノ交リヲナスベシト。ソ約

シケル

備中合戦

附六花武者

同隅野武勇事

茲ニ大内義隆卿迎臣陶入道全姜ニ云ボサレ大江元就陶ヲ誅伐ノ後ハ元就ノ武威中国ニ耀ケリ。去ニヨツテ永祿元年吉川小早川以下三万余騎ヲ引卒シ備中表ニ發向シ至ヒケルニ備中備後。赤作三ヶ国ノ者共我モくと降人ニ出テ敢テ手サス者モナカリケリ。其後出雲ノ尼子ヲ攻亡ホシ。中国ヲ掌ニ握リ至フ。然ルニ九州ノ内豊前。筑前兩國ハ本ヨリ大内ノ領国ナレバ。今トテモ毛利家ノ下知ニ從フベキ処ニ。大友義領へ兩國ヲ伐リ取レ。鬱憤安カラザリシカバ。中国ノ勢ヲ相催サレ。五万余騎ノ多勢ヲ卒シ。筑前ニ發向シ。昼夜合戦ノ止時ナシ。茲ニ幸喜田和泉守直家ハ元就筑前ニ渡海ユヘ。中国空虚ナリケルヲ。天ノ與ヘト悦ビ。此トキ備中ヲ伐リ取ラズンハ。早晚ノトキヲカ期スベキト。同キ十一年ノ五月。備中前守ヲ大将トシテ。五千三百余騎ヲ。備中ニ指向ル。竹庄ノ工藤是ヲ聞急ギ此旨國中ニ觸知ラセケレバ。松山ノ城主。庄備中守高資齊田ノ城主。植木下総守秀長。鳴輪ノ城主三村修理進家親等十卒ヲ從ヘ馳集リ。園豊前守カ来銳ヲ避ヘシト。喚キ

叫ンデ相戦フ。敵味方互ニ名ヲ馳死ヲ輕ンジテ
 一月ニ三度マデ相戦フト云ヘドモ破ラレス。岡
 マレズ赤ダ勝敗定マラザルニ。月西山ニ没シケ
 レバ。園采牌ヲ振テ士卒ヲマトメ今日ノ軍ハ是
 マデゾト軍勢ヲ引揚ル。時ニ庄備中守が即等隔
 野源藏只一人付慕ハント出ケルヲ。傍輩兵引止
 メ。御邊一人追行ンハ。好ンテ犬死ヲスルナルベ
 シ。鳴喚ノ高名ハセヌニシカス。無用ナリト制シ
 ケレドモ。源藏曾テ聞入レズ。引取ル勢ニ慕ヒ行
 其比宇喜田ノ家ニテ。花房志摩守。花岡傳兵衛尉
 花田權兵衛尉。花村三右衛門尉。花木主膳花。建
 左衛門尉此六人ヲ。宇喜田家ノ六花武者ト号シ武
 勇ノ誉レヲ顯ハシケルガ此トキモ花村三右衛
 門尉後殿シテ引退ク。花村ガ甥ノ下山吉十郎ハ
 其比鉄炮ノ上手ナリト名ヲ顯ハセシ者ナル故
 鉄炮ヲ持テ熊ト味方ニ引下ツテ退ケルガ源藏
 ヲ討ント踏止マル。是ヲ見テ源藏モタメラ。ヒ居
 ル。敵引バ又慕ヒ行ク斯ル間ニ。引敵トハ其程
 遙ニ隔タリタリ此トキ源藏色ヲカケ。敵ヲ見ナ
 ガラ引ハ。勇士ノ法ニアラス。戴シ引ナト走リカ
 ハル。下山耽ト振カヘツテ引カ引ヌカ受テ見ヨ
 ト鉄炮ヲ以テ打トウツ。アヤマタス隅野ガ洞中

ヲ打扱タリ。源藏是ヲ復止ハセズ走り寄テ下山ヲ
 突伏セ。首ヲ搔落ス。源藏ハ重手ナレバ流ルハ血
 ハ糖ノゴトク。鎧ノ草摺ハ紅ニツミシカドモ。曾
 テ是ヲ復共セズ路邊ノ草ヲ取テ是ヲ揉ミ。疵口
 ニ押込々々。竹庄ニ引取リシカバ。天晴大剛ノ若
 考カナ。鬼神トモ云ツベシ。万騎不當ノ勇士カナ
 ト諸人は是ヲゾ感ジケル。庄三村植木ナンドハテ。
 武功双ビナキ。国人等多クシテ容易ク平治シガ
 タシト思ヒケレバ。備前ノ岡山へ使ヲ馳早々御
 出馬候ベシト告ケレバ。宇喜田和泉守直家。備前養
 作ノ勢ヲ相催シ。一万余騎ヲ引卒シ。備中ニ祭向
 セラル。其勢ヒ泉ノ漏ガゴトク。火ノ燃ルガゴト
 クナレバ。国人等大ニ驚キ怖レ。急キ藝州ニ飛脚
 ヲ馳。早々加勢ヲ賜ハルベシト。櫛ノ齒ヲ引ガゴ
 トクニ告シカドモ。折節大軍九州ニ渡海シテ。遣
 ハスベキ勢ナケレバ。一騎モ加勢ヲ出サレズ。是
 ニヨツテ国人等十計尽。皆々降ヲ乞フ。宇喜田ノ幕下
 ニ属シケレバ。直家大悦アリ。國中ノ入質ヲ取リ
 岡ノ。岡山ニ飯陣セラレケリ

大定

中國太平記卷之第八

目錄

治部、少輔、元清備中、兼向

附 下總、守秀、長齊、田籠城事

齊田、城攻 附 嶺與市事

宇喜多、入道、岡、蒼房、後詰

附 穗井田、實近、討死事

宇喜多、和泉、守直、家立、身 附 無道事

此口、部山、王山、合戰事

中國太平記 卷之八

中國太平記 卷之八

植木下総守雲州一味

附松山落城事

植木資富以下寂期事

三村修理進家親遇害事

三村元親反心事

齊田矢倉臥以下城々開退事

中国太平記卷之第八

洛下 馬場玄隆信意輯録

治部少輔元清備中兼向附秀長齊田籠城事
 去程ニ毛利陸奥守元就ハ。近年大友入道宗麟ト。
 互ニ鋒ヲ争ヒ至ヒケル程ニ。備中ニ指遣ハサル
 ヘキ勢ナクシテ。卒喜田ニ。備中ヲ攻取レヌルコ
 トヲ憤リ玉ヒ。其子治部少輔元清ヲ大将ニテ。二
 万余騎ヲ。備中ニ指向ラル。宗徒ノ国人鳴輪ノ城
 主。三村修理進家親。猿懸ノ穂井田實近。目ニ余ル
 多勢ニ對シ。我々争カ敵スベキト。一番ニ降リレ
 カバ。庄備中守高資。津々加賀守。石川右衛門尉。伊

遠工藤猶崎以下。我モくと降参ス。阿賀郡ノ領主
植木下総守秀長ハ。齊田ノ城ニアリケルガ。下族
即等共ヲ集メ。我武門ニ生レ。先祖ノ業ヲ續テ。吳
子。孫子ガ秘セシ道ヲ傳ヘ。勇ハ樊噲張彊ヲモ歎ン
コトヲ思フ。去レハ秀長十八歳ノトキ。三好筑前
守長基山州旋堤ノ合戦ニ。加勢トシテ馳登リ下
番ニ鎧ヲ入レ。大内勢ヲ追崩ス其トキ長基感称
シテ。秘藏ノ持鎧ニ。感状ヲ添水田ノ庄ヲ賜ハリ
シ。其ヨリ以来十六度ノ高名ヲ顕ハシテ。今七十
歳ニ及ベドモ。敵ニ合テ一度モ不覺ノ名ヲ取ラ
ズ。然レドモ我小身ニシテ。手ノ勢ノ少キコソ口
惜ケレ以前尼子ノ幕下ニ属シ。其ヨリ毛利家ニ
攻ラレテ。又彼麾下ニ降リシニ。又浮田直家當国
ニ乱入ノトキ。国中ノ諸士敵スル克能ハズシテ。
又直家ノ旗下ニ属ス。然ルニ此度毛利元就其子
元清ヲ將トシテ。二十万余ノ大兵ヲ向ラル。ユヘ
目入又悉ク。堯登ヲ脱ギ予弦ヲハツレ。辱ヲ捨テ
我先ニト降参セリ。小ハ大ニ敵スベカラストハ云
ヘド尤ナガラ手ノ裏ヲ返スヨリモイト安シ我
此耻辱ヲ忍ブニ堪ス。如シ當城ニ楯籠ツテ。緊ク
計死センハ如何ニト云ヘハ。一族郎等共。皆此儀
ニ同じ義ヲ金石ニ比シテ楯籠ル。其勢百五十騎。

中国史記

雜兵一千三百余人誠ニ大海ノ下瀨九牛ガ一毛トモ謂ツヘシ。去程ニ毛利勢齊田ノ城ニ押寄テ。敵城ノ躰ヲ見ヤリタレバ東下方ハ山ヨリ山ニ續キタル尾崎ニシテ。西北南ハ平地ヨリ四町ハカリモ聳ヘタル高山ナレハ。究竟ノ要害ナリトハ見ヘナガラ。多クノ城々ヲ降シテ。氣ヲ得タル多勢ナレハ。僅ノ小城一ツヲ屑トモ思フヘキ。口タクト攻寄テ。喚キ叫ンデ攻立ル。

齊田城攻 附 嶺本與市事

城兵等モ思ヒ設ケシコトナレハ。爰ヲ詮ト防ギ戰ヒ。堀裏櫓ノカケ。狭間ヲ開テ。指諾引諾散々ニ射ル。寄手是ヲ復共セス。持楯疊楯ヲカツキツレ曳々壺ヲ出シ。切岸ノ本マテ攻寄ケル處ニ堀ノ上ヨリ大木大石ヲ抛カケク。楯ノ板ヲ打碎キ。漂フ處ヲ精兵ノ手タレ共。矢ヲ射出スコト。左ナガラ雨ノ足ノゴトク。手負死人上ガ上ニ重リ伏ス。桂玄番允。大将元清ノ前ニ来リ。當城ハ究竟ノ要害ニテ候上。城主植木武功ノ誓レアル者ニテ候ヘハ。下且ノ雅攻ニ仕リタリトモ。味方討ル、ノミニシテ。ヤハカ落城仕ルベキ。先向城ヲ構ヘ。數月ヲ送り候コトナハ。不意ノ籠城ニテ候ヘハ。兵糧尽シハ必定ナリ然ラバ敵ハ已ト自滅仕ラン。戰

ハスレテ敵ヲ屈スルヲコソ良將トハ申レ候ヘ
ト諫メケレバ。元清是ニ同ジ。早速勢ヲ引揚ケ虎
口ヲ甘ケ。南ノ方ニ向城ヲ取テ守ラルレバ。備後
備中。伯耆ノ諸勢ハ。西北ノ二方ニ陣城ヲ構ヘ。合
戦ヲ止テ日ヲ送ル。中ニモ鳴輪ノ城主。三村修理
進家親。猿懸ノ城主。穂井田實近ハ。武功ノ輩ニテ。
年来秀長ト勇ヲ争ヒケルニ。是等ハ寄平ニ加ハ
リ居シコトナレバ。真先ニ乘入テ。多年ノ宿意ヲ
達セント。城ヨリ少シ高キ。東ノ方ノ山ノ壇ニ陣ヲ
取リ。城ヲ守ツテゾ暮シケル。此城兼テ係ル巧ミ
ノアラサレハ。程ナク兵糧ニツマリ。士卒困窮ス

ル。夏甚タシ。城主下総守秀長。一族郎等共ヲ集メ
當城ニ楯籠リシコト。元來勝利ヲ得ントニハア
ラ子共今ハ早兵糧尽テ僅ニ一兩月ノ食ヲ残セ
リ。何トゾシテ備前ノ岡山ニ急ヲ告ケ。宇喜多殿
ノ後詰ヲ乞ント思フナリ。誰カ敵中ヲ忍ビ板ケ
此赴ヲ告ベキト云ヘドモ互ニ面ヲ見合セテ我
衆ラント云フ者ナシ。時ニ嶺本與市進。出其一
命ヲ抛ツテ。岡山へ罷越シ候ハント云フ秀長悦
ビ然ラバ。母忍ビ出。宇喜多殿へ夏ノ急ヲ告ベキ
ナリ。若直家後詰シ玉ハバ。是ヨリ西ノ方十余町
向フナル。真窪山ニ二ヶ所ノ狼煙ヲ揚ベキナリ

若又後援ナキニ於テハ。一所ノ狼煙ヲ揚ケ。其赴
ヲ告知ラセヨ。直家後諾ナキニ於テハ。城門ヲ開キ
突テ出快ク討死スヘキゾト云ヘバ。御心易ク思
シ召レ候ヘ。岡山マデハ。是ヨリ僅二十里ニテ候
ヘハ。明後日ノ申ノ上。尅ニハ。真窪山ニ煙ヲ揚候
ハント契約シテ。同キ十一月十三日ノ夜。雨風烈
シキヲ便リトシテ。城中ヲ忍ビ出。難ナク備前ニ
至リ。此由ヲ告ケレバ。和泉守直家大ニ驚キ。秀長
ヲ討セナバ。備中一國ハ皆敵ノ物トナルベキナ
リ。急ギ後諾ヲ指向ベシトテ。嶺本ヲ飯シ。宇喜多
入道安心。岡越前守。花房助兵衛尉ヲ大将トシテ。
丁万余騎ヲ指向ラル

宇喜多入道岡花房後諾附穂井田實近討死事
斯テ嶺本與市ハ。備中宍田ヲ指テ。飛ガゴトクニ
馳飯リケルガ。同キ十五日ノ未ノ尅。真窪山ニ馳
飯リ。嶺ニ登ツテ相圖ノ狼煙ヲ揚タリケリ。城兵
等須破向フノ山ニ煙ノ立ハ。一節カニ筋カトテ
見ル処ニ。只一所ニノミ立揚レバ。士卒等叔ハ後
諾ナキニコソ。我々が命モ是マデゾト干汗ヲ流
シ胸ヲサスル。大息ツイデゾ。屠タリケル。福井孫
六左衛門尉物ナレタル勇士ナレバ。能々此煙ヲ
見テ。宇喜多殿ノ後諾ノ勢ハ来ルナルゾ。其推量

スルニ。是ハ與市ガ不功ユヘ。豎ニ二筋双ベツレ
バ。一筋ニ見ユルト覺ヘタリ。能々見玉ヘ消口ニ
テ實正ハ頭ハルベキゾト云ヒケルガ。果シテ消
口ニ至リ。二筋ト知レケレバ。城中咄トバヨミ出
躍リ揚リ騷揚リ。悦フコト限リナシ。程ナク備前
勢一万余騎。真窪山ヘ押上ケテ。同音ニ関ヲ咄ト
作ル。寄手ノ勢是ヲ見テ。宇喜多武者ガ後詰セシ
ト覺ヘタリ。多勢ノ敵ニカケ破ラルノナト上ヲ
下ヘト悶著スル処ニ。宇喜多勢一同ニ突カハリ
火ヲ散シテ相戦フ。城主下総守敵ノ色メクヲ見
テ。其子參作守ト共ニ士卒ヲ下知シ。南ノ方ノ城
戸ヲ開キ。東ニ向ツテ。穂井田實近ガ備ヘ突カハ
レバ。福井孫六左衛門尉。植木孫左衛門ト一手ニ
ナツテ。修理進家親ガ手ヘ。面モ振ラス切りカハ
リ。内外ヨリ攻立ル。三村ガ勢散々ニ突立ラレ。右
徑左徑ニ敗奔スレバ。色メキ立タル寄手ノ勢。悉
ク崩レ立ツ。穂井田實近眼ヲイラハケ。見苦シク
モ敵ニ逃足ヲ見スル者共カナ。返セヤ返セト云
フマハニ。二三度取テ返シケルガ。其身戦ヒ疲レ
数个所痛手ハ負ス。終ニ根來ノ久徳ニ討レニケ
リ。宇喜多入道。花房助兵衛尉逃ルヲ追ニレカス
トテ。士卒ヲ下知シテ上道二里バカリ。追討ニシ

テ敵兵多ク討取リシカドモ其夜モ既ニ成ノ寇
ハカリニ及ヒシカハ勢ヲ纏メテ引返ス。今日寄
手ニ討ル者八百五十余人ナリ。植木ハ柞木再
ビ花咲キシ思ヒヲナシ安心。岡花房ニ對面シ茶
キ旨ヲ述ケレバ。宇喜多勢ハ敵ヲ退ケ猛威ヲ顯
ハシ。頗テ備前ニ敵陣セリ

宇喜多和泉守直家立身 附無道事

茲ニ宇喜多和泉守直家ハ累代赤松家ノ幕下ニ
属シ。父能家ヨリ以來ハ浦上カ家人トナリテ武
威月ヲ逐テ盛ンニナリ行シカハ其ヨリ浦上
下姓ニモ從ハズ。備前備中ヲ領シテ勢ヒ強大ニ

成行ケリ。然レバ赤松浦上。兩家共ニ主人ナレハ疎意
アルマシキ莫ナルニ。直家元來大慾倭奸ニシテ
如何ニモアレ赤松浦上兩家ヲ亡ボシ。播磨養作
備前備中ヲ領シ。采花ニ誇ラバヤト思慮ヲ巡ラ
サレケル處ニ。赤松左京太夫晴政モ卒去セラレ
其子上總介義祐家督相續セラルト云ヘドモ
殊勢ヒ弱リ。殊ニ若年ナリシカバ直家時至リ又
ト悦ビ。赤松ニ浦上ヲ讒シ。様々ニ妨ゲハレバ
是ヨリ赤松浦上又合戦ニ及ヒ。干戈動キ止間ナ
シ其比京都ニハ。織田彈正忠信長。公方義昭御ノ
後見トシテ。破竹ノ勢ヒヲ畿内東關ニ振ハレシカ

ハ。赤松上総介義祐。京都ニ使者ヲ指上セ。加勢ヲ
至ハルベキ由ヲ望マレケリ。織田信長許容坐シ。永
祿十二年十月二十六日。池田筑後守勝政。伊丹兵
庫頭親貞。和田伊賀守ヲ大将トシテ。軍勢ヲ差遣
ハサル。義祐是ニカヲ得終ニ浦上備前守景宗ヲ
攻亡ボサル。其ヨリ直家。日々赤松ノ領分ヲ伐リ
從ヘ浦上ガ領國。作州ノ中山備中守ハ。吾タメ正
シク舅ナリケルヲ弑シ。同國惠比ノ城主。後藤ヲ
奪ニ取リテ。作州半國手ニ入ラレケルカ。其後姉
軍備中ノ石川左衛門尉久隆ヲモ。作州ノ後藤ヲ
モ共ニ毒藥ヲ以テ是ヲ殺シ。其所領ヲ押領セラ
ル。大悪無道ナルコト斯ノゴトシ。極コソ終ニ備
前。養作。五十万石ヲ領シ。榮耀ヲ極メラレシカト
モ。天ノ責子孫ニ報ヒ。家嫡中納言秀家。凶賊。和田
ニ與シ。慶長五年。八丈嶋ニ流刑セラレ。其家永ク
断絶ニ及ビケルコトフシギナレ。

此口部山主山合戦事

茲ニ雲州ノ尼子伊豫守義久。毛利家ノ擒トナリ
シ後ハ。尼子家既ニ断絶ニ及ブベカリシニ。此家
ノ功。臣。山中鹿之介幸盛。是ヲナケキ。義久ノ叔父
孫四郎勝久ヲ大将ニ取立。出雲。伯耆。隱岐ノ國ヲ
攻從ヘ。又多勢ニナリシカバ。備中ハ元來當家ノ

国ナルニ。今毛利宇喜多等ニ領セラルハコソ安
 カラ子。早ク備中ニ祭向シテ。再ビ當家ノキニ入
 ント。元龜元年二月。尼子孫四郎勝久。舍身助四郎
 道久。六千余騎ヲ引卒シ。備中ニ祭向シ。先高山ノ
 城ヲ攻シカハ。城主石川左衛門尉久隆十計尽テ
 降人ニ出ル。其奈石賀安達以下ノ降人ノ勢ヲ合
 セテ。此口部ノ城ヲ押寄タリ。時大將孫四郎勝久
 三千余騎ヲ従ヘカサヨリ城ヲ直下シテ攻ント
 テ。山王山へ押上ラル。舍身助四郎道久ハ三千余
 騎ニテ南口ヨリ押寄ラル。此主キ既ニ城主植木
 下総守秀長ハ死去シ。其子下総守秀資父ガ遺跡
 ヲ續テ士卒ヲ従ヘ桶籠リケルガ家ノ子ニ
 久之丞ト云ヘル精兵ノ手タレ只一人。南口ノ城
 戸ヨリ忍ビ出。一町余リ向フナル柿ノ大木ヲ小
 楯ニ取テ身ヲカクシ。敵ヲ窺ヒ待居タリ。時ニ尼
 子方ヨリ入江甚四郎竹股平内初鳴荒太郎五十
 良道正河合五郎五騎打連弁候トシテ馳來ル。楯
 崎願フ処ソト。ヨツリテ兵ト射ル。元來柳ノ葉ヲ
 百歩ノ外ニツリテ。百矢ヲモ過タサル程ノ手キ
 ナレバ。其間ダ遙ニ遠カリレカトモナジカハ
 以テ仕損ズベキ。真先ニ進ンタル入江甚四郎只
 中ヲ射通サレ。馬ヨリ下ニ百ド落ル。其余ノ者共

膽ヲ消シ。コハ何所ヨリ来レル矢ゾ。敵アラバ驅散ラセト。四方ヲ耽ト見マハス処ヲ。江ガ次ニ扣ヘタル。初嶋荒太郎二ノ矢ニ又射落サル。河合五十根竹股是ヲ見テ。色ヲ斐シ身ヲ震ハシ。馬ヲ飛シテ逃行キケリ。久之丞頓テ走り師リ。秀資ニ向ヒ。敵客多勢寄来リ候ナリ。早ク山王山へ引入レ王へト云へバ。秀資是ニ同ジ。山上へ引登ル処ニ。孫四郎勝久ノ勢ニ行合フタリ。時ニ植木ガ軍勢共モ。次第一馳著テ三千余ニナリシカバ。敵味方互ニ入レ乱レ。爰ヲ詮ト相戦フ。隅野源藏若林世左衛門。一番ニ鎧ヲ入レ。尼子方ノ多勢ノ中へ突入テ死生知ラスニ戦ヒシカバ。寄手取テ近

ス。植木下総守勝資。向フ敵三騎突伏セ猶モ進ンテ戦レケルガ。稍富五番允ニ渡シ合ヒ。稍富ガ只中ヲ大身ノ鎧ヲ以テ。グサト突ク。五番モ隠レナキ大剛ノ勇士ナレバ。突レナガラ。鎧ノ柵ヲ手繰テ。植木ガ左ノ綿疋ノ逃レヘ切込ンダリ。植木是ヲ復共セズ。鎧ヲ一振り振りシカバ。五番ハ。カハト倒レテ死ニケリ。戦ヒ未ダ耳角ナルニ。日既暮シカバ。敵味方トモニ勢ヲ引揚ゲタリ。

植木下総守雲州一味 附 松山落城事

尼子勝久思慮ヲ巡ラシ。翌日使者ヲ以テ。御邊ハ

元來ノ幕下タリト云ヘドモ。近年宗喜多ニ隨從
 セラレヌレバ。一旦當家ニ敵セラル。夏元ニ候
 ナリ。此トハ早ク味方ニ屬ラレヘシ本領ハ勿論
 備中カ国カニ任セ切リ取ラレヨ。相違ナク附
 スベシト云ヒ送リシカバ。香資忽シテ變ジ。元子
 方ニヒルガヘリ。互ニ誓言シテ。取リカハシ合身養
 作守ヲ人質トシテ出シケレバ。勝久ヨリ大加勢
 河ヲ檢使トシテ。一千余人ヲ相添ヘ。植木ニ加ヘ。
 資田ヲ守ラセ雲州ニ版陣セラレケリ。去程ニ庄高資ガ一
 子。兵部少輔勝資。同名右京亮。植木下総守秀資。津
 々北賀守。福井孫六左衛門等。元子方ニ味シテ。

國中ノ小城六ヲ攻落サント。其勢三千余ニテ。鴨
 形ニ押寄セ。城主細川ヲ攻亡ボス。是ニヨツテ。國
 中ノ勢。殊相加ツテ。五千余騎ニナリシカバ。此勢
 ヒヨ脱ヌナトテ。直子ニ多氣庄。夜ニ打出タリ。鳴輪
 ノ城主。三村修理進家親ハ。毛利ノ幕下ナリケル
 ガ。元子方多勢ニシテ。敵シガタシト思ヒケレハ
 藝州ニ飛脚ヲ馳急ヲ告ルコト類リナリ。毛利輝
 元大ニ驚キ叔父治部少輔元清ヲ大將ニテ。三方
 余騎ヲ備中ニ差向ラル。三村修理進ハ。雲南者夕
 ルユヘ。先陣ヲ請受テ。不意ニ松山ニ押寄ル。城主
 庄備中守高資ハ。丁子勝資ニ付ケテ。軍勢多氣庄

表ニ指向ケシユへ。只小姓近衛ノ輩五六千人計
リナレバ。洪水ヲ手ニテ防グニモ直劣ツテ。術計
ノ果思々ニ討死ス。寄手多勢ナレバ。只一息ニ乘
破レト。四方ヨリ乘込ム程ニ。城主高資ヲ始人。悉
ク討死シテ。忽落城ニソ及ビケル。元瑞。三村が軍
功ヲ感シ。松山ノ城ヲ與ヘラレシカバ。是ヨリ家
親。松山ニ居住セリ。斯テ松山落城ノ由。多氣庄表ニ
聞ヘケレバ。諸勢大ニ氣ヲ失ヒ。十方ニ逃散リケ
ル程ニ。庄兵部少輔勝資。植木下總守秀資等如何
トモスベキ術ナク。雲州ニ落行キケレバ。備中下
目悉ク。毛利ノ幕下ニソ屬シケル。

植木資富以下最期事

斯テ備中下目皆毛利家ノ麾下ニ屬セシ処ニ。植
木斎作守が嫡子。資富トテ。木剛ノ者アリシカ。同
名房幸。同新左衛門尉以下ノ一族十一人ト共ニ。
僅ノ勢ヲ従へ。國中ヲ敵ニ受ケ。齊田ノ城ニ楯籠
ツテゾ居タリケル。元清是ヲ聞玉ヒ。植木が所為
ノ悪サヨ。如何ニモシテ渠ヲ方便リ討バヤト思
ヒ。使ヲ以テ云ハセラレケルハ。國中ノ諸士悉ク
味方ニ屬セシ処ニ。御邊一人今ニ士ノ義理ヲ守
リ玉フ。更感シ入テ候ナリ。今ハ味方ニ屬セラレ
候へ。本領ニ於テハ。柳相違アルベカラス。然ルニ

於テハ。明月是へ越レ候へ。饗膳對面仕ラント云
ヒ送ラル。資富モ今ハ勇氣尽シカハ。此上ハ仰ニ
從ヒ。明日參上仕リ候べシト返事セリ。房幸ハ敵
ノ計略ナリト思ヒシカバ。病氣甚シク。起居心ニ
任セス候ト答テ。使者ヲ飯シテ後。資富ニ向ヒ。元
清ハ謀計多キ者ニテ候へハ。明日ノ和睦ハ心得
ズ候ト云フ。資富聞テ。某モ尤思へドモ。國中ニ味方
ナケレバ。終ニハ敵ニ攻落サレナン。述モ死スべ
キ命ナレバ。明日ハ資富ガ首ヲ渡スカ。元清ガ首ヲ
取ルカ。ニツノ内ニ決セント云フ。然ラバ貴邊ノ
刀長ク覺へ候ト云ケレバ。資富尤ナリトテ。水田

國重ガ刀ヲ取り出し。此長三尺三朋。天井へハツ
カへマジ。天晴元清ガ首ヲ討ンコト。弄裏ニアリ
トゾ突ヒケル。斯テ翌日資富ヲ始メ。一族十一人
猿懸ノ城ニ至ル。資富先刀ヲ膝本ニ置テ。上座ニ
着ハ。同新左衛門尉以下ノ一族各刀ヲ膝本ニ置
テ。次第ヲ守ツテ列座セリ。向フノ座ニハ。馳走人ト
号シテ十六人。刀ヲ是モ膝本ニ置テ列スレバ。究
竟ノ若者共二十人ハカリ。討手ト見へタルガ。給
仕人ト号シテ立出タリ。既ニ饗膳出テ食ニツキ
ケル処ヲ。坂小六ト云フ配膳人。脇指ヲ拔テ。新左
衛門ヲ切り伏ル。資富スカサス。小六即ヲ切り倒

ス其ヨリ敵味方火ヲ散シテ切り結ビケルガ。馳走配膳ノ者共過半討レシカバ。又荒手ヲ入レ代戦フ程ニ。植木ガ一族悉ク討死ス。資富ハ未ダ手モ負ス。敵八人マデ討取ツタル処へ。元清ハ世ニ双ビナキ大剛ノ人ナレバ。何ユヘ間ヲ取ルゾ。比奥ナル拳動カナト。小長刀ヲ打振テカ、テル。資富是ヲ見テ。御邊ヲ討ンタメニコソ。是マデハ来リタリ。手ナミノ程ヲ見玉ヘト。走リカ、ツテ切り結フ。元清剛ナリト云ヘドモ。必死ノ植木ニ切り立ラレ。少シ退ントセラレケルガ。開爐裏ニツマヅキ倒レラル。資富スカサズ切り付レカドモ著込ヲ著ラレタレハ。身ニハ少シモ徹ラス其間ニ小姓。小川與九郎。資富ヲ討取りヌ。是ヨリ元清。暫ク猿懸ニアツテ。穂井田備中守ト号セラル。資富カ父。券作守モ。其羊山中鹿之介ガ。隠岐判官ヲ攻ケル時。痛手負テ死シヌ。同源三兵衛モ。其合戦ニ討死セリ。

三村修理進家親遇害事

去程ニ三村修理進家親ハ。庄備中守高資ヲ討取テ。其ヨリ松山ノ城ニ移リ。武威ヲ因中ニ裏カセリ。是ニヨツテ同国鳴輪ノ城ニハ。長良三村孫兵衛尉親成ヲ入レ置キタリ。其外齊田ノ城ニハ。同

兵部丞、国吉ノ城ハ。同、右京亮政親、新見ノ城ハ。同、
官内、少輔元範、養袋ノ城ハ。同、民部丞、鬼身ノ城ハ。
家親ガ次男、上田孫次郎實親、意平ノ城ハ。三村入
道、呵西、矢倉、畷ノ城ニ。田中掃部助直重、高山ノ城
ニハ。石川源左衛門尉久式ヲゾ居置ケル。此トキ
宇喜多和泉守直家ハ。備前ト、養作半国ヲ領シ。毛
利ト威ヲ争ハレケルニ。三村修理進、猛威ニホコ
リ。毛利家ヘ使ヲ以テ。加勢ヲ賜ハリ候ハ。家親
武カヲ尺シ。宇喜多ヲ攻亡ホシ候ハント云ヒ送
レバ。大江輝元大ニ悦ビ。加勢トシテ六千余騎ノ
遣共ヲ差向ラル。修理進家親此、兵ヲ合ヒ卒シ。家
作ニ幾、向シ。郡村ヲ侵シ掠メ。佛經寺ニ陣ヲ取ル。
宇喜多和泉守直家、安カラス思ヒ。遠藤河内守ヲ
招キ。御邊ガ居所、徳良ヨリ。三村ガ陣所。佛經寺ヘ
ハ程近シ。如何ナル方便ヲモ巡ラシテ。家親ヲ討
取レヨ。加増トシテ一万余石ノ采地ヲ與ユベシトア
リケレバ。河内守早速領掌シテ。其ヨリ様々思慮
ヲ巡ラシ。舍弟修理亮ト共ニ。木綿ノ服ニ。同じ羽
織ヲ着。足輕ナドノ躰ニ出立。佛經寺ニゾ赴キケ
ル。去程ニ家親ハ。作州予背ノ城ヲ攻落シ。佛經寺
一本陣ヲ居思フ。夏モナケニテ居タリケル。処ニ。
河内守兄弟。夜ニ入テ。佛經寺ニ忍ビ来リ。後口ノ

方竹敷ノ中ヨリ。忍ビ入テ窺ヒ見ルニ。客殿ノ障
 子ニ蠟燭ノ光リカ、ヤキテ大庭ニハ番ノ兵共。
 篝火ヲ焼テウヅクマリ居タリ。河内守篝ノ前へ
 立寄テ。殊ノ外ノ寒サカナ。ナンド、詞ヲカクレ
 トモ雜人共ナレハ。共ニ四方山ノ物語リシテ。聞
 咎ムル者モナシ。其ヨリ客殿ノ邊へ行キ。耳ヲソ
 バダテ、聞ケハ。合戦ノ評定區ナリ。指足ヲシテ
 立ヨリ。唾ヲ以テ障子ヲ破ブリ。内ノ鉢ヲ窺へハ。
 座上ニ大将家親。其次ニ座頭一人。末座ニ三村助
 次郎。原平七以下ノ一族郎等。数輩並居タリ。河内
 守心ヲ静メ。其ヨリ又篝ノ本ニ立寄リ。某ハ夜間
 ノ役人ナルガ。夜長ニテ難儀仕ル。旁モ同事ニテ
 候ハント物語リスル内ニ。羽織ノ端ニ火ヲツケ
 其所ヲ立去リテ。火繩ニ火ヲ移シ。懷中铁炮ヲ取
 出シ。障子ノ破レヨリ。子ヲヒ澄シテ礮ト打ハ。家
 親只中ヲ打扱レテ百ト伏ス。コハ何者ゾト云フ
 程コソアレ。寺中震動シテ。上ヲ下ヘト悶着ス。遠
 藤ハ其間ニ。藪ヲクバツテ逃飯リ。直家ニ斯ト云
 へハ。和泉守大ニ悦ビ。宇喜多ノ氏ヲ與ヘテ。一方
 石ノ恩賞ヲ遣ハシ。舍弟修理亮ニ五千石ノ所領
 ヲ宛行ハル。家親不慮ノ害ニ逢ケルユヘ。数日ノ
 戦功空シクシテ。諸勢我先ニト。備中ニ敗走セリ

三村元親反心事

其比京都ノ將軍ハ。足利十四代ノ公方源義昭卿
ニテ坐シケルカ織田信長ト不快ニナリ玉ヒ。隱
謀ヲ起シ玉ヒシカドモ。却ツテ信長ノ夕メニ辱
メヲ受ケ都ヲ恐ビ出玉ヒ。西海ニ漂泊シ。中国ノ
毛利輝元ヲ頼マセ玉ヒシカハ。輝元公方ヲ崇敬シ
信長ヲ攻テホシテ。一度飯浴ヲナシ参ラセント
種々計略ヲ巡ラサル。信長是ヲ傳ヘ聞我モ秘計
ヲ巡ラシテ。中国ノ者共ニ。間諜ヲハレ見バヤト
テ。先備中ノ守護三村修理進元親ガ方ヘ密使ヲ
以テ。味方ニ属シ忠戦ヲ励マルハニ於テハ。備後
備中ヲ死行ヘシト云送ラル三村忽チ心ヲ変ジテ思
ヒケルハ父家親ヲ。宇喜多ニ討シ。鬱憤骨髓ニ徹
ツテ堪ガタシト云ヘドモ。毛利家ヲ頼ミ居タル
討ニテハ。宿意ヲ達スルコト難カルベシ。如シ織
田家ニ與シ。運ノ傾キタル義昭卿ヲ攻討テ。勲功
ヲ励マシ。信長ノ助カヲ得テ。怨敵宇喜多ヲ退治
シテ本意ヲ達セント悦ビケル処ニ。鳴輪ノ城主。
三村孫兵衛尉親成ハ。一族ト云ヒ。長臣ナリケル
ガ。丁子孫太郎親宣ト共ニ。是ニ同セズ。父ノ怨ヲ
討ンニ。何ゾ他ノカラカルベキヤ。其上富家備中
丁国ヲ領シ我々マデ栄花ニ誇ルコト。毛利家ノ

中国大平記 卷之八 三村元親反心事

厚恩ニヨル者ナリ。然レバ不義不忠ノ舉動人非
人ノ所為ニ候ナリト諫メシカドモ。元親曾テ許
容セス却ツテ親成父子ヲ誅伐セント議レケレ
バ。親成父子今ハ是マデナリト。公方ノ御在所。備
後ノ朝ノ津ニ落来リ。右ノ次第ヲ言上レ。其ヨリ
三原ニ行テ。小早川左衛門佐隆景ニ斯トゾ告タ
リケル。大江輝元ハ。其比未ダ若年タルユヘニ。隆
景後見トシテ。國ノ政事ヲ執リ行ハレケルガ。大
ニ怒リ。時日ヲ移サス。三村ヲ攻テスベシト。軍勢
ヲ相催サル。出雲ノ國ニハ。天野中務太輔隆重。三
戸屋藏人久信。石州ニハ。吉見大藏太輔廣頼。益田
玄番元兼。大庭加賀守賢兼。備後ニハ。上原右衛
門太夫元祐。杉原播磨守盛重。南三川守景久。有地
民部丞元盛。梨羽中務丞景森。山内上野介隆道。以
下六カ余ノ多勢ヲ卒シ。吉川駿河守元春ヲ搦手
ノ大将トシテ。天正二年十二月。追手搦手ニ手ヲ
分テ備中ヘゾ寄ラレケル

齊田矢倉畝以下城々閑退事

去程ニ左衛門佐隆景。数万騎ヲ引卒シ。三村孫兵
衛尉親成ヲ先手ノ案内者トシテ。齊田ノ城ヘ押
寄ラル。城守三村兵部丞三百余騎ニテ。爰ヲ詮一
戦ヒシカドモ。敵ノ多勢息ヲモ續セズ。十方ヨリ

攻立シカバ兵部丞十計尽果降ヲ乞ヒ城ヲ開渡
 シテ。松山ノ城ニゾツボミケル。上原杉原有地。梨
 羽以下ノ備後勢ハ多氣庄矢倉畷ノ城ニ押寄ル
 城ノ本人田中掃部助直重同官兵衛尉直久大敵
 ヲ見テモ火シモ氣ヲ屈セス。精兵ノ手ダレヲ揃
 ヘテ射サス。寄手ハ是ヲ復共セス。堀際マデ攻寄
 テ。堀ヘ熊手ヲ打カケク。既ニ乘入ント捫立ル。城
 兵等爰ヲ破ラレテハ叶ハシト。鑓長刀ヲ持テ突
 落シ切り落ス。寄手火シ漂フ処ヲ又城兵等散々
 ニ射立ケレバ。寄手今ハ攻アグミ。陣々ヲ取テ攻
 ベシト。虎口ヲ背ケ陣ヲ取ル。係ル処ニ城中ニ反

慮ノ者出来リシカバ。田中城ヲ持恠ユルコト叶
 ハスレテ。是モ亦降ヲ乞ヒ。城ヲ闕テゾ落行キケ
 ル。兩城ノ落タルニ氣ヲ失ヒ。敵ノ旗先ヲモ見ス
 シテ。庄田山野山有漢多氣庄。四个所ノ城主悉城
 ヲ捨テ落行キシカバ。吉川小早川兩將ノ勢ヒ。左
 ナカラ竹ヲ破ルガゴトク。秦ノ武卒魏ノ銳士ト云
 フトモ。面ヲ向フベシトハ見ヘサリケリ



中國太平記 卷之九

中國太平記卷之第九

目錄

國吉新見城攻附 拓首亥左衛門元吉事子チクヒ

鬼身落城附 法行六郎左衛門最期サイゴ

並 乘取天神丸事

松山落城附 修理進元親自害事ジ

常山落城事ツチ

備前兒嶋麥飯山落城ウキイヒ

附 庄兵部太輔勝資討死事

念

黒田氏世系

竝 作州天神山落城

同 浦上遠江守出奔事

大谷慶松間使

竝 宇喜多直家屬織田家事

中國太平記卷之第九

洛下 馬場玄隆信意輯録

国吉新見城攻 附 拈首彦元衛門尉元吉事

去程ニ吉川。小早川兩軍ノ勢。三村方ノ城々多ク
攻落シテ。勇々進ムコト限リナシ。中ニモ完戸安
藝守隆家ハ。三村孫兵衛尉親成ヲ先鋒トシテ。天
正二年十二月二十三日。三村右京亮政親ガ。国吉
ノ城ヘ押寄ル。宮内藏太輔丹下與兵衛敵ノ蹄ニ
城邊ヲカケサスルユソ安カラ子。倡ヤ一戦シテ。
味方ノ手ナミヲ見セント云ヘバ。早リ雄ノ若者
共。是ニ同ジテ百騎バカリ。城戸ヲ開イテ突テ出

ル。城將三村右京亮政親是ヲ見テ。官丹下討スナ
續ケヤトテ。同大藏同七郎左衛門尉ト共ニ。二百
余騎ニテ。同夕城外ニ突出テ。死生知ラスニ相戦
フ。丹下與共衛尉宗正ハ。横山角阿弥ト相戦ヒ。引
組テ差違ユル。内藏太輔。丹下ヲ助ント走り来ル
処ヲ。三村孫太郎ガ即等有木平内引組ンテ。上ニ
ナリ下ニナリマロビケルガ。片岸ヲ踏崩シ。谷底
へ落入テ。二人共ニ微塵ニナツテ。ソ死ンタリケ
ル。勇氣盛シナル寄手ノ勢敵ヲ城中へ追込ンテ。
其ヨリ昼夜息ヲモ續セズ。攻立レカバ。同キ晦日
ノ夜。城兵等城ヲ捨テ出奔シ。松川ノ城へゾ逃入
リケリ。翌レハ天正三年正月元且折ニ合ヒタル
新見ノ城ヲ攻落シテ。歳且ノ慶賀ヲ述ベント。三
村官内少輔元範ガ籠ツタル。新見ノ城ニ押寄せ。
昼夜息ヲモ續セズ。攻立ル。城兵富屋大炊助。忽反
心ヲ生ジ。同キ八日ノ未明。寄手ノ勢ヲ引入レシ
カバ。城至官内少輔元範十計尽テ。如何ントモス
ベキヤウナク。三村左介伊勢掃部入道以下。至從
只八騎辛フシテ遁シ出。一里ハカリニシテ。石橋
山ニカ、リケル処ニ。多治部雅樂助以下。五十騎
余リニテ追カケレカバ。八騎ノ者共モ取テ返シ
テ待カケタリ。茲ニ寄手ノ勢ノ中ニ。安藝ノ国ノ

任人安原彦左衛門尉元吉ト云フ者アリ。身ノ長
六尺三寸。眼大ニシテ光リ渡リ。鬼鬚左右ヘ分レ
タリ。数度ノ合戦ニ高名シ。敵ヲ脛ミ殺セシコト
数ヲ知ラス。是ニヨツテ世人脛彦左衛門ト喚テ。
本名ヲ云フ者ナシ。安原日比是ヲ怒リ。我大カニ
シテ。数度高名ヲ遂ルト云ヘトモ。悪名ヲ蒙リヌ。
向後戦場ニ出ナハ首拵切テ。勇名ヲ顕ハサント
云ヒケルカ。真先ニ進ミ出味方ノ勢ニ向ヒ某ハ
鴨騎ニテモ候ハス。又盜賊ニテモ候ハ子ハ脛彦
字ヲ御免アレ。只今進ミ出ル。伊勢掃部入道圓覚
カ。細首ヲ拵切テ。敵味方ノ奥ヲ催シ候ハント。ニ

間柄ノ大鎧ヲ引ソバメ。走リカ、ツテ打ト突入
道長刀ヲ持テ受弛ス処ヲ。鎧ヲ抛捨走リカ、ツ
テ無手ト組ミ。押伏セテ兜蓋ノ鞘ヲ取り。二拵々
テ首フツト拵切りシカバ。敵味方舌ヲ震ハシ。一
同ニ咄ト感ス。是ヨリ世人又拵首彦左衛門ト喚
テ。終ニ本名ヲ云ハガリケリ。太田源八續イテカ
ケ出ルヲ。元範ガ一族三村元介ヨツ引テ兵ト射
ル。其矢アヤマタス。太股ヲ射通シ、カドモ。太田
彦共セス。走リカ、ツテ元介ト引組指違ユル。宮
内、少輔元範元介ヲ助ント走リ下ル処ニ。咽輪ヲ
矢ニテ射通サレ。叶ハス百ト伏ヌ処ヲ。東江平内

走り寄テ首ヲ擡ク。其ノ者共ヲモ。悉ク討取リ
 レカバ。是ニ驚キ翌日意平ノ城主。三村入道阿西。
 三村ノ城主。三村民部丞降入トナツテ出ケレバ。
 其死ヲ究シ。備中ノ小嶋ヘゾ流サレケル。

鬼身落城附

法行六郎左衛門最後。乘取天御九事

同キニ。二日。完戸安藝守隆家。福原出羽守貞俊。
 兩大將ニテ。敵將三村修理進元親ガ身。上田孫次。
 即實親ガ鬼身ノ城ヘ押寄ル。實親叶ハレト思ヒ
 ケレバ。兼テ松山ノ城ニ加勢ヲ乞フ。是ニヨツテ
 松山ヨリ。明石與次郎俊重加勢トシテ。三百余騎
 ニテ。鬼身ノ城ニ馳來ル。城共等是ニ力ヲ得。一軍

シテ。敵ノ勇氣ヲ碎クベシト。法行六郎左衛門尉
 之勝上野近江守。石解右衛門尉五百余騎ニテ。突
 出テ相戦フ。法行六郎左衛門尉。一番首ヲ取テ引
 出テ。藝州ノ住人。永井右衛門太夫一虎追カケテ。
 哀レ敵ヤ。一番鎧ヲ合セ。鎧下ニ首ヲ取ル者ハ。希
 レナル者ゾ。名ヲ名乗レト喚ハツタリ。法行聞テ
 取テ返シ。日比音ニ聞ツラン者ヲ。法行六郎左衛
 門尉之勝ト云フ者ゾ。御邊ハ誰ソト問フ。吾ハ永
 井右衛門太夫一虎ナリ。汝法行トハ何ノ法ヲ行
 フゾ。之勝カラクト打笑。看ヨク。一番鎧。一番首
 ノ法ヲ行ヘリ。汝ガ鎧甚短シ。然ルヲ永井トハ如

何又一虎トハ不相應ナリ。今ヨリ一鼠ト名乗レ
ベシ。逸物ノ猫ニ取ラスベシト。起リカハツテ相
戦フ。永井太力ナレバ。ツト入テ引組ミ。法行ヲ取
テ押伏セ。之勝トハ云ヘド負タルナ。念佛申セト
云ヘバ。法行聞テ。念佛申ハ逃首トナラン。然ラバ
未代マテモ武士ノ法行ヲ空クス。早ク首ヲ取レ
ト。寢期マテモ勇氣ヲ脱サス。永井ニ首ヲ與ヘシ
カバ。諸人曼ヲ感シケリ。城兵等猛シト云ヘドモ。
寄手ノ剛氣ニ當リガタク。城中ニ引入ルヲ。木原
兵部丞轉右衛門以下。付入りニ門破レハ。城主上
田孫次郎。本丸ニ逃籠リ。衆命ヲ賜ケ玉ハラハ。實
親自言仕ベキ旨ヲ乞ヒレカハ。大将許容ユヘ。上
田自害レテ。鬼身モ落城ニ及ビヌ。石川源左衛門
尉久モ。今ハ叶ハジト思ヒケルガ。高山ノ城ヲ
捨。松山ニ逃入りレカハ。城主三村元親。石川ヲシ
テ松山天神ノ丸ヲゾ守ラセケル。斯テ寄手ノ諸
勢。城々ヲ攻落シ。松山ノ城ヲ取り囲ミ。右瀬河西
自地阿部。西野ヲ始メ。寸地モ余サス陣ヲ取ル。時
ニ城中ノ士ニ。武居宗左衛門直定ト云フ者。寄手
ニ反リ忠ヲシレ。同キ五月二十日ノ早朝。石川ガ
小松山ヘ。タル留守ヲ悦ビ。郎等小村又次郎。
大槻源内。諒ヲ云ヒ含メテ指遣ハス。二人ノ者

共下人ニ酒肴ヲ持セ。天神ノ丸へ入りケレバ。警固ノ者共進物ナリト思ヒケル故曾テ各ムルコトモナシ。大坂源内。小林又次郎内ニ入り。頓テ石川カ妻子ヲ生捕レバ。工藤神原蜂屋以下。押續イテ蕙入り。一片ノ煙ト焼立ル。寄手是ヲ見テ。須破乗入レヨト云フ程コソアレ。我先ニト攻入テ。忽天神ノ丸ヲソ乗取リケル。

松山落城 附修理進元親目害事

既ニ天神ノ丸ヲ乘取ラレシカバ。寄手ノ勇威ニ怖レ。山本左馬助。輒所藤介。南江備前以下。三村藩代ノ者共。松山ノ城ヲ出。降人トナツテ寄手ニ加ハリ。却ツテ城ヲ攻ケレバ。修理進元親スヘキ藤ナク。一先都へ落登リ。織田信長公ヲ頼ミ。此憤リヲ散ゼント。同二十二月。目指モ知ラヌ闇キ夜ニ。妻子郎等。一余人ヲ俱ヒテ。後口ノ谷ヲ忍ヒ落ケルガ元。心ツテ谷ニスベリ落。岩ニ當ツテ昏絶シケレ。從ヒシ者共モ。敵ノ近ヅカン怖ロシサニ。十方ニ落失セス。中間ノ弥介。加介ト云フ二人ノ者共。様々看病シケレバ。元親漸ク正氣ツキ。中間ノ肩ニカケラレ。城下ノ川ヲ渡リケルガ。中間又河中ニテスヘリレニ。元親ガ刀鞘走ツテ。藤口深ク又傷ス。運命ノ尽ヌル程コソ薄情ケレ。

元親泪ヲ流シ。天吾ヲ云ボセリ。汝等早ク敵陣
行キ。檢使ヲ請来レヨ。自害セント云ヒシカ共。二
人ノ中間泪ニクレテ辞シ居タリ。係ル処へ。其邊
ノ社頭ノ祿宜ト見ヘシ男。只一人通りケルヲ。元
親招キ寄セ松山ニ指遣ハシ。元親此山路ニアツ
テ。進退既ニ谷マレリ。急ギ輿一丁賜ハルヘシ。罷
出テ自害仕ラント云ヒ送レバ。寄手ノ大将小早
川隆景大ニ悦ビ。迎ヒノ者ヲ差遣ハシ。松連寺ニ
ゾ入レ置レケル。斯テ同キ六月二日。粟屋右衛門
尉就正同與三郎元形兒玉長門守就吉ヲ。寂期ノ
檢使トシテ遣ハサル。元親三使ニ對面シ。形兒ノ

品々ヲ其々ニ届ケ賜ハルベシトテ。老母ノ方ヘ
ノ文ヲ書ハ。雲集ノ中ノ歌一首加書シテ。

思ヒ知レバ行飯ルベキ道モナシ。本ノ真ヲ其マニシテ。
細川兵部太輔ハ。年比ノ和歌ノ師範ナリシカバ。

一度ハ都ノ月ト思ヒシニ。吾待復ノ雲ニカクルハ。
石見ノ国ノ住人大庭加賀守ハ。和歌ノ古アリケレバ。

残置ク言ノ葉草ノ影マテモ。哀レヲカケテ君ノ問キ。
竹田法印ハ一族ナレバ。

言ノ葉ノ傳ノミ聞テ徒ニ此世ノ夢ニ逢テ覺ヌル。
辞世

人ト云フ名ヲ借ル程ヤ。未ノ露消テソ飯ル本ノ雲下ニ

鐔頭炭清涼殿

前近作一澤源樹居士
劍樹刀山遊

此ノゴトク書シテ後腹十文字ニカ切レハ粟
屋右衛門尉頓テ介借シテ哀レヲ滅亡ノ跡ニゾ
残シケル。

常山落城事

松山以下國中ノ城々ヲ攻落シテ今ハ元親ノ妹
聳三村上野介高德ガ常山ノ城ノミ残りハ
諸方ニ寄手相加ハリ城ヲ十重二十重ニ取圍ミ
昼夜ヲ分タズ攻ケレハ城兵等モ残り少ナニ討
死シ主將上野介モ痛手ヲ負フ高德ガ妻ハ故修
理進家親ガ女ニテ勇力世ニ双ビナカリケルカ
我女ノ身ナリトモ最期ノ一軍シテ快ク自害セ
ハ是ゾ變成男子佛果ノ縁トモナルベシト鎧取
テ著国平ノ太刀ヲ帶大長刀ヲ提ケ付々ノ女房
十二人士卒七十余人ヲ相從ヘ城戸ヲ開キ突テ
出小早川ノ先陣浦兵部丞宗勝ガ備ヘ静々ト突
カハル高德ガ女房采牌ヲ打振テ無二無三ニ突
入レト高書ニ下知シテ真先ニカケ入テ向フ敵
三騎討取り酒モ進ンテ相戦フ寄手ノ勢是ヲ見
テ古ヘノ巴坂額ニモセヨ女ノ分際何程ノ度ノ
アルヘキゾト真中ニヲツ取り籠メ悉ク討取り

ケリ。高德カ妻ハ。未ダ手ヲモ負ズ。浦兵部殿ハ何
所ニ坐ス。黍リサウト云フマ、ニ。多勢ノ中へ切
テ入ル。宗勝手綱カイクリ大音揚ケ。嗚呼ケナゲ
ナリク。去リナカラ女姓ト勝負ハナリカタシ。早
ク城中へ引入リ玉へト云へハ仰尤ニ候ナリ此
上ハ最期ヲ急ギ候ハントテ。城中ニ引入テ。夫上
野介。一子源五郎高秀ト共ニ。繋ク自害シテ伏シ
ケレバ。即等共城ニ火ヲカケ悉ク腹切テ。忽落城
ニゾ及ビケル。此度ノ戦功ニヨツテ。三村孫兵衛
尉親成ハ。本領鳴輪ノ城ヲ安堵シ。八千石ヲ領シ
テ。紀伊守ニナル。幸山ノ城ハ吉川駿河守ニ與ヘ
ラレシカバ。今田山城守ヲ城代トセラル。鬼身ノ
城ハ完戸隆家ニ與ヘラレシカバ。佐々部養作ヲ
守護代トス。其外松山ノ城ニハ。天野五郎右衛門
尉ヲ入レ置シ。吉川。小早川兩將共ニ飯陣ニゾ赴
レケル。

備前兒嶋麥飯山落城 附庄兵部太輔勝資討死事
茲ニ宇喜田和泉守直家。備前ニアソテ毛利家ニ
從ハガレバ。小早川左衛門。佐隆景様々思慮シ。先
備中ニ近ケレバ。兒嶋ヲ攻取テ繋ノ城トナスベ
シト。軍議一決シケルガ。備中ノ庄。植木以下番名
アル者共流浪シテ出雲ニアリ。此者共ヲ召返シ

先陣トスベシトテ。使者ヲ指遣ハサレケレバ。庄
兵部太輔大ニ悦ビ。一族即等共ヲ集メ。此度兒嶋
ヘノ先鋒トシテ。毛利家ノ招キニ逢フコト。生前
ノ大幸ナリ。我先祖庄太郎家長ハ。武州七黨ノ内。
兒玉黨ノ旗頭タリシガ。一谷ノ合戦ニ。平家三位
中将重衡ヲ生捕リ。思賞トシテ陸奥室地庄ヲ賜
ハリ。平家滅亡ノ後備中ヲ宛行ハレ。其ヨリ累代
備中ニ居任セリ。家長ヨリ七代ノ後胤。左衛門四
郎資房既ニ身上表ヘシカバ。鎌倉ヨリ守護人多
ク補セラレテ。當家ハ高山ノ城ヲ守リ。松山ハ高
橋。笠岡ハ陶山次郎。小見山ニハ孫太郎。眞壁ニハ

ノ乱出来リシカハ。資房ハ六波羅殿ニ從ヒ。江州
番場ニテ忠死セリ。其子七郎ハ後醍醐天皇ノ召
ニヨツテ。船上ヘ御迎ヒニ参リ。都ヘ還幸ノ供奉
ヲ仕リ。其ヨリ足利家ニ仕ヘ来レリ。殊ニハ祖父
備中守為資。武威ヲ國中ニ震ヒ。備中ノ屋形ト喚
レシナリ。元祖家長ヨリ其ニ至テ十六代。一度モ
不覺ノ名ヲ取ラス。此度サシモ良將タル。小早川
殿ニ撰マレテ。先陣タランコト。家ノ奥廢此。一戦
ニアリ。某真先ニ馳入テ。敵將ト切死ニシ。譽レヲ
子孫ニ残サント植木。福井。津々以下ヲ相催シ。藝

州ニ馳至シバ。小早川大ニ悦ビ。天正三年九月二十
万余騎ヲ引卒シ。兒嶋黍飯山ニ押寄テ。攻動カサ
ル、夏霹靂碎ケ。天地震動シテ。世界奈落ニ沉ム
カト怪マル。城將明石源三郎。宇喜多ヨリノ加勢
ト共ニ。能ク防キ守ツテ。戦ヒケルガ。敵ヲ遠ク退
ケント。城戸ヲ開キ。城ヲ拂ツテ。切テ出。爰ヲ詮ト
相戦フ。植木下總守秀資。同孫左衛門尉。庄右京進
津々加賀守。福井孫六左衛門尉以下。一挙ニ捫落
サント。攻立ルガ。下總守秀資ハ。痛手負テ引退ク。
寄手ノ勢。城兵ニ切り立ラレ。漂ヒ騒グ。処ヲ庄兵
部。本輔勝資。白星ノ甲ヲ著。黒糸威ノ鎧ニ。十文字
ノ錯提ケ。士卒ヲ勇ノ真先ニ進ミ。戦ヘバ。城兵等
散々ニ打負テ。一同ニ敗走ス。秀資得タリ賢シト。
ツト敵中ニカケ入テ。城將明石源三郎ヲ突伏セ。
首ヲ取テ立上ル。処ヲ。明石カ郎等勝資ヲ突伏ル。
明石ガ長臣田中源四郎ヲ。植木孫左衛門討取ツ
タリ。大将既ニ討レシカバ。士卒等城中ニ逃入ル
ヲ追討ニシテ。忽城ヲ乗取ツタリ。此源三郎カ子
ハ明石掃部助全登トテ。豊臣秀頼公ニ頼マレ。難
波ノ城ニ籠リテ。討死セシ勇士ナリ。此度庄勝資
ガ戦死ヲ感ジ。其子宮若丸未ダ二歳ナリケルヲ。
父カ名跡トシテ。二方石ノ采地ヲ與ヘ。勝資カ叔

父庄右京進ト。植木孫左衛門尉ヲ後見ト定メラ
レ。兩人共ニ五千石ノ采地ヲ與ヘラル。福井孫六
左衛門津々加賀守ハ。庄ガ一族ト云ヒ。累代ノ長
臣ナレバ。共ニ二千石ノ所領ヲ宛行ハル。官若成
人ノ後ハ。庄三次郎ト号ス。三次郎ニ姉二人アリ。
一人ハ野山宮内ガ妻。一人ハ植木孫左衛門尉カ
嫡子。五郎兵衛尉ガ妻女ナリ。五郎兵衛尉ハ。下総
守秀資カ孫ニテ。武勇ノ聞ヘアリケレバ。其後元
和三年。池田備中守長幸^{ツカ}入道勝入^{三男備中}。備中
ノ松山拜領ノトキ。五郎兵衛尉ヲ尋子出シ。三百
石ノ食祿ヲ與ヘラレケルトカヤ。此度備後勢ハ

味方ノ危キヲ助ケサルコト。怯弱ノ至リナリト
テ。三吉以下ガ所領ヲ没収シ。是ヨリ小早川隆景
備後ノ三原ノ城ニ住シ。備前勢向ノ用意專ラナ
リ。宇喜多和泉守直家。毛利家トノ防戦ハ逆モ付
ハジト忌ハレシカバ。一族宇喜多入道安心。其外
長臣等ガ子共三人質トシテ藝州ニ指遣ハレ。毛
利家ノ幕下ヲ屬セラレケル

黒田氏世系 並 作州天神山落城 同 浦上出奔事
其比播州姫路ノ城主小寺官兵衛尉孝高トテ。勇
謀兼備ノ英雄アリ。其家系ヲ尋ヌレバ。元來黒田
氏ニシテ。宇多天皇ノ後胤ナリ。此帝ノ皇子。一島

式部卿敦實親王。始メテ源ノ姓ヲ賜ハリ。其末孫
皆字多源氏ト稱ス。敦實親王ノ孫。兵庫頭成頼。始
メテ武門ニ入り。江州蒲生郡佐々木卿ニ居住セ
ラル。是佐々木ノ元祖ナリ。成頼五代ノ後胤。佐々
木源三秀義。其子定綱。經高盛。綱高。綱義。情皆鎌倉
右大將家頼朝ニ仕ヘ。世ニ勇名ヲ顯ハシテ。是ヨ
リ子孫繁栄セリ。定綱佐々木ノ子ヲ。四郎信綱ト
号ス。其子近江守氏信。其子佐渡守滿信。其子四郎
左衛門尉宗滿。江州伊香郡余湖ノ海ノ邊。黒田邑
ノ任シ。始メテ佐々木黒田判官ト号シ。宗滿ヲ改
メテ。宗情ト号セララル。是黒田氏ノ始祖ナリ。宗滿
ノ子ヲ。黒田判官高滿ト号ス。其子滿秀ノ曾孫。有
近太夫高政。故アツテ備前邑久郡福岡ニ移リ任
セラル。其子下野守重隆。後播州飾東郡姫路ニ移
リ任シ。五十七歳一テ卒去セラル。法名宗トト号
ス。其子養濃守職隆。父ノ名跡ヲ續テ。同夕姫路ノ
城王タリ。其比同国五著ノ城主。小寺藤兵衛尉。政
職ハ。西播ノ豪傑ニテ。因中ニ威ヲ振ヒシガ。養濃
守職隆。政職ト交リ深カリシユヘ。名字ヲ小寺ト
改メ。祝髮シテ入道宗圓ト号セララル。其家嫡ハ官
兵衛尉孝高ナリ。然ルニ孝高。織田信長公ニ志シ
テ通ジ。播州へ御勢ヲ向ラレ候ヘ。孝高御味方仕

日本書紀
卷之九

リ候ハント云ヒ送ラレケレバ。信長公大ニ悦ビ。羽柴藤吉郎秀吉ヲ指向ラル。孝高親睦無ニニシテ。秀吉ヲ姫路ノ城ニ移シ。元身ノ契義ヲ結バル。去レバ秀吉ノ威風。是ヨリ國ヲ傾ケズト云フ。夏ナシ。茲ニ備前ノ太守。宇喜多和泉守直家ハ。六慾無道ノ人ナリシカバ。如何ニモシテ主人。浦上家ノ根ヲ断葉ヲ枯レテ。彼一跡ヲ合セ領セント思ヒ。三原ニ使ヲ差遣ハシ。浦上遠江守ハ無二ノ信長方ニテ候。早ク御退治候ヘカシ。直家先鋒ヲ兼リ候ハント云ヒ送リシカバ。小早川左衛門佐隆景是ニ同ジ。天正五年七月。三方余騎ヲ引卒シ。備前ノ國マデ出張シ。岡山ニ本陣ヲ居ラルレバ。和泉守直家。三千余騎ヲ相從ヘ。浦上ノ居城。作州天神山ノ城ヘ押寄ラル。榑崎彈正火彌元兼モ。橋手ヨリ攻動カス。同キ八月十日ノ早朝。城主浦上遠州。采牌ヲ振テ城戸ヲ開カセ。突テ出テ相戦フ。軍半ナルニ。浦上ガ腹心ト頼ミタル。明石飛彈守景親。同三郎左衛門尉景季。榑崎ニ謀ラレ。忽反志シテ城ニ火ヲガケ。内ヨリモ攻立シカバ。浦上只八騎ニ討ナサレ。辛フシテ死ヲ遺シ。都ノ方ヘ落行キシカバ。頓テ浦上ガ所領ヲ宇喜多ニゾ宛行ハレケル。

大谷慶松間使 並宇喜多直家屬織田家事

去程ニ羽柴秀吉ハ播州ニアフテ。國人等カ毛利ノ味方ナリケルヲ悉ク攻從ヘ武威ヲ國中ニ振ハレケルカ。近國ノ者共ニ間諜ヲ入レテ味方ヲ招ント思慮ヲ巡ラシ。大谷慶松トテ。未若輩ナリシカドモ心賢々レカリシカバ。此者ニ回文ヲ持セテゾ遣ハサレケル。茲ニ作州ノ猶崎彈正火彌元兼ハ。同國草薙三郎左衛門尉景繼ヲ討テ。毛利家ノ賞ニ與ラン。其ヲ思ヒケルガ。播州關所ヲ守ルベキ旨。毛利家ノ下知ヲ受其身ハ作州月由山ノ城ニ在番セリ。然ルニ大谷慶松只一人山伏

姿ニ似セ。關所ヲ通リケルヲ。關守怪シク。是ヲ捕ヘ。懷中ヲ搜シ見ルニ。草薙ガ隱謀ノ密狀アリシカバ。元兼悦ビ是ヲ三原ニ差遣ハス。慶松ハ成人ノ後。秀吉ノ寵臣。大谷刑部少輔吉繼ト号レケリ。草薙ガ一族郎等共。其科ヲ怖シ。景繼ヲ討テ出シケレバ。舍弟次郎重統ニ。家督ヲゾ與ヘラレケル。去程ニ羽柴秀吉ハ。智謀世ニ起タル人ナレバ。如何ニモシテ宇喜多和泉守ヲ味方ニ屬ント思慮セラレケルガ。其比泉州堺ニ。小西弥十郎トテ。藥種ヲ商ヒテ。福祐ナル者アリ。常ニ福岡ニ居テ。宇喜多ガ方ヘ伽ニ出。才覺辨舌勝レタリ。秀吉樂ヲ

拵千。直家時方ニ属シ。忠功ヲ尽サルハニ於テハ。
 作州一國ヲ申與ユベシト云ヒ含メテ指遣ハサ
 ル。小西。岡山ニ行テ右ノ赴ヲ忍ビヤカニ迷ケレ
 バ。元來慾心強盛ナル直家。大ニ悦ビ。我今ヨリ何
 程粉骨ヲ尽ストモ。作州一國ヲ領ズルコトハ難
 カラン。早ク織田家ニ属セント議セラルケルヲ。園豊
 前守。因越前守。花房志摩守。戸川肥後守。長船又左
 衛門尉以下ノ老臣等是ヲ諫メ。仰ニテハ候ヘド
 モ。毛利家へ遣ハサレタル。入道安心以下ノ人質
 ヲ捨殺シニハセラレ候マシト云ヘバ。其ハ忍ビ
 難シ。進飯レト云ヒ送ラン。若運尽テ討レナバ。加ナ
 シトテ。終ニ織田家ニ属セニル。此小西ハ後ニ本
 吉ニ召出サレ。入道シテ如清ト号シ。千石ヲ領ス
 其子ハ親津守行長トテ。数万石ヲ領シケルガ大
 閤秀吉薨去ノ後。石田ガ逆意ニ組シ。終ニ滅亡ニ
 バ及ビケル



大定

中國太平記卷之第十

目錄

羽柴秀吉播州參向事

秀吉軍評定事

三木籠城事

長井四郎左衛門尉野口閑城事

筑前守秀吉忍而上國事

神吉落城

附梶原道菴入道武勇最期事

中國太平記

長治軍評定事

中國太平記卷之第十

洛下

馬場玄隆信意輯錄

羽柴秀吉播州癸向事

去程ニ平信長公ハ東國北國所々ノ合戰ニ全ク
 勝利ヲ得サセ玉ヒ中國ヲモ悉ク征伐セント。昼
 夜心ヲ苦メラレケルガ忍ビヤカニ別所小三郎
 長治ガ方ニ使者ヲ遣ハシ御邊味方ニ屬セラレ
 ・ニ於テハ播州一國ハ云フニ及バズ其外功ニ
 從ヒ。恩賞厚ク行フベシトアリシカバ長治忽々
 味同心シ。國中諸城主ノ人質ヲ取り固メ。急ギ京
 都ニ使者ヲ上セ。國人共悉ク人質ヲ出シ。味方ニ

屬シ候。早ク大将ヲ一人下サルベシトゾ望ミケ
 ル。是ニヨツテ羽柴筑前守秀吉ヲ中国討手ノ大
 將軍トシテ七千五百余騎ヲ播州ニ差向ラル。天
 正六年三月四月秀吉京都ヲ打立ル。其行粧諸人
 ノ目ヲ驚口カセリ。一番ニ鉄炮ニ番ニ旗三番ニ
 弓四番ニ長柄ノ鎧五番ニ切具足次ニ太鼓次軍
 監次ニ乗替ノ馬次ニ秀吉ノ手廻リノ兵次螺次
 ニ小符次ニ手明ノ歩卒次ニ大将秀吉先ニハ鉄
 炮弓鎧甲立後ニハ小旗ヲ持セラル。次ニ宿老次
 三使番二十八人次ニ總軍七千五百余騎思々心
 乃ノ出立善尽シ養尽セリ抑別所氏ト申ハ村上
 天皇第七ノ皇子具平親王十六代ノ赤葉赤松次
 郎入道圓心カ胤藤ニテ東播八郡ヲ領シ三木ニ
 在城シテ累代武勇ノ誉レアリ。一族山城守吉親
 舍弟孫右衛門尉重棟兄弟政權ヲ執テ威勢ヲ振
 フ。去レバ永祿年中公方義昭織田信長ヲ頼ミ玉
 ヒ三好ヲ誅伐アリシトキ三木ヨリモ加勢トシ
 テ別所孫右衛門尉重棟ヲ差上ス。重棟京白川ノ
 合戦ニ忠戦ヲ勵ミシカバ義昭大ニ悦ヒ玉ヒ甚
 ダ感賞アリシカバ重棟是ヨリ武勇ヲ振ヒ兄山
 城守ヲモ蔑如ニシケレハ常ニ吉親方重棟方ト
 テ一家ニ分裂ニ分ル。是滅亡ノ前表ナリ

中国太平記

卷之十

三

秀吉軍評定事

或トキ別所孫右衛門尉重棟長治ノ長臣三宅治
 忠兩人羽柴殿ノ本陣加須屋カ館ニ衆ル秀吉對
 面シ秀吉身不肖ナリト云ヘドモ信長公ノ伏官
 トシテ當国ニ下向ス不日ニ勝利ヲ得ベキ計略
 ヤアル各心底ヲ申サルベシト宣ヘバ三宅治忠
 進ミ出此度別所先鋒ヲ承リ候上ハ所存ヲ残サ
 ス申候ハン此度ノ合戦ハ一國一城ノ小責合ニ
 ハ似ルベカラス敵將毛利輝元ハ中国ハ申スニ
 及バズ九州マテモ手ヲカケタル大将ナレバ万
 死一生ノ合戦五度モ十度モ候ヘシ其ニツキ先
 手ノ陣ノ張様委ク演吉仕リ候ハン別所家ノ軍
 法ト申ハ敵國ニ入テヨリ一日ノ行程三十里道
 五里卯ノ冠ヨリ前ニ立ズ未ノ上冠ニ陣取りヲ
 定メ又物見指遣ハン伏兵ヲ置テ不意ノ備ヲ設
 ケ至ル日ノ暮ニ備ヘヲ拙ス着陣ノ暮ニ攻寄候
 へバ陣屋定ラズ晩食調ラス士卒困勞シテ備堅
 固ナラス候陣ノ取ヤウト申スハ春ハ敵西ニ陣
 ヲ取レバ味方ハ東ニ備フ故ニ鋒矢ノ形三角ニ
 陣ヲ張ル西ヨリ東ヲ金冠木ト冠シ候ユ味方
 ノ三角ハ三離火ニシテ火冠金ト西ヲ冠シ候同
 ク岡ム度味方西ニ陣ヲ取時敵ハ東ニアリ則是

金尅木ナリト云ヘドモ。春ハ東旺分タレバ。其恐
アリ。味方ハ彎月ニ陣ヲ張ルベシ。半月ノ形ハ金
ナリ。是再ビ金尅木ニテ候ナリ。味方南ニ陣スル
時。敵北ニ陣ヲ張レバ。北ヨリ南ヲ水尅火ト尅シ
候。其時味方衡軛ニ陣ヲ張ル。衡軛ハ四方ナリ。四
方ハ土也。土尅木ト尅ス。味方北ニ陣ヲ取り。敵南
方ニ陣ヲ張レバ。水尅火ナリ。若敵衡軛ノ陣ヲ張
ラバ。味方魚鱗カ團形ナルベシ。團形ハ木。衡軛ハ
土。是木尅土ト尅ス。魚鱗圓丸ハ水陣ナリ。是北方
ニ。王夕リ。味方彎月モ宜シ。金ナリ。衡軛ヨリ土生
金ト生ス。四季此ニ準ジ候。此外陣形ニ様々ノ夏

候。鐵ヲ合セ手誥ノ勝負ニハ各別ニ候。此ノ如ク
陣ヲ取り。螺三。吹立ル時。其色ヲ兵鼓ニ受テ。押
太鼓ヲ打テ備ヲ押出ス。春復ハ味方ノ左ノ手先
ヨリ軍ヲ始メ。敵ノ右ノ手先ニカ、ル秋冬ハ味
方右ノ手先ヨリ軍ヲ始メ。敵ノ左ノ手先ヘカ、
ル。此時翼龍破軍ノ行要ノ夏候。又備ノ丸メ様稟
一ニ候半渡火戦ノ夏。總テ廣野深草ノ地ニ陣ヲ
張ル時ハ。敵火ヲ放フ夏候。又不慮ノ出火モ候ヘ
バ。用心ヲ堅城トシ。油断ヲ大敵トセリ。川端ニ陣
ヲ張ル夜ハ。豫メ雨降洪水出シ夏ヲ思ヒ。山野村
林廢宅ニハ。伏兵アラン夏ヲ思ヒ。風氣ノ順逆ヲ

知ルベキ。又肝要ニ候。又遠候。中候陣中候トテ三
 段候。遠候ハ敵国へ参向ノ時。三日ニ先立テ。足輕
 ノ雄士ヲ遠候セシメ。敵国ノ地形峻易。或ハ敵出
 向ハント欲スル様。并ニ敵ノ虚實ヲ能ク窺ハシム。
 是ヲ遠候ト申候。常々諸国ノ遊士ニ間諜ヲ放テ
 遣ハシ。其虚實ヲ見セテ。国ノ政ヲ知ルベキ。又肝
 要ニ候。是與軍最初ノ謀ニテ候。中候ハ参向ノ日
 限ニ一日先立テ。輕騎三人ヲ放テ遣シ。道路峻易
 山出林沢ノ里程ヲ能ク見セシメ候。陣中ノ候ト
 ハ。舟候及ビ番兵三人ヲ一三番ニシテ其内老功
 ノ武者一人。若手ノ利根ナル者二人合テ三人づく

ニテ候。憚リ入候ヘトモ。御尋子候程ニ備ノ次第
 申入候ト云フ。秀吉聞王ヒ。對様ノ勢ナランニハ
 左様ニ延々ノ術モアルベキカ。敵ハ多勢味方ハ
 小勢賢人ノ前ニ小人ノ長居ハ其耻顯ハル。ト
 云ヘリ。加様ノ軍ハ不意ニカ、ツテ。十死一生手
 詰ノ軍。五度モ十度モスル程ナラバ。ヤワカ敵ニ
 臆病ノ神ノ附ズト云フ。又アルベキヤ。左ナクシ
 テハ急ニ勝利ヲ得ガタカラント宣ヘハ。治忠重
 子テ。強キ働キ計リニテハ。始終ノ勝利ナリガタ
 ク候ハン。譬へハ齒落テ舌猶存ルガコトシ。大敵
 ニ逢テハ剛柔強弱共ニ用ルヲ名将トハ申候ト

答フ。羽柴殿モ治忠ガ申分無礼ナリト思ハレケレハ。各ハ先王没ニテ候ヘハ。合戦ヲ勵マルベシ。勝利ヲ得ルカノ下知ハ大將役ニ此方ヨリ指圖申スベシト。何ノ手モナク宣ヘハ。兩人閉口シテ更出シ。其月ノ軍議ハ止ニケリ。

三木籠城事

去程ニ別所家ノ一族及ビ老臣ノ輩會合シテ此度ヲ評議ス。山城守吉親進々出。此度秀吉當国ニ下向シ。我々ニ對シ。遠慮ナク雅意ヲ振舞フノミナラス。我家人ノ如クニ挨拶シ。国人ニ首ヲ揚ケサセ。トスル條心得ス。察スルニ此度中國ノ先

ヲ當家ニセサセ西国ヲ伐リ従ヘナバ。其後當家ヲ退治シ。當国ヲ秀吉ニ與ヘントノ方便ナラン。敵ノ表裡ヲ知リナガラ。其謀ニ隨ラシコト。弓箭取テノ耻辱ナリ。如シ此方ヨリ色ヲ立シニハト云ヘバ。別所小三郎長治聞モ敢ズ。去レバコソ最前ヨリ。信長我ニ兄弟ノ思ヒヲナスベキナシト。頼リニ云ハレシニ依テ。一味同心シ。大將ヲ一人玉ハレト返事セシニ。定メテ信長子息ノ内信忠カ。信雄ヲカヲ差下サント思ヒシニ。頃斷ク士ノ真似ヲスル猿冠者ヲ大將トシテ。下レヌルコノ安カラ子。此上ハ約ヲ変ゼシ手切レノ印ニ。先秀

吉ト唯雄ヲ決スヘシト云ヘハ。舍弟小八郎今、年
十七歳ナリケルガ進々出兵勝ノ術ハ不意ヲ討
ニ利アリ。長僉議シテ敵ニ色ヲサトラレ。逆寄ニ
セラレナハ。悔ルトモ甲斐アラジ。某ニ人数四五
百人玉ハリ候ヘ夜討ニ押寄せ。三方ニ火ヲ放チ
一方ニ支ヘ候ハン。火ヲ遁レント菟出ニ処ヲ追
立々々討取ルベシ。秀吉ヲモ十二レテ八九ハ討
留候ハント云フ。別所甚太夫頭ヲ頃ケ仰一理ナ
キニ候ハズ。去ナガラ一因一城ノ大将。他ノ援兵
ヲ頼マズ。隣国ヲ合セント思ヒ且敵國ニ打入ル
時周章騒ギ打出ル敵ニ。足ヲタメサヒ又時ナン

トハ尤様術ヨロシカルベク候ハン。是ハ日本ハ
過半従ヘラレタル。信長ナレバ秀吉如キ五人三
人失ヒタリトテ。屑トモ思ハレジ。同ジクハ菟合
ノ合戦シ。敵強クハ引籠リ防グベシ。然ラハ東國
勢兵糧尽退屈セテハ候マシ。其弊ニ乘テ伐リ崩
シ。續イテ京都ニ攻上リ。信長ト唯雄ヲ決シ。一日
リトモ天下ニ旗ヲ立ルナラハ屍ハ戰場ニ晒
ス共名ヲ後代ニ残サンコト。武門ノ望ム処ナリ。
其上當家ノ先祖赤松入道圓心。苔繩ノ城ヨリ打
テ出此術ヲ以テ敵ヲ攻亡ホシ。武名ヲ後世ニ奉
ゲ玉ヘリ。只々其吉例ニ任セラレ候ヘト云ヘハ。

山城守吉親此儀理ニ當ツテ覺ヘ候。早々籠城ノ
支度候ヘト云ヘハ。先一往敵ヲ欺ント。信長へ使
者ヲ以テ。長治中国ノ案内者トシテ。先手仕ルニ
付。思慮仕リ候ニ。毛利ハ大敵ナレバ。一旦ニハ勝
負決レガタク候ハン。去ニヨツテ驅引自由ナラ
シメンタメ。又ハ軍勢打入テモ。諸勢心安ク居ラ
シメンタメ。居城ノ普請仕リ候ト云ヒ送リ。其往
来ノ間ニ。要害ヲ固メ。近邊ノ諸城主へ。回文ヲ指
遣ハス。神吉ニハ。神吉民部。少輔。淡河ニ。淡河。彈正
忠。端谷ニ。衣笠。豊前守。高畝ニ。梶原平三兵衛。志方
三。櫛橋左京亮。野口ニ。長井四郎左衛門等。先ニ
入質ヲ出シ置シユヘ。異儀ニ及バズ一味シテ。皆
巴々カ居城ヲゾ守リケル

長井四郎左衛門尉野口開城事

去程ニ小三郎長治。三木ノ城ニ楯籠リ。逆心ノ色
ヲ立ケレバ。秀吉大ニ驚キ玉ヒ。心得サル長治ガ
逆心カナ。信長公他ニ異ニ思シ召シ。管国ノ人質
マデモ預ケ置レ。西国ノ案内者ニ頼ク玉フ上ハ。
今何ノ恨ミノアルベキゾト。孫右衛門尉重棟ヲ
招キ。右ノ赴キヲ問ヒ玉フ。重棟聞テ。小寺。明石ハ
最初ヨリ。無二ノ御味方ニテ候ト云フ。秀吉御邊
ハ。城州弟ナレバ。敵方カト問ヒ玉ヘハ。愛宕。八幡

毛照覽アレ。某ニハ知ラセ申サズ。面目ヲ失ヒ候
ト泪ヲ流ス。然ラハ御邊長治方へ狀ヲ遣ハシ。此
度ノ軍法。一向長治ニ任スベキ旨ヲ云ヒテ。長治
ヲ諫メラレヨトアリシカバ。重棟是ニ隨ヒ。其赴
ヲ云ヒ送ルト云へドモ返事セズ。使三度ニ及ビ
テ後當家累年輝元ニ頼マレ候上ハ。力及ハス。當
城ヲ枕トシ。悉ク討死候ゾト返事シケレバ。秀吉
此上ハ是非ニ及バズ。長治ガ首ヲ軍門ニ晒サス
ンバ。我弓矢ヲ取ルベカラズトテ。天正六年三月
二十九日。三木ノ城ニ押寄ラル。此城前ニハ大河
流レテ。白浪岸ヲヒタシ。後口ニハ大山登へ。林ニ
續テ民家アリ。巖崎チテ道セバシ。殊ニ志方。擲橋。
神吉。淡河以下ノ城々。敵三木へ寄バ。十方ヨリ後
詰セント抑ヘタリ。秀吉先谷々ヲ放火シ。足輕ヲ
カケテ。敵ノ形勢ヲ窺ヒ。日夕陽ニ及ビシカバ。信
長流ノ車引ニ。勢ヲ左右ニ分テゾ引レケル。斯テ秀
吉ハ。書寫山ニ陣ヲ取リ。國中ノ繪圖ヲ以テ山川
峻易ヲ知り。敵ノ術ヲ察スルニ。我三木ヲ攻ハ。因
中ノ城々ヨリ。後詰セントノ計略ナリ。善戰者。不
殺入ト云ヘリ。然レハスリ違ヘテ。先弱キ方ヨリ
攻テ利ヲ得ルトキハ。其余ノ小城共ハ。向ハズレ
テ落ヘシト。同。四月三日ノ早朝。野口ノ城ニ押寄

ル。城主長井四郎左衛門尉。士卒ヲ下知シ。大筒ヲ
ツルべ立テ打セケレバ。奇手討ル。者数ヲ知ラ
ズ。先手一町計リ引退ク。元来此城ハ播州一ノ名
城ナレバ。四方沼田ニシテ。驅引自由ナラス。秀吉
下知シテ。近邊ノ草青麥ヲ刈ラセ。沼モ堀モ平地
ニナサセ。三日カ間攻ラレシカトモ。城中弱ル氣
色ナシ。秀吉大音揚ケ。中国ノ敵ニ突立ラレテ。養
濃尾張ノ名ヲリスナト。馬廻リ三百騎ハカリニ
テ。透間ナク乗入レラルレバ。大将ニ先ヲ越サレ
ジト。我一ニト進ム程ニ。外際ノ堀四五十間引敷
リ。既ニ城中ニ乗入レバ。主將長井四郎左衛門尉
十計尽テ降ヲ乞シユヘ。秀吉許容レテ命ヲ助ケ
城ヲ請取ラレシカバ。諸人共謀オシ感称ス

筑前守秀吉忍而上国事

茲ニ播州上月ノ城ハ。去年筑前守秀吉。城主上月十郎
ヲ攻滅ホシ。尼子孫四郎勝久。同助四郎道久。山中
鹿之介幸盛ヲ籠置シケル処ニ。毛利右馬頭。輝元
小早川左衛門佐隆景。吉川駿河守元春。五万余騎
ノ多勢ヲ率シ。上月ノ城ヲ攻動カサル。秀吉後詰
ノ夕メニ。加勢荒木撰津守村重ト。高倉山マテ出
張セラル。ト云ヘドモ。城トノ間ニ熊見川ト云
フ大河アリ。如何トモスベキ方便ナシ。是ニ依

テ。京都ヨリ。瀧川左近將監一益。筒井順慶。惟任。日向。守光秀。武藤弥平。兵衛ヲ指下サレ。重子テ北畠三介信雄。同舍弟神戸三七信孝。叔父上野介信包。細川兵部太輔藤孝。蜂屋兵庫頭頼隆。佐久間右衛門尉信盛。指葉安藤氏家以下ヲ指下ケル。此勢五月上旬。播州表ニ下著レテ。高倉山ノ陣ニ相加ハル。此ニ。信長公ノ家嫡。三位中將信忠卿。惟任五郎左衛門尉長秀。三万余騎ニテ。上月表ニ下著アツテ。毛利ト對陣セララル。ト云ヘドモ。其間ニ大河尸ツテ。徒ニ日ヲ送レリ。是ニヨリテ同六月十六日。筑前守秀吉。忍ンテ播州ヨリ馳上リ。上月表ノ次第ヲ言上セラルレバ。信長公聞レ召レ。地利宜シカラザレバ。謀略ノ及バザル。此上ハ皆々上月表ヲ引拂ヒ。神吉志方ヲ攻落シ。其ヨリ三木ヘ取諾ベシト宣ヘバ。秀吉仰ニ從ヒ。播州ニ馳阪リ。諸將ト咨議シ。同キ二十二日。諸勢悉上月表ヲ引拂ハル。去ニヨツテ城中カヲ落シ。同キ二十九日。守將尼子勝久。道久。兄弟自害シテ。城ヲ閑渡シヌ。山中鹿之介ハ。勇謀兼備ノ者ナリシカ。是モ敵ニ計ラレテ。討レケルコソ哀シナレ

神吉落城 附 梶原道菴入道武勇寂期事
去程ニ信忠卿神吉ノ城ヲ攻ラルヘシトテ。北畠

殿及ビ惟住長秀ヲ以テ志方ノ城ヲ押ヘサセ同
 二十三日神吉ノ城ヲ取囲マル神戶三七信孝足
 輕ト先陣ヲ爭ヒ真先ニ進ンテ働キ玉フ城兵モ
 鉄炮ヲツルベ打立シカハ四方ノ堀ニ飛入り夕
 几寄手三百余人見ル中ニ討シテ少シ堀際ヲ甘
 ゲテ漂ヒ夕リ時ニ神吉追手ノ櫓ニ上リ扉ヲ破
 ラズ開カセテ年ノ比二十八九ト見ヘタルガ卯
 ノ花威ノ鎧ヲ著甲ヲ脱テ小姓ニ持セ皆紅ノ扇
 ヲ突キ大音揚ケテ當城ノ大将神吉民部少輔ト
 云ノ者ナリ快ク討死シテ信忠ニ當城ヲ渡スベ
 シト能登ヲ取テ著忍ヒノ緒ヲシメナガラ櫓ヨ
 リ飛下リ城戸ヲ開カセ突テ出逞兵二百余騎ヲ

前後ニ立城戸際ニ付タル寄手一千余騎ヲ一町
 余リ追退ケ味方ヲ顧レバ五十騎計リニ討ナサ
 ル神吉モ戦ヒ疲レ引入ントスル処ヲ秀吉下知
 シテ付入ニセヨト采牌ヲ振ラルレバ早リ雄ノ
 若者共込入ント進ミシヲ民部少輔馬ヨリ飛下
 リ神吉重代ノ備前菊一文字則宗二尺九寸有ケ
 ルヲ打振テ走リカヽリ火ヲ散シテ相戦フ寄手ノ
 多勢取り籠テ既ニ危ク見ヘケルヲ城兵百騎計
 リ突出テ少シ場所ヲ押開クトゾ見ヘシ神吉ヲ
 打連レ城中ヘゾ引入ルケル寄手ハ勢ヲ入レ代

く攻ケル程ニ難ナク外際ノ堀一重ヲ破リケ
 ル。翌二十四日ニハ竹木ヲ伐リ取ラセ。竹把ヲ作
 ラセテ曳々色ヲ出シテ攻寄タリ。其比ニテハ中
 国ニ竹束ト云フ夏ヲ知ラスレテ珍シキ術ゾト
 案ニ相違シ見ヘタリケリ。時ニ二ノ丸ノ橋板ヲ
 ハ子ハツシ行拵バカリ残シ置キタルニ。橋詰ニ
 六尺有余ノ大男星白ノ兜鑿ヲ着黒章威ノ腹巻
 ニ三尺余リノ大身ノ長刀ヲ提ケ鎌倉權五郎景
 政カ後淵梶原十右衛門尉入道道菴トテ三休ノ
 城ヨリ一騎當千ト撰レ加勢トシテ来リタリ。東
 国ノ人々ニ手並ヲ見セント云フマヽニ橋ノ行
 拵ヲ走り渡ルヲ東国勢五六騎打テカ、ル。入道
 カラクト打笑ヒヤサシヤ者共手並ヲ見セント
 長刀ノ石突取り延八方透サス敵三人坂ノ中へ
 切り落シ。一騎ニ手負セ。一騎ト引組押伏テ首ヲ
 取り行拵ヲ静々ト立飯リ暫ク息ツキ扣ヘタリ。
 同ク三木ヨリノ加勢ニ柏原治部右衛門長谷川
 權太夫小寺主馬助中村壹岐道菴入道カ渡リシ
 フ手本一ニ行拵ヲ走り渡ツテ相戦フ此ノゴト
 ク日々戦ヒ送シケル処ニ同キ七月十五日ノ夜
 瀧川左近將監一益惟任五郎左衛門尉長秀城ノ
 東ノ丸へ乘込メバ翌十六日荒木根津守村重中

ノ丸へ乗入ル。西ノ丸ヲ守リシ。神吉藤太夫ハ。民部少輔カ叔父ナリケルカ。渠ガ反忠ニヨツテ。民部少輔職シ出サレ。終ニ佐久間ガ家人副田小十郎。佐野傳右衛門ニ討レヌ。梶原入道ハ。只二騎ニ討ナサレ。己カ役所ニ走り飯リ。櫓ノ四方ニ火ヲカケ。腹撞破リ。猛火ノ中ニ飛入テ。嘗レヲ後代ニゾ残シケル。去レバ入道十三歳ノトキ。父ガ敵備前ノ萩原與市ト云フ大剛ノ者ヲ組討ニセシ程ノ勇エナリ。藤太夫ハ一命ヲ助カリ。志方ノ城へ逃入テ。世ノ嘲哂ニゾ落ニケル。其ヨリ志方ノ城へ押寄ラレシカハ。城主柳橋左京亮降ヲ乞フ。城開渡シテ逃亡ス。其ヨリ三木ニ押寄ラレ。二三ヶ所向城ヲ搦ヘサセ。平山ノ附城ニ。羽柴筑前守ヲ入レ置レ。羽林信忠。卿ハ。信雄。信孝。信包以下ノ諸將ト共ニ。同キ八月十六日。京都ニ飯草シ至ヒケリ。

長治軍評定事

斯テ天正七年二月五日ノ早朝。三木ノ城中ニハ。軍評定アルヘシトテ。座上ハ別所小三郎長治。次ニ舍弟彦之進。友之同小八郎治定。叔父山城守吉親。長臣三宅肥前守治忠以下。宗徒ノ輩次第ヲ守ツテ列坐セリ。時ニ城將長治諸士ニ向ヒ。敵ニ野口。神吉ヲ攻落サレシコト。全ク士卒ノ過ニアラ

ス。偏ニ長治ガ謀ノ拙キニヨツテナリ。敗軍ノ将
 ハ再ヒ謀ラスト云ヘリ。此上ハ各ノ異見ヲ受ヘ
 シト云ヘバ。志水弥四郎。久米五郎。未座ヨリ進ミ
 出。合戦ノ評定士大将ノ術我々モ承リ。其意ニ従
 ヒ候ハント云ヘハ。吉親聞テ。去レバトヨ。先明日
 ノ合戦ハ。辰ノ尅ニ城中ヨリ打出。長屋表。總勢
 ヲ伏セ。若武者五六百人ニ。足輕少々指加ヘ。黒田
 保隅置村ヲ足輕大将トシテ。前ナル河ヲ渡シ。敵
 ヲ偽引キ出スベシ。秀吉ハ血氣ノ破武者。殊一氣
 ヲ得タル勢ナレバ。我一ニトカケ出シ。其トキ味
 方弱。々ト會釈ヒ川ヨリ此方ヘ引取ルベシ。敵兵

流カス。追来ラン。足立ヨキ。処マテ引取リテ。復伏
 兵ヲ一同ニ起シ。立前後左右ヨリ引包ミ。悉ク打
 取ルベシト云ヘバ。久米五郎。嘲笑ヒ。吉親ノ宣フ
 然ルベカラス。古ヨリ河ヲ渡シタル方ハ。勝渡
 レタル方ハ。負ルコト。其例計ベガタシト云フ。
 吉親聞テ。其コソ故アルコトナレ。守戦客戦勢ノ
 多少時ノ可不可。一様ニ論スベカラス。渡シテハ
 勝テ渡サレテハ。負ルト計リ。覚ヘタルハ。軍術未
 練ノ人ノ云フ。夏ナリト云ヘバ。久米五郎。面色損
 シ。我等カ先祖久米十郎。左衛門近氏。赤松上總介
 政村ニ任ヘルヨリ。以来當国ニテモ。数度ノ合戦

アリシ夏共委傳へ承ル去レハ漢ノ韓信カ背水ノ謀モ諸卒ニ必死ヲ知ラセテ心ヲ一致ナラシメンカタメナリ其上別所一黨赤松ノ末流數ヲ尽シテノ合戦ニ僅ノ敵ニ術ヲシテ勝タルナント、中國ノ人々ニ笑ハレンハ口惜キ夏共ナリ敵ハ十倍ノ勢ニテモアラバコソ明日ノ合戦ニハ只二手ニ分チ先一手ハ城州大將ニテ秀吉カ先手ヘカ、リ玉ヘ二ノ手ハ小八郎殿ヲ大將トシテ我等御供仕リ東ノ山ノ麓ヨリ敵ノ本陣ニ切カ、リ一時ニ勝負ヲ決シ候ハント云へハ志水弥四郎聞モ敢入、切、久米殿ノ宣フゴトク我

等ニ、此父事ハ、我ニ、此國事ハ、人則、政村ノ、代ニ、一、レ、ヨ、ニ、ハ、事、不、覺、ノ、名、ヲ、取、テ、明、コ、ノ、合、戦、ニ、六、米、殿、ト、史、ニ、相、傳、ニ、モ、カ、打、負、ナ、ハ、西、ノ、人、傳、陣、ニ、紛、ト、ノ、リ、カ、吉、ト、モ、違、ハ、ン、假、人、軍、ニ、ハ、預、ル、六、ノ、ハ、ニ、換、ノ、カ、ノ、候、ト、云、へ、ハ、長、治、元、年、是、ニ、同、ジ、其、日、ノ、軍、議、ハ、終、リ、ケ、リ



中國太平記卷之第十

忠定

中國太平記卷之第十一

目錄

平居合戰 附羽柴小市郎一番鐘事

久米志水最期

並小八郎治定討死事

丹生山落城

並淡河彈正忠智略事

平田軍事

大村合戰 附彈正忠定範自害事

宮上新城鷹尾落城事

長治友之^子以下自害

附播州平均事^キ

中國太平記卷之第十一

洛下 馬場玄隆信意輯錄

平居合戰 附羽柴小市郎秀長一番鐘事

去^レ程ニ三木ノ城中ニハ。大將小三郎長治剛強ナ
 リト云ヘドモ。若^シ持ユヘ。吉親カ上策ヲ非ナリト
 シ。久米志水カ無謀ノ軍議ニ同シ。小八郎治定。山
 城守。吉親ヲ兩將トシテ指遣ハス。此勢明レハ天
 正^シ年二月六日。夕卯ノ尅ニ打出ル。先手ノ大將ハ。
 別所山城守吉親。士大将ハ。別所右近。小野權光。衛
 門。藤橋弥五三。足輕大将ニハ。保隅越中。置村因幡
 室田内近其外神深民部。小寺若狹。黒田右衛門高

橋源太左衛門。大村九郎左衛門。矢田太即左衛門。
加古右京。廣置九郎以下七十二人。都合二千五百
余騎。一手ニナツテ押出ス。後陣ハ別所小八郎治
定ヲ大将ニテ。侍大将ニハ。別所甚太夫。光枝小太
郎。同入道道碩足。輕太將ニハ。久米五郎。志水弥四
郎。其外後藤又左衛門。垂井武藏服部五郎左衛門。
端山左馬助。加須屋玄番。在田兵庫。永原此介。永郎。
魚住以下六十三人。選兵ヲ撰ミ出シテ七百余騎。
勇ミ進ンテ打テ出。前ナル河ヲ押渡リ。鶴翼ニ陣
ヲ取リ。靜マリ返ツテ備ヘタリ。秀吉山上ヨリ見
玉ヒ。敵ハ城ヨリ打出タルゾ。此方モ相ガ、リニ
カ、レヤト。颯テ勢ヲ押出サル。早リ雄ノ若者共
ニタクト馬ヲ乗出シ。前後左右ニ別ル、ト見ヘ
レガ先手一千余騎。既ニ敵ニ打向テ。火出ルハカ
リ相戦フ。軍半ナルニ。三木方ノ二ノ手。前へ火レ
拵出セシカハ。荒手ヲ入レ代ルカト見ル。処ニ左
ハナクシテ。東ノ方ノ山ノ岨ヲ一文字ニカケ上
リ。秀吉ノ本陣へ。曳ヤ言ヲ出シテ攻登ル。秀吉是
ヲ見玉ヒ。敵ハ指違フテ。我旗本へカ、ルト見ユ。
須破今日ノ軍ニハ勝タル。ソ其エへハ敵味方ノ
間十町余モアリヌべシ。敵其間ニテ。人馬疲レテ
備四度路ニナランハ必定。ソユヲ懸ツテ戦ハハ。

日本書紀 卷之二十一 三

何ソ勝利ヲ得サルベキ。去ナガラ。味方居ナガラ
戦ハ士卒陰氣ニナツテ。勇氣出ガル者ゾ。我旗
ニ従フヘシト下知シテ。敵間半町ハカリト見ヘ
シ時。サア掛ルヨト采牌ヲ打振ラルレハ。士卒一
同ニ関ヲ作ツテカケ出ル何ノ程ニカ拔出ケン。
秀吉ノ舍弟。羽柴小市郎秀長。平居山ノ腰ノ廣ミ
ニカケ出。一番ニ鎧ヲ合ス。士卒等秀長ニ先ヲ越
レケルヲ無念ニ思ヒ。我劣ラシト突テ入り。爰ヲ
詮ト相戦フ。敵味方ノ喚キ叫ブ色ニハ。大山モ崩
レ。坤軸モ碎ケヌヘシ。暫ラク戦ヒ。両方東西へ分
ルレハ。死骸ハ積テ山トナリ。血ハ流レテ川ト

リ。紅葉ノ陰ヲ行。水ノ紅深キニ異ナラス。先平ノ
勢相引ニ引退キ。両方ノ本陣ニ加ハレバ。新平ノ
付タル心地シテ。士卒スカヲ得。兩陣互ニ突カ
リ。百騎ガ十騎。十騎ガ一騎ニナルマテモ。引ナ進
メト云フマヽニ。旌旗ヲ東西ニ入レ違へ。烟塵ニ
白日ヲ掩ハセテ。死生知ラスニ戦フタリ。
久米志水家期 並小八郎治定討死事
敵味方入レ乱レ。早晚果ヘキ軍トモ見ヘサリケ
ルガ。三木方ノ士卒多ク討レ。半町計リ追立ラレ。
既ニ敗軍ト見ヘシ処ニ。久米五郎。志水ニ耽ト目
クハセシテ。二人共ニ。打取タル首ヲ。太刀ノ鋒ニ

指貫キ大将ハ何地ニ壘スゾト。多勢ノ中ヲ押分
 々々通りケル程ニ。既ニ秀吉ノ居ラレケル近所
 ニモナリシカバ。兩人彼首ヲ抛捨秀吉一組ント
 飛カ、ルヲ。馬廻リノ者共十四五騎ニテ。ヲツ取
 籠二人共ニ討取リケリ。斯テ三木方戦ヒ負ケ。右
 往左往ニ逃行ヲ東國勢スカサス喚テ追カクル。
 大将小八郎治定味方ノ勢ヲ引セント。取テ返セ
 ハ近習ノ士百四五十騎馬上ニ鉄炮ヲ持テ守リ
 返セシガ。敵間五六間ニナリシ時。一同ニ打立レ
 ハ追手百四五十騎。馬上ヨリ打落サレ。漂フ処ヲ
 鉄炮ヲ打捨。拔ツレテ切テ入り。敵ヲ颯トマク

立其間ニ引退夕。敵慕ヘハ取テ返シク防ギ戦
 ケル程ニ。僅十四五騎ニ討ナサレ。徐々ト引行ヲ
 三有騎バカリ追カケテ。大将ト見ルハ僻目カ穢
 返セト喚ハリカ、ル。小八郎治定今年十八歳
 血氣上リ詰タル若武者ナレバ返スニ難キ責カ
 トテ。十文字ノ鎧投ケ取テ返シケルヲ。木江采女
 ト云シ扈從鎧ノ袖ニスガリ夫猛虎者不顧提上
 肉トコソ承リ候ヘ尺打捨テ引セ玉ヘト云ヘハ
 治定聞テ敢ズ殺人刀活人劔ト云ヒ捨テ。敵中ニ
 カケ入ツ夕。羽柴小市郎秀長ノ郎等。樋口太郎
 組ント相追ツク処ニ。樋口が家人中ニ隔タリ。打

ニカ、レヲ。小八郎十文字ノ鑓ニテカケ倒ス其
余リ横手ノ敵ノ綿嘴ニカ、リレカハ。治定天色
ヲ出シ引取ントスル処ヲ樋口ヲト走り寄り無
手ト組テ上ヲ下ヘト返シケルカ。樋口治定ヲ押
伏テ終ニ首ヲ擽落ス十四五騎ノ者共此彼ニテ
戦ヒケレカ。大将討レヌト聞ヨリモ皆下所ニ相
集リ向フ敵ヲ追拂ヒ。治定ノ死骸ノ前ニ跪ト一
同ニ腹ヲヅ切タリケレ。去程ニ山城守吉親八百
騎ハカリヲ從ヘ小高キ岡ニ取り登ツテ押ヘク
リ東國勢找討取ント競ヒカ、ル。三木勢ノ中ヨ
リ。高橋弥五左衛門上原越中同孫之ハル神沢又正

上月宮内等直先ニ進ニ戦ヘハ。東國勢必死ノ敵
ニ切り立ラレ半町バカリ引退ク。其間ニ颯ト引
取り跡ヲ見レバ。飯尾長吉。榊田傳藏。藤田宗六。上
卒二十人バカリニテ。近ヅク敵ヲ待居タリ。廣瀬
左衛門一定。渠等ハ討ルベシ。連飯ラント云フジ
吉親イヤク。加祿ノ期ニレブトキ者ハ捨ル者ゾ
トテ引行ケハ。彼三人モ跡ニ付テ退キケリ。又引
務レテ武者二人。田ノ畔ヲ傳ヒニ落ケルヲ東國
勢ハ騎ニテ追カクル。其程五六間ニ近ツケテ。二
騎共ニ馬ヨリ飛下リ道ノ左右ニ立テ。追來ル敵
ノ馬ノ後膝ヲ長刀ニテ薙倒シク敵三騎目ノ前

ニ討取り我々ハ別所累代ノ土。飯尾吉右衛門依
 藤弥太郎ト云フ者ゾ近寄テ過テスナト。高ラカ
 ニ喚ハレバ。死リ五騎ノ者共。馬ヲ抑ヘテ逃ク得
 ズ跡ニツバケル者共。只遠矢ニ射取レトヒレノ
 キケルヲ。大将秀吉選ニ見テ。アタラ勇士助ケヨ。
 三木落居以後。召仕フベシトゾ制セラレケル。今
 日城兵ノ討死ヲ数フルニ。宗徒ノ者共三十五人。
 都合七百八十余人ナリ。

丹生山落城

並淡河彈正忠智略事

茲ニ撰州ノ領主荒木撰津守村重。主君信長ハ公ヲ
 叛キ逆心ノ色ヲ立テ。播州ヨリ都ヘノ往來自出

ナラサレハ秀吉荒木カ方ニ行キ様々是ヲ曝カ
 ルト云トモ村重曾テ承引セズ。前公方義昭
 及ビ毛利輝元ニ一味シ。高槻茨木ノ兩城ヲ討ト
 フ以テ味方トナシ。有園一城ニナシ。播州ヨリ都
 ヘノ道中ツマリクニハ城ヲ搦フ。三木ノ城中ニ
 ハ是ヲ聞荒木カ逆心ノ色ヲ立ルハ。一定敵ヲ追
 拂フベキ由ナリ。荒木カ端城兵庫ノ鼻熊ヘ内通
 シ。丹生山ニ一城ヲ取立。淡河ノ城ヲ傳ヒ道トシ
 テ。毛利家ヨリ三木ノ城ヘ兵糧運送ヒント謀リ
 ケリ。此丹生山ト云ヘルハ。撰州第一ノ切所ニテ
 山ノ高サ二十丈。四方巖石ヲ疊ク上ケクルガ如

クニシテ岩ヲ傳フニ道滑カナルニ。近郷ノ一隊
 二千余ヲ催シ集メテ楯籠ル。秀吉打笑ヒ。何程ノ
 復ノアレベキゾト夜討ニ馴タル兵三百人勝リ
 立風雨ノ夜指遣ハサレ。城兵等周章騷テ。谷ガケ
 トモ云ハズ逃散ルヲ。追カケク撫切ニシテ。勝関
 ヲ揚テ引取リケリ。淡河ノ城主。淡河。彈正。忠定。範
 是ヲ聞。丹生山落城ノ上ハ。當城ヘ押寄ベキ。夏。四
 五日ヲ過ベカラズ。思ノニ天時不知地利。地利不
 如人。和ト云ヘリ。地ノ利ヲ專ラトスル。夏。肝要ナ
 カ。防戦ノ用意ヲスベシトテ。一族郎等五六百人。
 足輕人夫三百人。普請ノ道具ヲ持セ。日。三。城ヲ

出敵ノ奇來ルベキ道ヲ掘。落シ穴ヲ掘。或ハ馬
 ガク。リ。車。麥。ヲ。マ。カ。セ。逆。茂。木。大。綱。ヲ。張。リ。ケ。ル。處
 ニ。如。河。ナ。レ。者。カ。云。ヒ。水。セ。レ。ヤ。ラ。ン。彈。正。忠。油。斷
 シテ。今。朝。城。ヲ。出。普。請。ヲ。仕。ル。由。寄。手。ノ。陣。ニ。風。聞
 ス。羽。柴。小。市。郎。秀。長。是。ヲ。聞。大。將。小。勢。ニ。テ。城。ヲ。出
 ル。コ。ソ。幸。ナ。レ。ト。五。百。余。騎。ヲ。二。手。ニ。分。ケ。不。意。ニ
 押。奇。ラ。レ。ケ。ル。處。ニ。被。掘。切。車。麥。ニ。支。ヘ。ラ。レ。少。シ
 猶。豫。シ。抑。ヘ。タ。リ。淡。河。ガ。勢。悉。ク。生。肌。ニ。テ。切。リ。カ
 ハ。ラ。ン。ト。ス。ル。ヲ。彈。正。忠。輝。留。メ。各。ハ。物。ニ。狂。フ。カ
 味。方。四。五。十。人。多。勢。ノ。中。ヘ。カ。ケ。入。リ。タ。レ。バ。ト。テ。
 何。ト。テ。敵。ヲ。退。ク。ベ。キ。我。希。代。ノ。行。ヲ。ナ。シ。速。ニ。敵

ヲ退ケ。未代武士ノ鏡トナサント。近郷ニ足輕共
ヲ走ラレメ。陰馬一疋引來ラン者ニハ。錢三百文
ヅ、與フベシト觸ナセケレバ。時ノ間ニ陰馬五
六十疋牽來ル。彈正忠大ニ悦ビ。彼馬ノ口ヲ牽ヒ
敵ノ方ヘ向ヒ道ノ廣ミヘ押出ス。小市即是ヲ見
テ。アレ躰ノ小勢馬武者ニテ。驅散レテ捨ヨト下
知セラルレバ。早リ雄ノ者共馬上ニ鑣ヲ提ケ驅
散サントスル必ヲ。彼陰馬五六疋。一同ニ追放
チ。散々ニタ、キ立閃ヲ作り手ヲ打タ、キ。喚士
叫ンテ追入ルレバ。寄手ノ方ノ馬共駈マハリ駈
倒シ。十方ニ立テ躍リマハリケレバ。土崩天ヲ

メ。天地震動シ。上ヲ下ヘト閃着ス。軍勢ハ悉ク駈
落サレ。己ガ持タル太刀。長刀ニ貫カレ。互ニ疾ヲ
被リ。綱ミ合ヒ踏合ヒ散乱スル必ヲ。須破切り散
ラセト云フ程コソアレ。一族郎等五十八人。五百
余騎ノ敵中へ。面モ振ラズ切テ入ル。此馬爛遠ク
十方ニ見ヘケレバ。城ニ残り居タル。舍身淡河新
三郎。百四五十騎ニテ。一騎ガケニ馳來リ。个様ノ
軍ニハ逃ルヲ追ニシクハナシト。淡河兄弟。甥ノ
江見又四郎。從弟相原大膳。宇野兵庫。高田與市。真
前ニ進ミ追討ニスル。其數ヲ知ラス。定範下知シ
テ。余リ長追ヲスベカラストテ。勢ヲマトメ引返

ス。時ニ江見又四郎。今日ノ合戦ハ不慮ニ突リ。不
測ノ術ヲ以テ。大利候夏。他国マテモ隠レ候マシ。
定メテ秀吉肩腹ヲ立。明日ハ必寄来ルベシ。此小
勢ヲ以テ争カ叶ヒ候ベキ。落入トナリテ。三木ノ
城へ退カバ。何ノ益カ候ベキ。此勢ヒニ引取り候
ハバ。恐ラクハ淡河一家ノ士ニ。肩ヲ双ブル者候
ハジト云ヘバ。皆此儀尤ナリト。早速城ヲ引拂ヒ
三木ノ城へゾツボミケル。

平田軍事

去程ニ藝州ヨリノ加勢トシテ。吉川駿河守元春
小早川左衛門佐隆景多勢ヲ卒シ。三木ノ城ヲ見
續ンタメ。兵船二百余艘ニテ。明石魚住ニ押寄テ。
海邊ニ要害ヲ搦へ居タリシヲ。秀吉見玉ヒ。三木
ト魚住トノ間ヲ取り切り。敵ノ通路ヲ妨ケヨト。
君峯以下三十余所ノ附城ヲ搦へ。其間ニ役所ヲ
カケ。堀乱株逆茂木ヲ連子。往來ヲ留メケリ。毛利
勢是ヲ見テ。僅六七千ノ勢ヲ以テ。其間六七里ヲ
打囲ミヌル陣勢ハ。奇效ナル秀吉カ軍術ナリ。然
リトテ後詰ノ我々カ。徒ニ守リ居ル口惜サヨト。
忍ビヲ三木へ指遣ハシ。来十日ノ丑ノ尅敵陣へ
押寄せ。狼煙ヲ揚ケ候ハン。其時城中ヨリ突出玉
へ。一時ニ敵ヲ拂フベシト云ヒ送レバ。別所大ニ

悦亡御衛ノ段其意ヲ得候然レドモ此間既ニ城
 中兵糧尽テ大ニ困窮仕レバ九月ノ夜城ヨリ案
 内者ヲ進ジ候ハン。人夫ヲ以テ兵糧ヲ運ビ入ル
 術頼入候ト返事シテ其夜ニナレバ城中ヨリ案
 内者百余人ヲ魚住へ差遣ハス。藝州ノ陣ヨリモ
 生石中務ヲ大将ニテ。秀吉ノ與力。谷大膳亮平田
 ト云フ処ニ附城ヲ構へ守リ居ラレケル処へ不
 意ニ押寄攻戦フ。深夜ト云ヒ思ヒ寄ラサルコト
 ナレバ士卒過半討死ス。大膳亮ハ勇剛類ヒナキ
 人ナレバ長刀ヲ投ケ馳廻リ七顛ハ倒目ヲ驚口
 カシテ戦ハレケル処ニ武者一人生籠ヲ持テ突
 カルルヲ長刀ヲ以テタノキ落シ逃ル処ヲ追カ
 ケ竹破ニ切破レシガ余リニ強ク切付ケ鞍ノ後
 輪ニ長刀ヲ切り込ミテ鏑本ヨリ打折レシカバ
 太刀ヲ拔散々ニ戦フテ数人切り伏セケルニ又
 敵多勢取囲ミ大膳討死ヲ遂ラレケリ。其間ニ手
 鳴而之允渡邊藤右衛門七八千人夫ヲ以テ平
 田ノ城ノ後ヨリ三木ノ城へ兵糧ヲ入レケル
 ガ夜明方大村ニ着シ時相圖ノ狼煙ヲ揚タリケ
 リ。然ルニ平田ノ城悶着スルヲ見テ渡邊手鳴等
 兵糧ニ構ハズ横合ニ平田ニ押寄堀柵ヲ打崩ス。
 三木ノ城共モ相圖ノ狼煙ヲ見ルヨリ早夕平田

ノ城ニ押寄ル。谷ガ即等共少モ臆セス。櫛ノ木一本モ敵ニ取ラル、者ナラハ。後日ノ嘲リ遁レカ
タシト互ニ味方ヲ耻シメテ。爰ヲ詮ト戦フタリ。

大村合戦

附 彈正忠定 範自害事

秀吉是ヲ聞、只一騎ニテ驅出ラルレバ。士卒一千
余騎。後レジト馳来ル。秀吉士卒ニ向ヒ。斯マデ相
圖ヲ定メヌレバ。敵一手ニハ働クマジ。一術アル
ベシ。四方ニ目ヲ付ケ馳ラル、処ニ。谷討死仕
ル早々後詰ナクンバ。落城只今ニ候ト注進ス秀
吉怒ツテ只一息ニ馳着ル。別所山城守三千余騎
ニテ。大村ノ前ニ備ヘタレバ。秀吉下知レテ。三木

ト。大村トノ中ヲ押隔テヨ者共ト笠坂ノ上ヨリ
鋒矢ニナレテ打テカ、ラル。三木勢是ヲ見テ。
奮翼ニ左右ヘ颯ト引別レ。中一取り圍討ントス
ルヲ。少しモ猶豫ハス。一文字ニカケ破リカケ拔
カケ入り相戦フ。天下分目ノ軍今日ニアリト見
ヘケルガ。三木勢少し色メキ立ヲ。秀吉身ヲ押テ
須破カ、レヨト。真先ニ進マル、三木勢叶ハス
咄ト崩レ敗走ス。別所甚太夫。同、三太夫。同、左近光
枝小太郎。同道碩櫛橋弥五三。三宅與平次。砥堀弥
太夫。高橋平左衛門。以上十人。士卒九十六人。一度
ニ取テ返シ。黒炯ヲ立テ相戦ヒ。悉ク討死ス。淡河

彈正忠定範ハ。主從五騎ニ討ナサレ。皆朱ニナツ
テ。細道ヲ落行キケルガ。敵二十騎ハカリニテ追
カケシカバ。淡河郎等共ニ向ヒ。我々此躰ニテハ
敵ノ馬ニ當倒サレ。犬死センハ一定。倡敵ヲ方便
リ討ノト。五人共ニ手ヲ取リ組指違ヘタル真似
ヲシテ。ウツブキニ伏居タリ。敵十四五騎馬ヨリ
飛下リ。首ヲ取ント走リ来ルヲ。伏ナガラ切り拂
ヘハ。敵兵五人諸膝ナガレ。屍居ニ百ト伏ヲ。五人
共ニ起上リ。敵共ノ首ヲ取リ。其余ノ者共四方へ
ハツト追散シ。一同ニ咄ト笑ヒ。敵ノ首ヲ面々ノ
膝ノ上ニ抱ヘ。五人共ニ腹カキ切テツ伏タリケ

レ。天晴希有ノ倒キ何者ナルソト其母衣ヲ見レ
バ。村上源氏具平親王二十三代ノ後裔。淡河彈正
忠定範ト書附タリ。秘ハ陰馬ノ術モ此。彈正ニテ
アリレニヤ右。今無双ノ良将カナトゾ感レケル
也。日羽榮勢へ討取ル處ノ宗徒ノ首七十三級七
卒都合八百余級トフ聞ヘシ。

宮上新城鷹尾落城事

羽榮筑前守秀吉ハ。大村ノ合戦ニ不利ヲ得。其ヨ
リ附城ヲ段々ニ附サセ。東ハ長墳南ハ八幡山西
ハ平田北ハ長屋マテ附寄ラレケル程ニ向城ト
敵城ノ間僅五町ヲ隔テタリ。一丈有余ノ塙ヲ二

重ニ附ク其間へ石ヲ入レ堀ヲ深クシ井様ヲ掘
ケ柵ヲ振リ逆茂木ヲ引キ河ニハ大綱亂株六石
ヲ入レ橋ニハ番兵ヲ置テ諸人ノ往來ヲ改メ後
口ニハ諸勢ノ陣屋ヲ作り並べサセ辻々ニ木戸
ヲ立籬ヲ燒夜廻ノ士怠リヲ絶ス秀吉近習ノ士
ヲ三百人ツゞ六番ニ分テ役所ニ名字ヲ書附紐
頭ニ判形セサセ懈怠ナク相勤ムべシト下符シ
テ食攻ニツセラレケル案ノゴトク城中今ハ糧
尽テ食事ヲ断ユト十余日馬ヲ殺シ食フト云へ
ドモ漸々ニ弱リ果場ノ下狹間ノ陰ニ伏シ倒ル
秀吉城中ノ堀ノヤウヲ見テ城中糧尽ツリト覺

ユルゾトテ天正八年正月六日馬廻リバカリニ
テ官上ノ要害ニ打寄せ忽ニ乘取リ其日諸軍勢
ヲ寄ラル。城ノ際三町ニハ過ス秀吉官上ヨリ
城中ヲ見下シテ敵兵既ニ力尽レゾト同十一日
南ノ橋へ士卒ヲ出シ山下ヲ燒拂ハセ秀吉秀長
兩將ニア長治カ舎身疾之進友之カ守リ居レ鷹
尾ノ城山城守吉親カ新城ニ攻入ラル。果テ
ル敵兵等鎧ヲカクルカモナク生肌ニテ諸肩脱
三百人計リ切り出ル思ヒ切タル形勢大剛ノ者
ヨトハ見ヘナガラ手足備クバキカナケレバ悉
切り伏ラル。老武者共ハ雜兵ノ手ニハカハラレ

ト。三手ノ城戸ヲ開キ。各一面ニ座レ。三十八人一
同ニ獲ラ切ル。秀吉首共ヲ一々ニ實檢シ。其ヨリ
諸ノ城ニ押寄ラル。

長治友之以下自害 附播州平均事

別所小三郎長治ハ。三木ノ城ニ住スル。夏十四代。
威ヲ因中ニ振ヒレカドモ城中既ニ粮尽テ。士卒
鋒ヲ取ルニカナレ疲レ切タル弱兵ヲ以テ敵ノ
馬一カケ倒サレンモ口惜シ。如シ我死シテ。從
兵ヲ助クベシト宇野右衛門ヲ使トシテ。我等兄
弟。及ビ山城守生害ヲ遂候ベシ。然ル上ハ罪ナキ
士卒ヲ助ケ玉ハルベシト。一卦ノ狀ヲ認メ。淺野

弥兵衛尉長政ノ方へ指遣ハス。淺野頼ニ使者ヲ
相具シ。秀吉ノ前ニ出。彼狀ヲ復見ニ入レラレレ
カハ。秀吉暫ク目ヲ塞キ。頭ヲ低思案アリ此度ノ
防戢利ニ當ラザル。夏天命遁レザル処ナリ。去ル
ニヨツテ長治兄弟并吉親自害シテ。衆命ヲ助ケ
タキ由。誠ニ大將士ヲ愛スルノ道。良將ト云ツヘ
シ。此上ハ三人生害セラルベシ。士卒助命ノ儀相
違アルベカラズト。返狀アツテ。柳樽二十。看種々
人夫ニ持ヒテゾ送ラレケル。長治返書ヲ披見シ
翌十六日。正月ノ早朝。諸士ヲ悉ク集メ。去スル天
正六年三月上旬ヨリ。當年ニ及ブマテ。堅固ニ城

ヲ持レコト各勇義ヲ勵ミシユヘナリ然レドモ
 運命尽テ城中飢餓レスレバ軍ノ勝負ヲ見果ル
 マテモナク明日申ノ尅某兄弟吉親自害シテ残
 兵ノ命ヲ助ケント思ヒ秀吉ニ望ミシニ早速許
 容レ殊ニ情深クモ酒肴ヲ送ル冬ト共ニ哀期ノ
 酒宴ヲナスベシトテ名残ノ酒盛ラヅレタリケ
 ル翌レハ十七日ノ早朝城將小三郎長治内ニ入
 ハ山城守ガ妻男子二人女子一人ヲ左右ニ置長
 治ヲ見テ守リ刀ヲ拔三人ノ子共ヲ刺殺シ其刀
 ヲ以テ自ラ首掻切テ伏ス此女房ハ畠山總州ガ
 女ナルガ女ニハ尤希有ノ哀期ナリ是ヲ見テ長

治三歳ノ男子ヲ刺殺シ同ク妻女ヲ刺殺ス是
 ハ丹波ノ波多野秀治ガ女ナリ茂之進友之モ同
 ク妻女ヲ刺殺ス是ハ但馬ノ山名和泉守豊恒ガ
 女ナリ斯テ七人ノ死骸ヲ廣庭ニ下シ葬遣戸ヲ
 碎キテ火葬ニシ其後客殿ニ置一疊レカヒ兄弟
 左右ニ座シテ城州方ヘ使ヲ遣ハシ兼日定メ置
 シ生害只今ニ候ト云送レバ吉親俄ニ心愛シ主
 ヲ失テ士卒何ゾ余ヲ續ントスル此上ハ切出テ
 一同ニ討死ムント既ニ城ニ火ヲ掛ントレケレ
 バ即等共是ヲ疎ク言親一人ノ不仁ニテ多岐ヲ
 殺ガントスルヤトテ忽吉親ヲ討取リケリ其後長

治切腹スレハ長臣三宅肥前守治忠治忠其刀
ニテ腹十文字ニ搔切リ。腸ヲ臍ツカニ出シテ伏タリ
ケリ。長治が舍弟。友之進友之。兄カ自害シタル腸
指ヲ取テ。同夕自害ス。時ニ長治二十三歳友之二
十一歳ナリ。皆々辞世アリ。

今ハ只恨モアラジ諸人ノ命ニ替ル我身ト思ヘハ 長治
諸共ニ果ルウキ身ノ嬉シサヨ後ニ先ニ有アル世
命ヲモ思ハサリケリ梓子友之示ノ代迄モ名ヲ思フ身ハ
頼メユレ後ノ世迄ニ翼ヲモ並ル程ノ契リナリケリ 友之妻
後ノ世ノ道モ迷ハジ思子ヲ連テ出ヌル行未空 吉親妻
君ナクハ存身ノ命何カヒン残テ甲斐ノ有世成トモ 治忠

翌十八日筑前守秀吉。三木ニ入城アリ。三人ノ目
ヲ。江州安土ニ指遣ハサル。爰ニ勢州ニ白子木工
左衛門トテ和歌ニ名ヲ得シ者アリケルカ播州
ニ来リ三木ノ城ニ登テ軍功ヲ賀シケレバ秀吉
悦ビ。土産コソアルラメトアレバ白子

播磨ナル三木赤松ヲ切り捨テ羽柴ゾ山ノ大木トナル
ト申ケレバ秀吉手ヲ拍テ。別所ハ赤松家ナレバ
能モ取合セタル秀歌ナリト感ゼラル。斯テ秀吉
五着魚任志方ノ城々ヲ拔テ播州一國平均シケル
カ。終ニ天下ノ武将ト仰ガレ玉ヒケル社目出タケレ

中国太平記卷之十一 大尾

全

杉岡石倉堂藏板軍書目錄

重編應仁記	廿蒲生軍記	六太閤軍記	四
殘太平記	土淺井軍記	六天正軍記	十
四海太平記	立明智軍記	十甲越軍記	繪入 初三編 各 士
中國太平記	十甲越戰爭記	七平泉實記	繪入 士
西國盛衰記	立川中島合戰評判	一本曾義仲記	繪入 十
北陸七國志	廿繪本玉藻譚	五赤松軍記	繪入 士

文政六癸未年正月

心齋橋通博勞町北工入

大阪書林

河内屋長兵衛

